

令和6年度
卒業生・修了生・事業所へのアンケート調査
報告書

I 卒業生・修了生へのアンケート調査

三重大学教育推進・学生支援機構
教育企画部門

目次

1. 調査の概要と分析対象者の属性について.....	2
2. 三重大大学の教育に対する満足度.....	6
3. 三重大大学の教育・研究で成長したこと.....	20
4. 社会生活の場で重要だと思う力.....	34
5. 大学／大学院生活で重点を置いたこと.....	48
6. 三重大大学との関わり方.....	64
7. 三重大大学で学びたいこと.....	78
8. 卒業生・修了生からの意見・感想.....	86
9. 資料.....	93

1. 調査の概要と分析対象者の属性について

1.1 調査の概要

1.1.1 調査の目的

三重大学が提供している教養教育・専門教育が、社会のニーズに相応しているかを検討し、三重大学の教育の改善に活用する目的で、「三重大学卒業生」（本調査では、「卒業生」という）及び「三重大学大学院修了生」（本調査では、「修了生」という）を対象に、教育満足度や自己評価、大学／大学院生活で重点を置いたこと、後輩に重点を置いたほうが良いと伝えたいこと、大学／大学院の関係者との関わり方、今後関わる事が予想される者、今後三重大学で学ぶ機会があるとしたら学びたいことに関するアンケート調査を実施した。

1.1.2 調査の設計

(1) 調査対象 令和5年度三重大学卒業生及び修了生

(2) 調査時期 令和6年12月から令和7年2月まで

(3) 調査方法 Google Formによるウェブ調査

卒業生／修了生が在学中に届け出していた保証人の住所宛てに、依頼文と質問文を記載した調査票を同封した封書を郵送した。依頼文に、回答用 google form へのリンクが記載しており、回答は当該フォームから行うよう依頼した。

(4) 回収数（率）

表 1-1 卒業生及び修了生の回収率

	卒業生	修了生
発送数(*)	1,307	413
回収数	138	65
回収率(%)	10.6%	15.7%

* 発送数には、宛先不明等により郵便物が配達されなかった数は含まない。

1.1.3 調査の内容

調査した項目内容を以下に示す。使用した調査票は、資料として、本報告書の末尾に添付した。なお、「役立ったと思う三重大学の授業」については、授業が特定されるのを避けるため、本報告書では割愛した。

表 1-2 調査内容（卒業生及び修了生対象）

該当する章	項目内容	項目数	詳細
1	調査の概要と分析対象者の属性	3項目	学部・学科・課程／研究科・専攻、現在の職種、現在の居住地
2	本学の教育に対する満足度	卒業生:16項目 修了生:12項目 6段階評定	本学の教育に対する満足度をたずねた。 選択肢は「非常に不満」、「不満」、「やや不満」、「やや満足」、「満足」、「非常に満足」の6つである。
3	本学の教育(・研究)で身についた4つの力	12項目(卒業生・修了生共通項目) 5段階評定	本学の教育によって、「4つの力」の各要素が成長したと思うかをたずねた。 「成長しなかった」から「かなり成長した」の5段階の中から、あてはまるものをひとつ選択。
4	社会生活の場で重要な4つの力について	12個の選択肢の中から自由選択	卒業後の社会生活の場で、重要だと思う4つの力についてたずねた。
—	役立ったと思う本学の授業	自由記述 2項目	卒業後、自分に役立ったと思う授業やどのような点が役立ったかについてたずねた。
5	大学／大学院生活で重点を置いたこと	卒業生:19個の選択肢の中から自由選択 修了生:16個の選択肢の中から自由選択	大学／大学院生活の中で、重点を置いたことについてたずねた。
	後輩に重点を置いたほうがいいと伝えたいこと	卒業生:19個の選択肢の中から自由選択 修了生:16個の選択肢の中から自由選択	大学生活を始める後輩にアドバイスをすると仮定し、重点を置いたほうがいいと伝えたいことについてたずねた。
6	大学／大学院の関係者との関わり方	4つの選択肢の中から1つ選択	卒業後に、本学や本学の関係者とのように関わっていききたいかについてたずねた。
	大学／大学院の関係者や出身者の中で今後関わる者が予想される者	7つの選択肢の中から自由選択	各本学の関係者や出身者の中で、今後関わる者が予想される者についてたずねた。
7	本学で学びたいこと	8つの選択肢の中から自由選択	今後本学で学ぶ機会があるとしたら、学びたい内容
8	意見と感想	自由記述	本学の教育についての意見と感想をたずねた。
	新入生へのアドバイスやメッセージ	自由記述	新入生へのアドバイスやメッセージをたずねた。

1.2 分析対象者の属性

1.2.1 在学中の所属学部／研究科

在学中に所属していた学部／研究科ごとに分析対象者数を集計した。集計・分析について、学部ごとの特徴を明らかにするため、全卒業生の結果だけでなく、学部別の結果を掲載した。ただし、修了生については回答数が少ない研究科があるため、研究科別の掲載は行わないこととした。

表 1-3 分析対象者数（卒業生）

人文学部	教育学部	医学部	工学部	学生物資源部	合計
28	25	30	27	28	138

表 1-4 分析対象者数（修了生）

人文社会科学研究所	教育学研究科	医学系研究科	工学研究科	生物資源科学	地域イノベーション科学研究科	合計
0	4	15	28	13	5	65

1.2.2 現在の職種

分析対象者の現在の職種を集計した。

表 1-5 分析対象者の現在の職種

	公務員	教職員	団体職員	一般企業	医療関係	自営業	大学院在学中	アルバイト	無職	その他	合計
卒業生	16	17	2	38	30	0	30	2	1	2	138
修了生	4	11	2	37	8	0	1	0	1	1	65

1.2.3 居住地

分析対象者の現在の居住地を集計した。

表 1-6 分析対象者の居住地

	三重県	三重県外	合計
卒業生	70	68	138
修了生	29	36	65

2. 三重大学の教育に対する満足度

2.1 三重大学の教育に対する満足度（卒業生）

三重大学の教育（16項目）について、満足している程度を「非常に不満」から「非常に満足」までの6段階で回答を求めた。以下に、卒業生からの全回答（138名）と卒業学部ごとの平均値と標準偏差、満足群を示した。平均値と標準偏差は、満足の度合いを表す6段階評定において、「非常に不満」1点、「不満」2点、「やや不満」3点、「やや満足」4点、「満足」5点、「非常に満足」6点として算出した。満足群は、満足度の6段階のうち、「やや満足」、「満足」、「非常に満足」のいずれかに回答した卒業生の割合とした。なお、経験した卒業生のみ回答する項目として設定した「15 理系基礎関係授業」に関しては、学部によって回答者が非常に少なかった。そのため、一般化が難しい場合があることに留意する必要がある。

2.1.1 三重大学の教育に対する満足度（全卒業生）

卒業生からの全回答（138名）の平均値と標準偏差、満足群を算出した。その結果、平均値では、16項目のうち15項目において「やや満足」に該当する4.0以上が示され、三重大学の教育に対して、総じて満足が得られていることが分かった。中でも4.50以上の値となった項目は、高い順に「16 卒業研究指導」、「15 理系基礎関係授業」、「12 学部専門の授業」、「4 学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)」、「2 研究環境(文献、機器・研究水準など)」であった。また、満足群は、最も高い項目では92.9%、最も低い項目では65.9%と項目によってばらつきが大きかった。90%以上の高い満足度の値となった項目は、「16 卒業研究指導」と「15 理系基礎関係授業」で、それぞれ92.9%、92.3%であった。

一方、教養教育の授業に関しては、相対的に満足度が低かった。満足度平均値が低い方から、「10 教養教育の保健体育関連授業」3.88、「9 教養教育のキャリア系授業」4.18、「8 教養教育の情報系授業」4.27、「10 教養教育の授業全般」4.29で、満足群は各々65.9%、77.5%、81.1%、76.9%であった。また、これらの項目の標準偏差は、1.41から1.03までという高い値となっており、満足した卒業生と満足しなかった卒業生の間でのばらつきが大きいことを示している。「10 教養教育の保健体育関連授業」に関しては、平均値が「やや満足」に該当する4.0にも至っておらず、満足群も比較的低い。その他の項目は、他の項目の結果に比べると満足度が低いものの、示された数値はある程度良好であるといえる。

要するに、教養教育の授業に関する満足度が相対的に低く、なかでも「10 教養教育の保健体育関連授業」の満足度が特に低いという結果である。しかし、この結果は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により学習環境が大きく変化したことが影響している可能性を含めて解釈する必要がある。本調査の対象である令和5年度三重大学卒業生は、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、日本で初めて緊急事態宣言が発出された令和2年度に入学した学生である。そのため、入学年度およびその翌年度において、授業のオンライン化をはじめとして教育環境が大きくかつ急速に変化した。このことが、教養教育に対する学生の満足度に少なからず影響を及ぼしたと推測される。

表 2-1 全卒業生（138名）の三重大大学の教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)	
1	教育全般	4.49	0.92	89.1	
2	研究環境(文献、機器・研究水準など)	4.52	0.98	85.5	
3	進路支援(就職や進学、資格取得など)	4.41	1.03	86.3	
4	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.59	1.02	87.7	
5	学生生活に対するサポート	4.34	0.99	81.8	
6	教養教育の授業全般	4.29	1.08	76.9	
7	教養教育の語学系授業	4.35	1.01	82.6	
8	教養教育の情報系授業	4.27	1.03	81.1	
9	教養教育のキャリア系授業	4.18	1.12	77.5	
10	教養教育の保健体育関連授業	3.88	1.41	65.9	
11	教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	4.39	1.05	82.6	
12	学部専門の授業	4.61	0.97	89.1	
13	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.38	1.09	82.7	
14	現場実習や現場体験(インターンシップなど)	4.41	1.04	86.2	
※経験した人のみの回答				回答者数(人)	
15	理系基礎関係授業	4.62	0.98	92.3	65
16	卒業研究指導	4.89	0.96	92.9	113

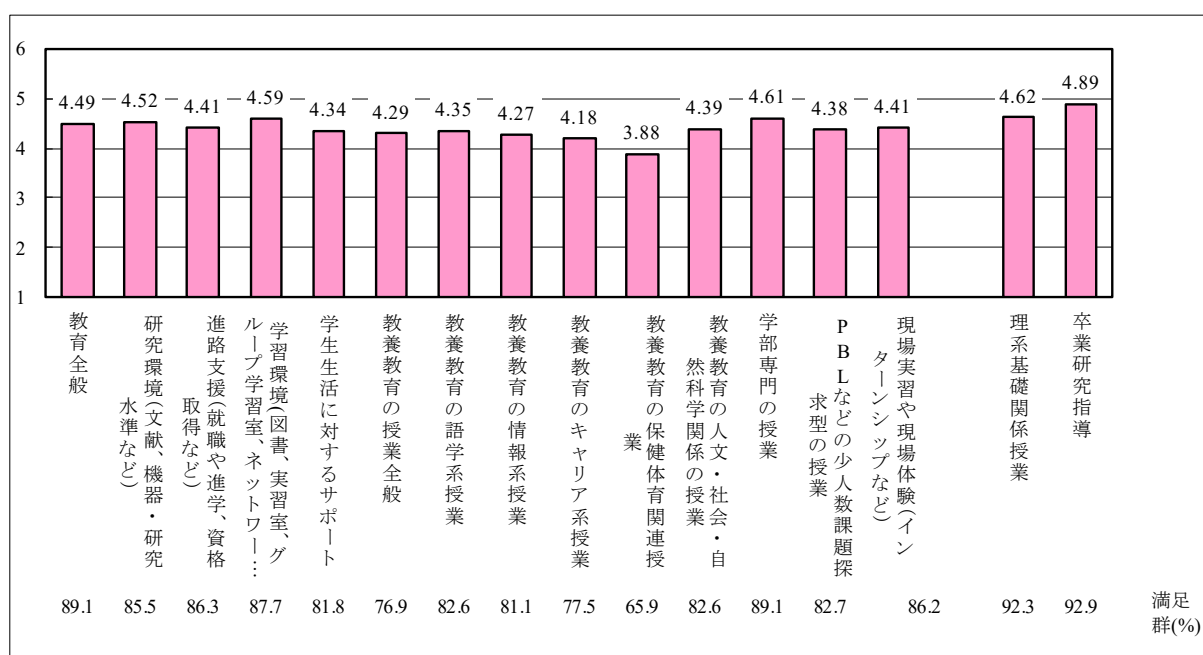


図 2-1 全卒業生（138名）の三重大大学の教育に対する満足度平均値

2.1.2 三重大大学の教育に対する満足度（人文学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、人文学部卒業生（28名）の満足度平均値と標準偏差、満足群を算出した。その結果、満足度平均値では、16項目のうち15項目において「やや満足」に該当する4.0以上の値、そのうち10項目において4.5以上の値となり、人文学部の教育に対して、総じて満足が得られていることが分かった。満足度平均値が4.70以上であった項目を高い順に示すと、「16 卒業研究指導」5.18、「12 学部専門の授業」4.79、「11 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業」4.75、「1 教育全般」4.71、「2 研究環境（文献、機器・研究水準など）」4.71となる。

また、満足群に関しては、項目によって95.5%から60.7%までありばらつきが大きかった。中でも満足群が90%以上の値となった項目は、高い順に「12 学部専門の授業」と「1 教育全般」96.4%、続いて「16 卒業研究指導」95.5%、「2 研究環境（文献、機器・研究水準など）」92.9%、「11 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業」92.8%であった。

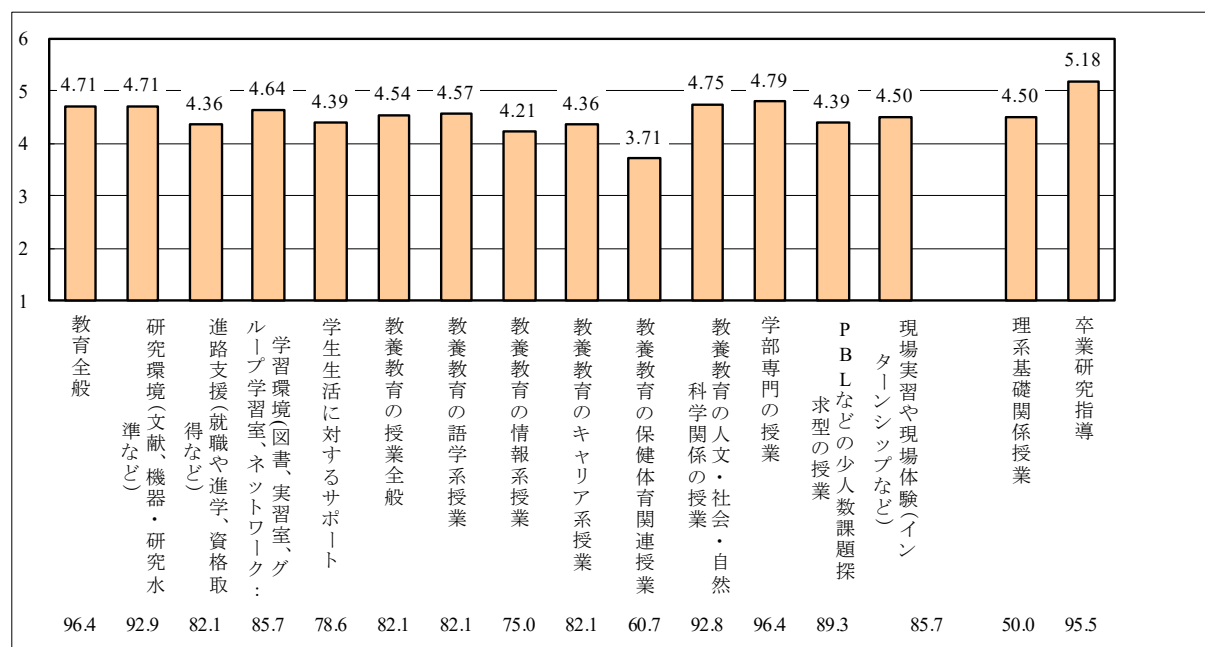
一方、教養教育の授業に対する満足度は相対的に低かった。満足度平均値は、低い方から「10 教養教育の保健体育関連授業」3.71、「8 教養教育の情報系授業」4.21、「進路支援（就職や進学、資格取得など）」および「9 教養教育のキャリア系授業」4.36であった。また、それらの項目の満足群は、各々60.7%、75.0%、82.1%であった。それらの項目の標準偏差は、1.70から1.19の値であり、満足した卒業生と満足しなかった卒業生の間のばらつきが大きいことを示している。「10 教養教育の保健体育関連授業」に関しては、満足度平均値が「やや満足」に該当する4.0にも至っておらず、満足群も比較的低い。その他の項目に関しては、他の項目の結果に比べると低いもののある程度良好な結果であるといえる。

全卒業生に対する調査結果と同様に、教養教育の授業に関する満足度が相対的に低く、「10 教養教育の保健体育関連授業」の満足度が特に低いという結果であった。先述したように、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により学習環境が大きく変化したことが、学生の教育満足度に影響を及ぼしている可能性があるため、この調査結果を解釈する際にはその点に留意する必要がある。

表 2-2 人文学部卒業生（28名）の三重大学教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)	
1	教育全般	4.71	0.85	96.4	
2	研究環境(文献、機器・研究水準など)	4.71	0.94	92.9	
3	進路支援(就職や進学、資格取得など)	4.36	1.19	82.1	
4	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.64	1.13	85.7	
5	学生生活に対するサポート	4.39	1.17	78.6	
6	教養教育の授業全般	4.54	1.04	82.1	
7	教養教育の語学系授業	4.57	1.07	82.1	
8	教養教育の情報系授業	4.21	1.20	75.0	
9	教養教育のキャリア系授業	4.36	1.19	82.1	
10	教養教育の保健体育関連授業	3.71	1.70	60.7	
11	教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	4.75	0.93	92.8	
12	学部専門の授業	4.79	0.79	96.4	
13	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.39	1.03	89.3	
14	現場実習や現場体験(インターンシップなど)	4.50	1.14	85.7	
※経験した人だけの回答				回答者数(人)	
15	理系基礎関係授業	4.50	2.12	50.0	2
16	卒業研究指導	5.18	0.91	95.5	26

図 2-2 人文学部卒業生（28名）の三重大学の教育に対する満足度平均値



2.1.3 三重大大学の教育に対する満足度（教育学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、教育学部卒業生（25名）の満足度平均値と標準偏差、満足群を算出した。その結果、満足度平均値では、全16項目のうち13項目において「やや満足」に該当する4.0以上の値となり、教育学部の教育に対して、総じて満足が得られていることが分かった。しかし、全卒業生の調査結果と比べると、突出して高い満足が得られた項目は少なく、4.50以上の値となった項目は「16 卒業研究指導」のみであった。満足群に関しては、項目によって88.9%から66.7%までの値となっており、全16項目のうち80%台の値となった項目が11項目あったが、90%台の値となった項目はなかった。最も満足群の割合が高かったのは「16 卒業研究指導」で88.9%、続いて「12 学部専門の授業」、「7 教養教育の語学系授業」、「3 進路支援（就職や進学、資格取得など）」が88.0%であった。

一方、教養教育の授業に対する満足度は相対的に低かった。回答者数がわずか3人しかない「15 理系基礎関係授業」を除くと、満足度平均値が低い方から「10 教養教育の保健体育関連授業」3.92、「9 教養教育のキャリア系授業」3.96、「7 教養教育の語学系授業」4.08、「教養教育の授業全般」4.12であった。また、これらの項目の満足群は、各々68.0%、72.0%、88.0%、84.0%で、標準偏差は0.93から1.08であった。「10 教養教育の保健体育関連授業」と「9 教養教育のキャリア系授業」に関しては、平均値が「やや満足」に該当する4.0にも至っておらず、満足群も比較的低い。その他の項目に関しては、他の項目の結果に比べると低いもののある程度良好な結果であるといえる。

教養教育の授業に対する満足度の相対的な低さは、全卒業生に対する調査結果と同様の傾向である。ただし、先述したように、この結果は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により学習環境が大きく変化したことによって影響を受けている可能性が考えられるため、その点に留意して解釈する必要がある。

表 2-3 教育学部卒業生（25名）の三重大大学の教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)	
1	教育全般	4.36	1.11	84.0	
2	研究環境(文献、機器・研究水準など)	4.16	1.18	72.0	
3	進路支援（就職や進学、資格取得など）	4.36	1.08	88.0	
4	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.44	1.29	80.0	
5	学生生活に対するサポート	4.16	1.03	80.0	
6	教養教育の授業全般	4.12	0.93	84.0	
7	教養教育の語学系授業	4.08	0.95	88.0	
8	教養教育の情報系授業	4.16	1.11	84.0	
9	教養教育のキャリア系授業	3.96	0.98	72.0	
10	教養教育の保健体育関連授業	3.92	1.08	68.0	
11	教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	4.20	1.00	84.0	
12	学部専門の授業	4.48	1.08	88.0	
13	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.32	1.25	76.0	
14	現場実習や現場体験（インターンシップなど）	4.32	1.07	84.0	
※経験した人だけの回答					回答者数 (人)
15	理系基礎関係授業	3.67	2.31	66.7	3
16	卒業研究指導	4.72	1.32	88.9	18

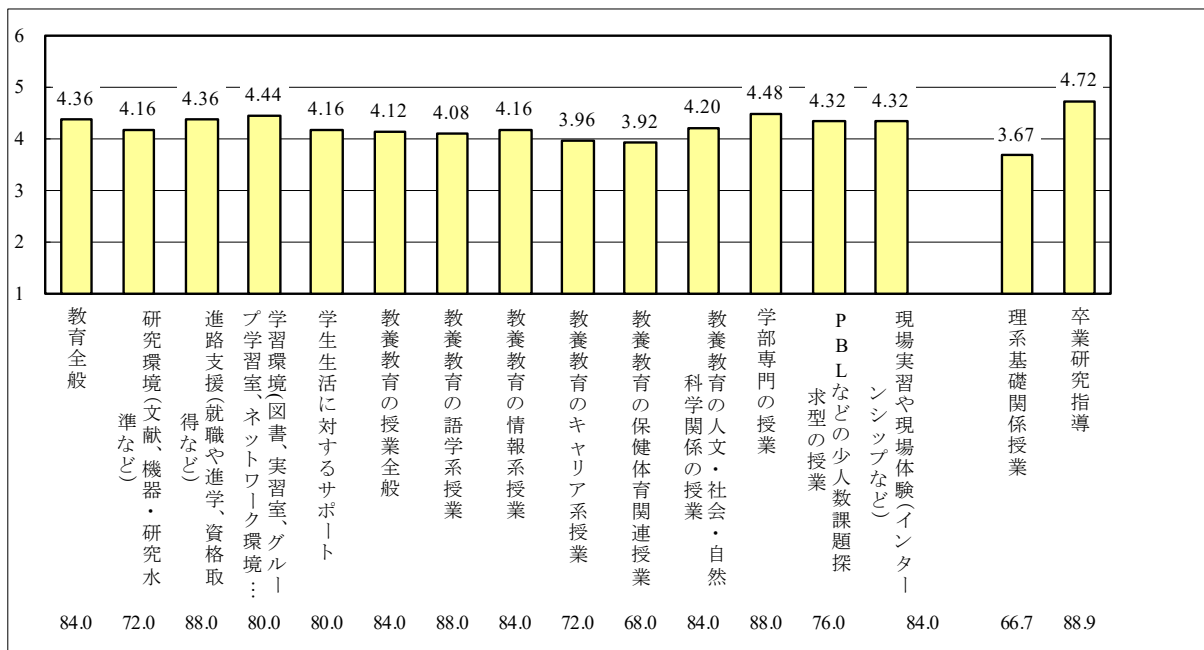


図 2-3 教育学部卒業生(25名)の三重大学の教育に対する満足度平均値

2.1.4 三重大大学の教育に対する満足度（医学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、医学部卒業生（30名）の満足度平均値と標準偏差、満足群を算出した。その結果、満足度平均値では、全16項目中15項目において「やや満足」に該当する4.0以上の値となり、このうち3項目において4.5以上の値となった。この結果から、医学部の教育に対して、総じて満足が得られていることが分かった。満足度平均値が4.5以上であった項目は、「16 卒業研究指導」4.71、「15 理系基礎関係授業」4.70、「学部専門の授業」4.50であった。また、満足群では、項目によって100.0%から66.7%までがあり、ばらつきが大きかった。中でも満足群が90%以上であった項目は、高い順に「15 理系基礎関係授業」100.0%（回答者数10人）、「16 卒業研究指導」95.2%、「1 教育全般」90.0%であった。

一方、教養教育の授業に対する満足度は相対的に低かった。満足度平均値が低かったのは、低い方から順に「10 教養教育の保健体育関連授業」3.93、「9 教養教育のキャリア系授業」4.00、「6 教養教育の授業全般」4.03、「11 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業」、「7 教養教育の語学系授業」、「8 教養教育の情報系授業」4.07であった。また、満足群では、低い方から順に、「6 教養教育の授業全般」66.7%、「10 教養教育の保健体育関連授業」と「11 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業」がともに70.0%、次いで「7 教養教育の語学系授業」、「9 教養教育のキャリア系授業」、「5 学生生活に対するサポート」がともに73.3%であった。また、これらの項目の標準偏差は、0.96から1.26であった。「10 教養教育の保健体育関連授業」の満足度平均値は、「やや満足」に該当する4.0にも至っておらず、満足群の値も低かった。また、教養教育の授業に関連する他の項目の満足度平均値および満足群の値も、他の項目と比較して低い傾向にあった。

教養教育の授業に対する満足度の相対的な低さは、全卒業生に対する調査結果と同様の傾向である。ただし、先述したように、この結果は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により学習環境が大きく変化したことによって影響を受けている可能性が考えられるため、その点に留意して解釈する必要がある。

表 2-4 医学部卒業生（30名）の三重大学の教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)
1	教育全般	4.30	0.88	90.0
2	研究環境(文献、機器・研究水準など)	4.27	0.94	80.0
3	進路支援(就職や進学、資格取得など)	4.17	1.02	80.0
4	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.40	0.97	86.7
5	学生生活に対するサポート	4.10	0.96	73.3
6	教養教育の授業全般	4.03	1.25	66.7
7	教養教育の語学系授業	4.07	1.14	73.3
8	教養教育の情報系授業	4.07	1.01	76.6
9	教養教育のキャリア系授業	4.00	1.08	73.3
10	教養教育の保健体育関連授業	3.93	1.26	70.0
11	教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	4.07	1.11	70.0
12	学部専門の授業	4.50	0.97	86.6
13	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.33	1.15	80.0
14	現場実習や現場体験(インターンシップなど)	4.20	1.10	83.3
※経験した人だけの回答				回答者数(人)
15	理系基礎関係授業	4.70	0.67	100.0
16	卒業研究指導	4.71	0.72	95.2

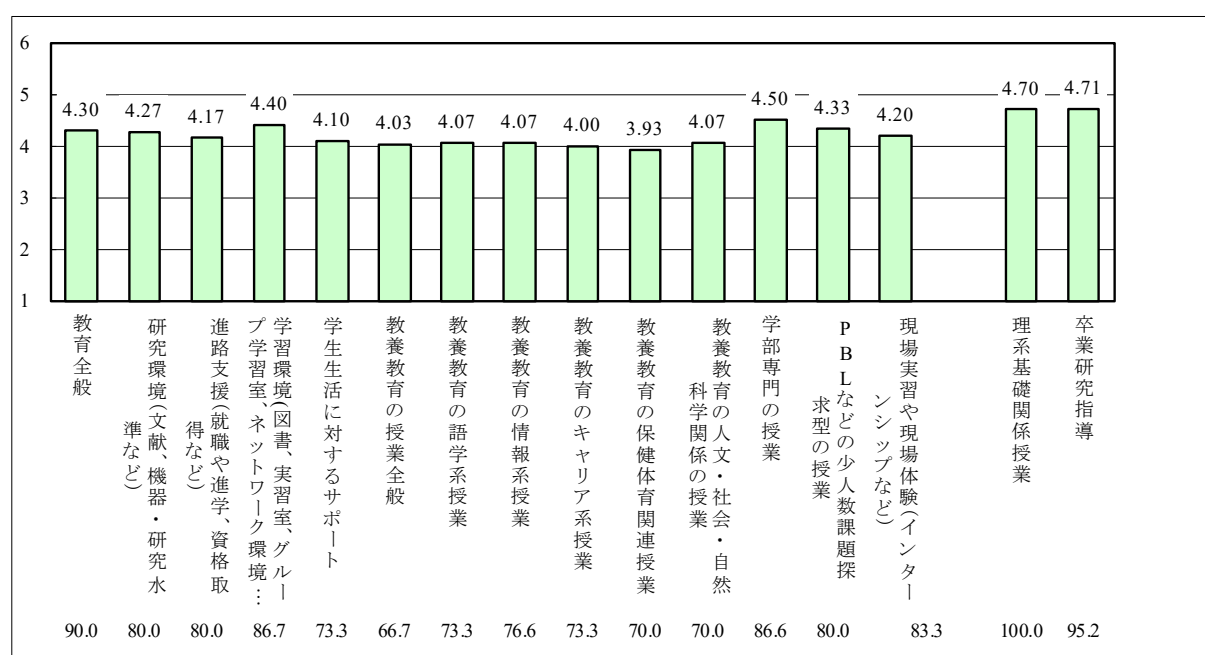


図 2-4 医学部卒業生（30名）の三重大学の教育に対する満足度平均値

2.1.5 三重大大学の教育に対する満足度（工学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、工学部卒業生（27名）の満足度平均値と標準偏差、満足群を算出した。その結果、満足度平均値では、全16項目中15項目で「やや満足」に該当する4.0以上の値となり、そのうち5項目において4.5以上の値となった。この結果から、工学部の教育に対して、総じて満足が得られていることが分かった。満足度平均値が4.50以上となった項目は、高い順に「16 卒業研究指導」5.04、「2 研究環境（文献、機器・研究水準など）」4.74、「4 学習環境（図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など）」と「15 理系基礎関係授業」4.63、「12 学部専門の授業」4.52であった。また、満足群に関しては、項目によって96.2%から59.2%までがありばらつきが大きかった。満足群90%以上の項目は、高い順に「16 卒業研究指導」96.2%、「15 理系基礎関係授業」95.9%、「2 研究環境（文献、機器・研究水準など）」92.5%であった。

一方、教養教育の授業に関する項目に関しては、相対的に満足度が低かった。満足度平均値が最も低かったのは「10 教養教育の保健体育関連授業」3.74で、次いで低かったのは「6 教養教育の授業全般」、「9 教養教育のキャリア系授業」、「11 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業」でともに4.22であった。また、満足群の値が低かった項目は、低い方から順に「10 教養教育の保健体育関連授業」59.2%、「6 教養教育の授業全般」と「9 教養教育のキャリア系授業」がともに70.3%、次いで「11 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業」74.0%であった。また、これらの項目の標準偏差は1.63から1.19と高く、満足した卒業生と満足しなかった卒業生の間のばらつきが大きいことを示している。とりわけ、「10 教養教育の保健体育関連授業」に関しては、満足度平均値が「やや満足」に該当する4.0にも至っておらず、満足群の値も59.2%と低かった。また、教養教育の授業に関連する他の項目の満足度平均値および満足群の値も、他の項目と比較して低い傾向にあった。

教養教育の授業に対する満足度の相対的な低さは、全卒業生に対する調査結果と同様の傾向である。ただし、先述したように、この結果は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により学習環境が大きく変化したことによって影響を受けている可能性が考えられるため、その点に留意して解釈する必要がある。

表 2-5 工学部卒業生（27名）の三重大大学の教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)	
1	教育全般	4.33	0.96	81.4	
2	研究環境(文献、機器・研究水準など)	4.74	0.94	92.5	
3	進路支援(就職や進学、資格取得など)	4.37	0.93	88.8	
4	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.63	0.97	88.8	
5	学生生活に対するサポート	4.30	0.91	81.4	
6	教養教育の授業全般	4.22	1.19	70.3	
7	教養教育の語学系授業	4.41	0.97	81.4	
8	教養教育の情報系授業	4.41	0.97	85.1	
9	教養教育のキャリア系授業	4.22	1.31	70.3	
10	教養教育の保健体育関連授業	3.74	1.63	59.2	
11	教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	4.22	1.19	74.0	
12	学部専門の授業	4.52	1.09	85.1	
13	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.30	1.14	77.7	
14	現場実習や現場体験(インターンシップなど)	4.41	1.05	85.1	
※経験した人だけの回答				回答者数(人)	
15	理系基礎関係授業	4.63	0.92	95.9	24
16	卒業研究指導	5.04	0.90	96.2	27

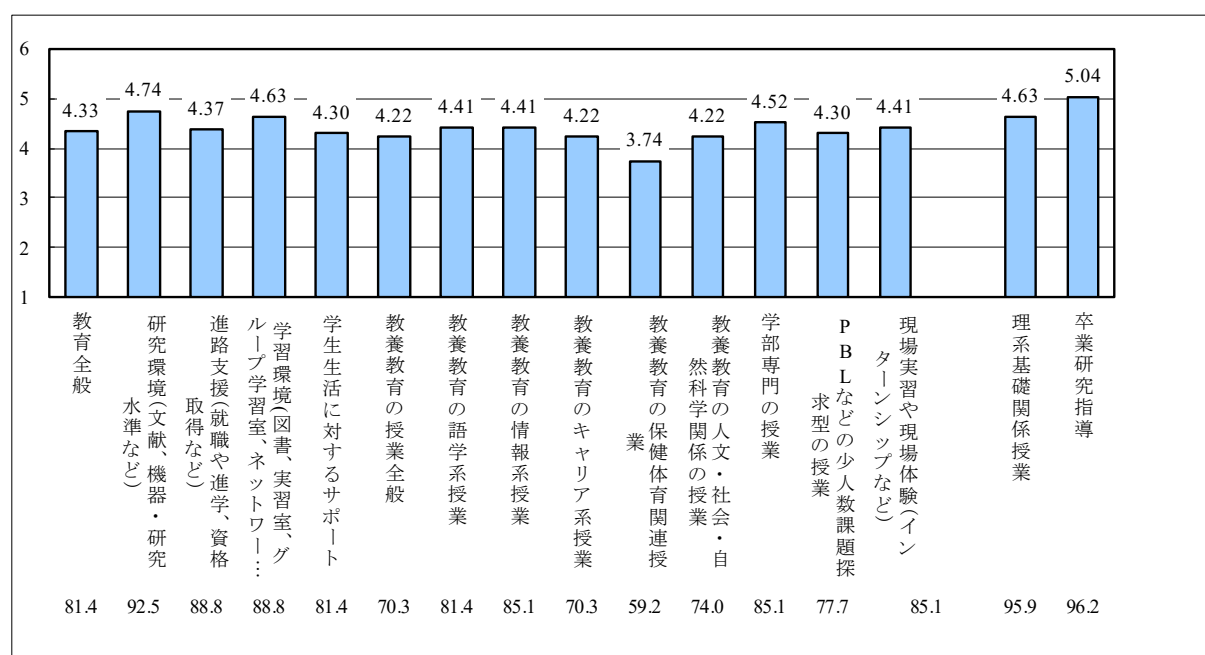


図 2-5 工学部卒業生（27名）の三重大大学の教育に対する満足度平均値

2.1.6 三重大大学の教育に対する満足度（生物資源学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、生物資源学部卒業生（28名）の満足度平均値と標準偏差、満足群を算出した。その結果、満足度平均値は、16項目すべてにおいて「やや満足」に該当する4.0以上の値となり、16項目中14項目で4.5以上という結果となった。この結果から、生物資源学部の教育が総じて高い満足を得られたことが分かった。満足度平均値が最も高かったのは、「4 学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)」と「3 進路支援（就職や進学、資格取得など）」で、ともに4.82であった。次に高かったのは「16 卒業研究指導」で4.76、次いで「12 学部専門の授業」と「5 学生生活に対するサポート」がともに4.75であった。また、これらの項目のうち「4 学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)」と「5 学生生活に対するサポート」に関しては、標準偏差が各々0.67と0.75であり、卒業生間の満足度のばらつきが比較的少なかった。

また、満足群の値は、項目によって96.4%から71.4%までであるが、全16項目中7項目で90%以上の値となった。満足群90%以上となった項目のうち、最も高かったのは「4 学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)」と「5 学生生活に対するサポート」で、ともに96.4%であった。次に高かったのは、「11 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業」、「14 現場実習や現場体験（インターンシップなど）」、「3 進路支援（就職や進学、資格取得など）」、「1 教育全般」でともに92.9%、次いで「理系基礎関係授業」92.3%が高かった。

一方、相対的に満足度平均値が低かったのは、「10 教養教育の保健体育関連授業」4.11と「9 教養教育のキャリア系授業」4.36で、満足群の値は、各々71.4%と89.3%であった。また、これらの項目の標準偏差は1.34と0.99であった。この結果は、多くの卒業生の満足度がやや低いという、満足した卒業生と満足しなかった卒業生との間のばらつきが大きいことを意味している。

表 2-6 生物資源学部卒業生（28名）の三重大大学の教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)	
1	教育全般	4.71	0.76	92.9	
2	研究環境(文献、機器・研究水準など)	4.71	0.81	89.3	
3	進路支援（就職や進学、資格取得など）	4.82	0.86	92.9	
4	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.82	0.67	96.4	
5	学生生活に対するサポート	4.75	0.75	96.4	
6	教養教育の授業全般	4.54	0.92	82.1	
7	教養教育の語学系授業	4.61	0.79	89.3	
8	教養教育の情報系授業	4.50	0.84	85.7	
9	教養教育のキャリア系授業	4.36	0.99	89.3	
10	教養教育の保健体育関連授業	4.11	1.34	71.4	
11	教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	4.71	0.85	92.9	
12	学部専門の授業	4.75	0.93	89.3	
13	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.54	0.92	89.3	
14	現場実習や現場体験（インターンシップなど）	4.64	0.87	92.9	
※経験した人みの回答					回答者数 (人)
15	理系基礎関係授業	4.69	0.88	92.3	26
16	卒業研究指導	4.76	0.93	88.0	25

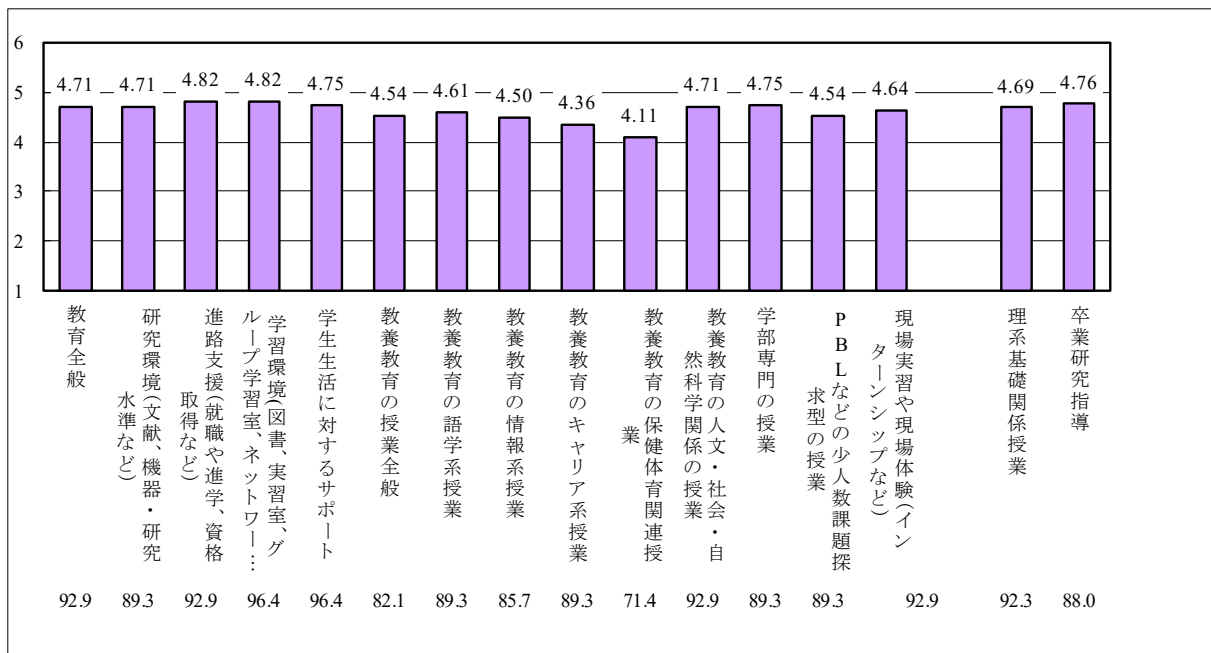


図 2-6 生物資源学部卒業生（28名）の三重大学の教育に対する満足度平均値

2.2 三重大学大学院の教育に対する満足度（修了生）

三重大学大学院の教育（12項目）について、満足している程度を「非常に不満」から「非常に満足」までの6段階で回答を求めた。以下に、全修了生（65名）からの全回答の満足度平均値と標準偏差、満足群を示す。満足度平均値と標準偏差は、満足の度合いを表す6段階評定において、「非常に不満」1点、「不満」2点、「やや不満」3点、「やや満足」4点、「満足」5点、「非常に満足」6点として算出した。満足群は、満足度の6段階のうち、「やや満足」、「満足」、「非常に満足」のいずれかに回答した卒業生の割合とした。

その結果、満足度平均値は、全12項目のうち11項目において「やや満足」に該当する4.0以上の値となり、三重大学大学院の教育に対して、総じて満足が得られていることが分かった。このうち最も満足度平均値が高かったのは「9 学位論文指導」で4.57、次に高かったのは「8 日常的な研究指導」で4.45であった。また、満足群では、項目によって89.2%から67.7%まで幅があった。最も満足群の割合が高かったのは、高い順から「3 大学院の授業科目構成」89.2%、「4 大学院の授業」87.7%、「1 教育全般」86.2%、「9 学位論文指導」84.6%であった。なお、これらの項目の標準偏差は各々0.88、0.94、0.96、1.27であった。「9 学位論文指導」に関しては、満足度平均値は高いものの、満足した卒業生と満足しなかった卒業生の間のばらつきが大きいことが分かった。

一方、満足度平均値が低かったのは、低い方から「7 現場実習やインターンシップなど」3.97、「5 PBLなどの少人数課題探求型の授業」と「10 進路支援（就職や進学、資格取得など）」がともに4.08であった。また、これらの項目の満足度群の割合は、各々67.7%、78.5%、75.4%であった。なお、これらの標準偏差は1.16から1.18であり、両項目に対する満足度が比較的低いうえ、満足した卒業生と満足しなかった卒業生の間のばらつきが大きいことを示している。

表 2-7 全修了生（65名）の三重大学大学院の教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)
1	教育全般	4.28	0.96	86.2
2	研究環境(文献、機器、研究水準など)	4.22	1.19	78.5
3	大学院の授業科目構成	4.29	0.88	89.2
4	大学院の授業	4.34	0.94	87.7
5	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.08	1.16	78.5
6	最先端の研究や高度専門知識の教授	4.23	1.27	75.4
7	現場実習やインターンシップなど	3.97	1.16	67.7
8	日常的な研究指導	4.45	1.26	80.0
9	学位論文指導	4.57	1.27	84.6
10	進路支援(就職や進学、資格取得など)	4.08	1.18	75.4
11	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.14	1.14	78.5
12	学生生活に対するサポート	4.11	1.09	76.9

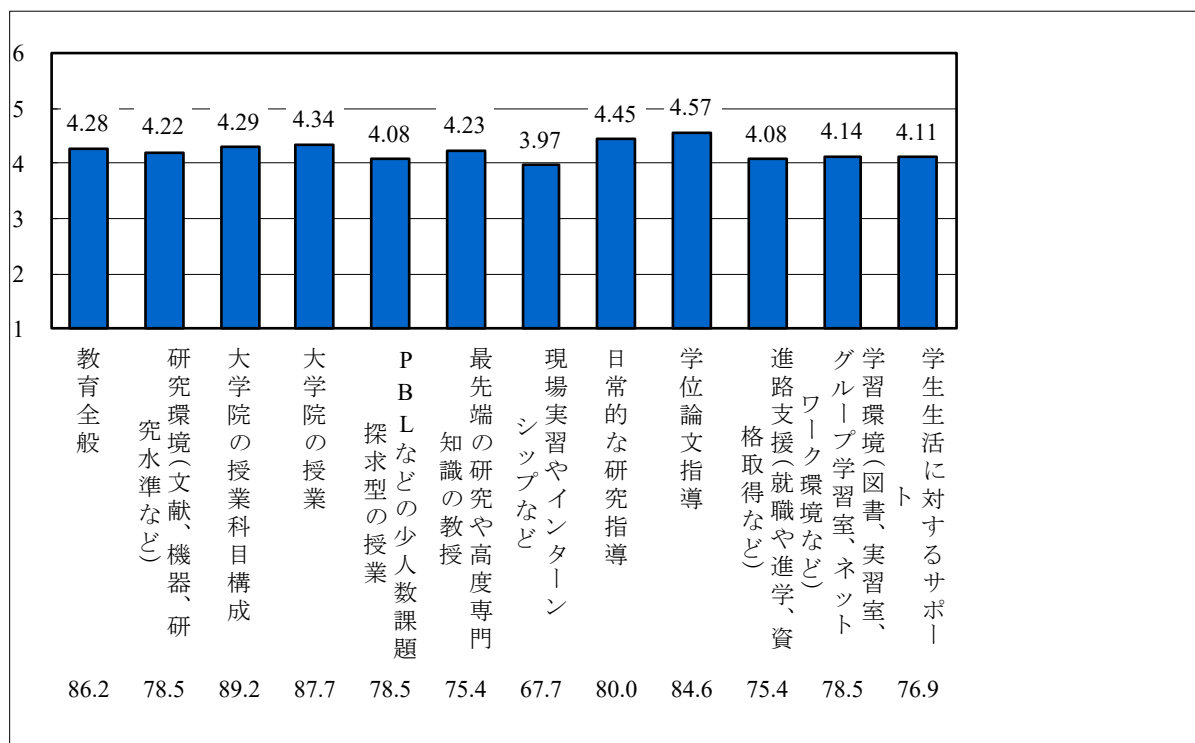


図 2-7 全修了生（65 名）の三重大学大学院の教育に対する満足度平均値

3. 三重大大学の教育・研究で成長したこと

3.1 三重大大学の教育で成長したこと（卒業生）

三重大大学の教育によって力が身についた程度を、「かなり成長した」、「ある程度成長した」、「少し成長した」、「わずかだが成長した」、「成長しなかった」の5段階で回答を求めた。質問項目は、三重大大学がディプロマ・ポリシーとして掲げる「4つの力」、すなわち「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」を構成する12の要素に対応した12項目である。以下に、全卒業生（138名）と卒業学部ごとの平均値、修得群、標準偏差を示す。平均値と標準偏差は、「かなり成長した」を5点、「ある程度成長した」を4点、「少し成長した」を3点、「わずかだが成長した」を2点、「成長しなかった」を1点として算出した。修得群は、5段階のうち「かなり成長した」、「ある程度成長した」、「少し成長した」のいずれかに回答した卒業生の割合とした。

3.1.1 三重大大学の教育で成長したこと（全卒業生）

卒業生からの全回答（138名）について、12項目の平均値、修得群、標準偏差を算出した。その結果、平均値では、12項目すべてにおいて「少し成長した」に該当する3.00以上、また、12項目中10項目で3.5以上の値となった。この結果から、卒業生は総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。平均値が最も高かったのは「5 専門知識・技術『考える力』」の4.03で、次いで「4 幅広い教養『考える力』」3.85、「3 主体性『感じる力』」3.80の順に高かった。また、修得群は、12項目のうち11項目で80%以上の値となった。修得群の割合が高かったのは、高い順に「5 専門知識・技術『考える力』」93.4%、「4 幅広い教養『考える力』」92.1%、「1 感性『感じる力』」、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」の3項目がともに89.1%であった。

一方、平均値が3.5以下という相対的に低い結果となったのは、低い方から「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」3.17、および「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」3.43の2項目であった。また、これらの項目の標準偏差は、各々1.21と1.05であり、力が身についたと感じる卒業生と身につかなかったと感じる卒業生との間のばらつきが大きいことを示している。

表 3-1 全卒業生（138 名）の三重大大学の教育を通して身についた 4 つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.71	0.92	89.1%
2 共感「感じる力」	3.72	0.98	88.4%
3 主体性「感じる力」	3.80	1.00	88.4%
4 幅広い教養「考える力」	3.85	0.90	92.1%
5 専門知識・技術「考える力」	4.03	0.91	93.4%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.79	0.98	89.1%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	3.74	0.99	87.7%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.43	1.05	81.2%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	3.17	1.21	69.5%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.65	0.99	87.0%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.55	1.09	84.1%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.70	0.96	89.1%

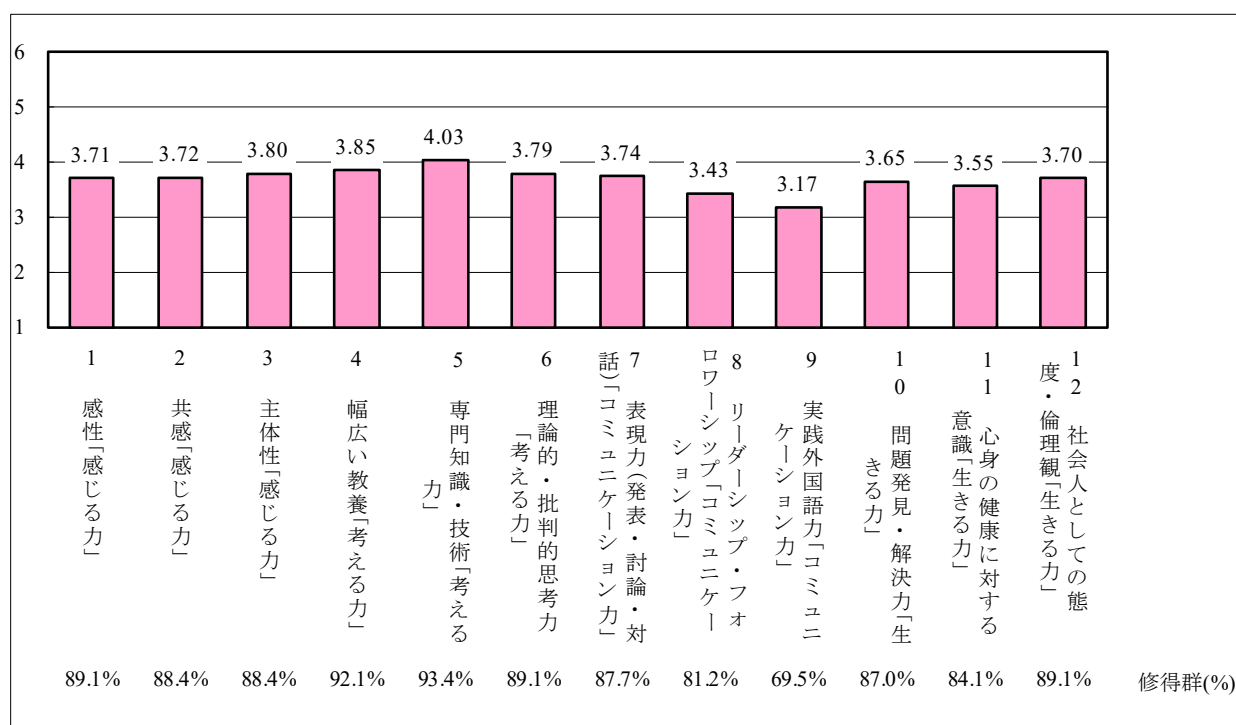


図 3-1 全卒業生（138 名）の三重大大学の教育を通して身についた 4 つの力の平均値及び修得率

3.1.2 三重大大学の教育で成長したこと（人文学部卒業生）

人文学部卒業生からの全回答（28名）について、12項目の平均値、修得群、標準偏差を算出した。その結果、平均値では、12項目のすべてにおいて「少し成長した」に該当する3.00以上となり、12項目中10項目で3.5以上の値となった。この結果から、人文学部の卒業生は、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。平均値が高かった項目は、高い順に「4 幅広い教養『考える力』」4.11、「5 専門知識・技術『考える力』」4.04、「3 主体性『感じる力』」と「1 感性『感じる力』」がともに3.82であった。また、これらの項目の標準偏差は0.88から0.82であり、回答が「5：かなり成長した」と「3：少し成長した」の間にある程度まとまっていた。次に、修得群は、12項目中9項目で90%以上となった。修得群の割合が最も高かった項目は、「4 幅広い教養『考える力』」、「5 専門知識・技術『考える力』」、「3 主体性『感じる力』」、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」の4項目で、ともに96.4%であった。

一方、平均値が3.5以下と相対的に低い結果となったのは、「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」3.18、および「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」3.25の2項目であった。また、これらの項目の修得群は、各々78.6%、75.0%であった。標準偏差は1.27から1.12であり、力が身についたと感じる卒業生と身につけなかったと感じる卒業生との間のばらつきが大きいことを示している。

表 3-2 人文学部卒業生（28名）の三重大大学の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.82	0.86	92.9%
2 共感「感じる力」	3.71	0.98	92.8%
3 主体性「感じる力」	3.82	0.82	96.4%
4 幅広い教養「考える力」	4.11	0.88	96.4%
5 専門知識・技術「考える力」	4.04	0.84	96.4%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.79	0.96	92.9%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	3.79	0.83	96.4%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.18	1.12	78.6%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	3.25	1.27	75.0%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.68	0.90	92.9%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.54	1.10	85.7%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.71	0.90	92.9%

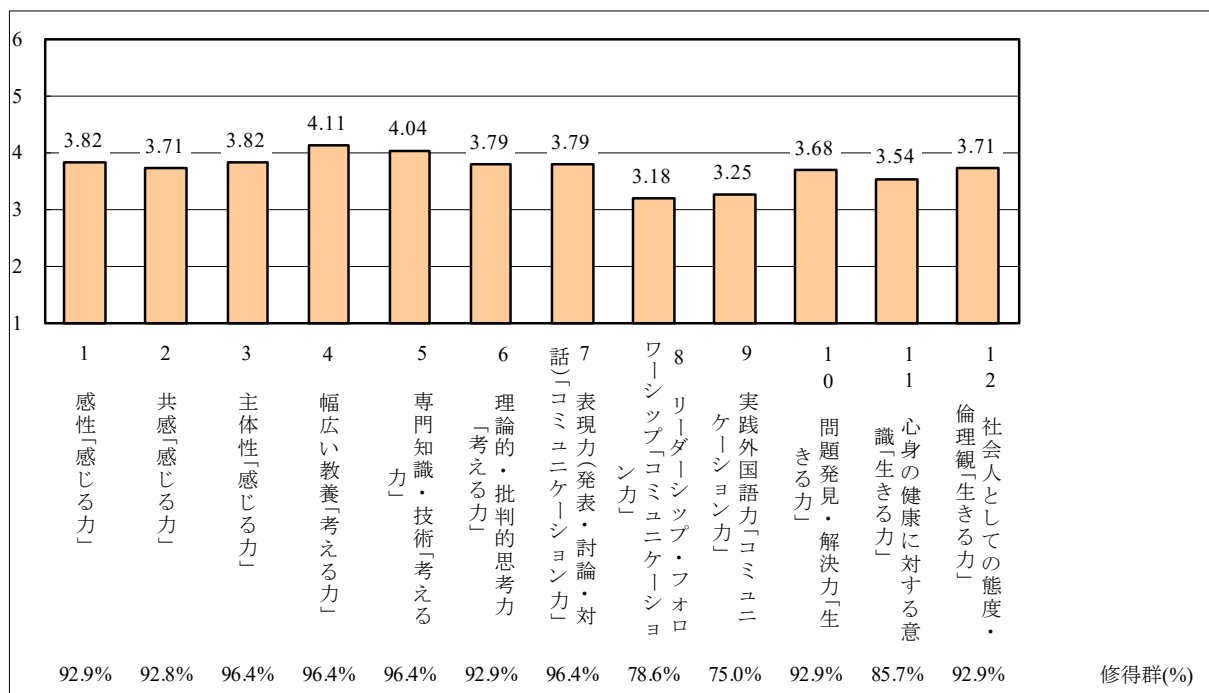


図 3-2 人文学部卒業生（28 名）の三重大の教育を通して身についた 4 つの力の平均値及び修得群

3.1.3 三重大大学の教育で成長したこと（教育学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、教育学部卒業生（25名）の12項目に対する回答について、平均値、修得群、標準偏差を算出した。その結果、平均値では、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除いた11項目で「少し成長した」に該当する3.00以上、9項目で3.5以上の値となった。この結果から、教育学部の卒業生は、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。最も平均値が高かったのは「5 専門知識・技術『考える力』」3.96で、次に高かったのは「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」3.76であった。その次は、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」、「4 幅広い教養『考える力』」、「3 主体性『感じる力』」、「1 感性『感じる力』」の5項目で、ともに3.72であった。また、これらの項目の標準偏差は0.89から1.17であった。次に、修得群は、12項目のうち10項目で80%以上、4項目で90%以上となった。修得群90%以上の項目としては、「5 専門知識・技術『考える力』」が96.0%、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」、「4 幅広い教養『考える力』」、「1 感性『感じる力』」の3項目がともに92%であった。

一方、平均値が3.5以下と相対的に低かった項目は、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」2.96、「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」3.36、「11 心身の健康に対する意識『生きる力』」3.48であった。また、これらの項目の修得群は、各々60.0%、72.0%、84.0%であった。標準偏差は1.27から1.08であり、力が身についたと感じる卒業生と身につかなかったと感じる卒業生との間のばらつきが大きいことを示している。

表 3-3 教育学部卒業生（25名）の三重大大学の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.72	0.89	92.0%
2 共感「感じる力」	3.60	0.96	84.0%
3 主体性「感じる力」	3.72	1.17	84.0%
4 幅広い教養「考える力」	3.72	0.89	92.0%
5 専門知識・技術「考える力」	3.96	0.93	96.0%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.72	1.06	84.0%
7 表現力（発表・討論・対話）「コミュニケーション力」	3.76	1.05	88.0%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.36	1.15	72.0%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	2.96	1.27	60.0%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.52	1.12	80.0%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.48	1.08	84.0%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.72	0.89	92.0%

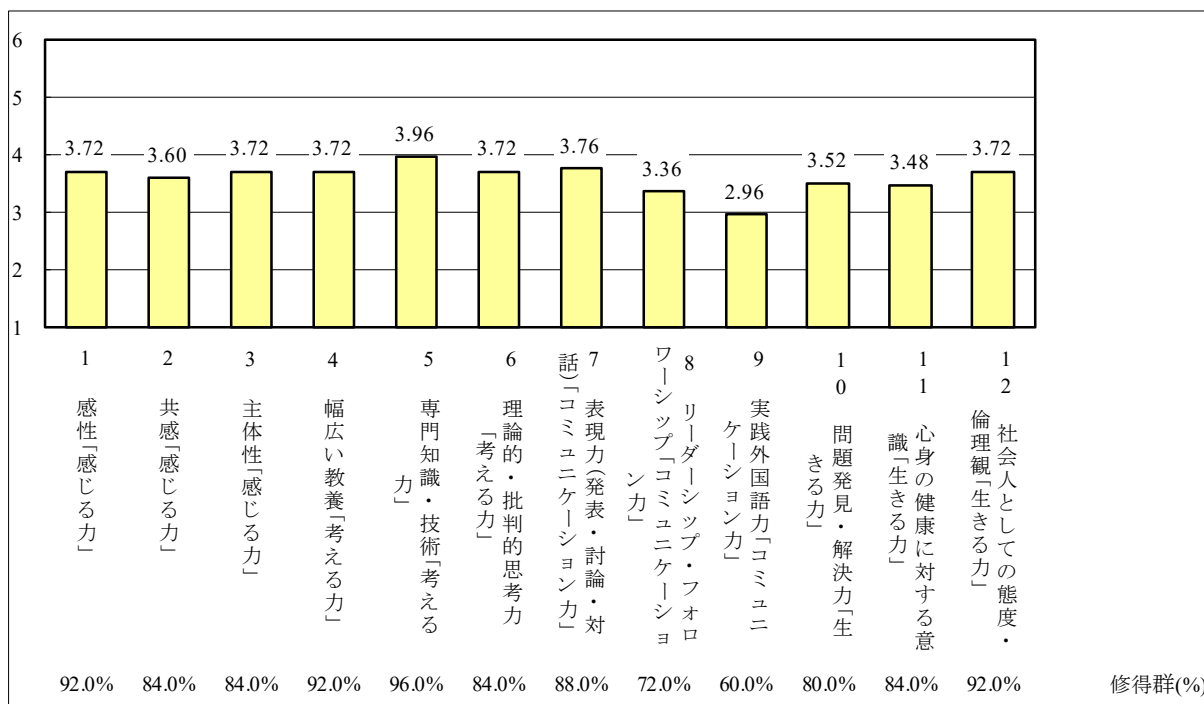


図 3-3 教育学部卒業生（25 名）の三重大学の教育を通して身についた 4 つの力の平均値及び修得群

3.1.4 三重大大学の教育で成長したこと（医学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、医学部卒業生（30名）の12項目に対する回答について、平均値、修得群、標準偏差を算出した。その結果、平均値では、12項目すべてにおいて「少し成長した」に該当する3.00以上の値となり、12項目中「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除いた11項目で3.5以上の値となった。この結果から、医学部の卒業生は、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。最も平均値が高かったのは「5 専門知識・技術『考える力』」4.10で、次に高かったのは「2 共感『感じる力』」3.87であった。その次は、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」、「11 心身の健康に対する意識『生きる力』」、「3 主体性『感じる力』」、「1 感性『感じる力』」の4項目が、ともに3.77であった。また、これらの項目の標準偏差は0.77から0.94であった。

修得群は、12項目のうち「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除くすべての項目で80%以上、9項目で90%以上となった。修得群90%以上の項目のうち、最も高い値を示したのは「5 専門知識・技術『考える力』」の96.7%であった。次いで、「2 共感『感じる力』」、「1 感性『感じる力』」、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」の4項目がともに93.3%、その次に、「11 心身の健康に対する意識『生きる力』」、「10 問題発見・解決力『生きる力』」、「3 主体性『感じる力』」、「4 幅広い教養『考える力』」の4項目がともに90.0%であった。

一方、平均値が3.5以下と相対的に低い値だったのは、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」3.10で、標準偏差は1.18であった。また、この項目の修得群は63.3%であった。つまり、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」については、修得率が低いうえ、修得した卒業生と修得しなかった卒業生との間のばらつきが比較的大きいことが示されている。

表 3-4 医学部卒業生（30名）の三重大大学の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.77	0.86	93.3%
2 共感「感じる力」	3.87	0.90	93.3%
3 主体性「感じる力」	3.77	0.86	90.0%
4 幅広い教養「考える力」	3.53	0.73	90.0%
5 専門知識・技術「考える力」	4.10	0.84	96.7%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.63	0.76	93.3%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	3.73	0.83	86.7%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.60	0.89	83.3%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	3.10	1.18	63.3%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.60	0.77	90.0%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.77	0.94	90.0%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.77	0.77	93.3%

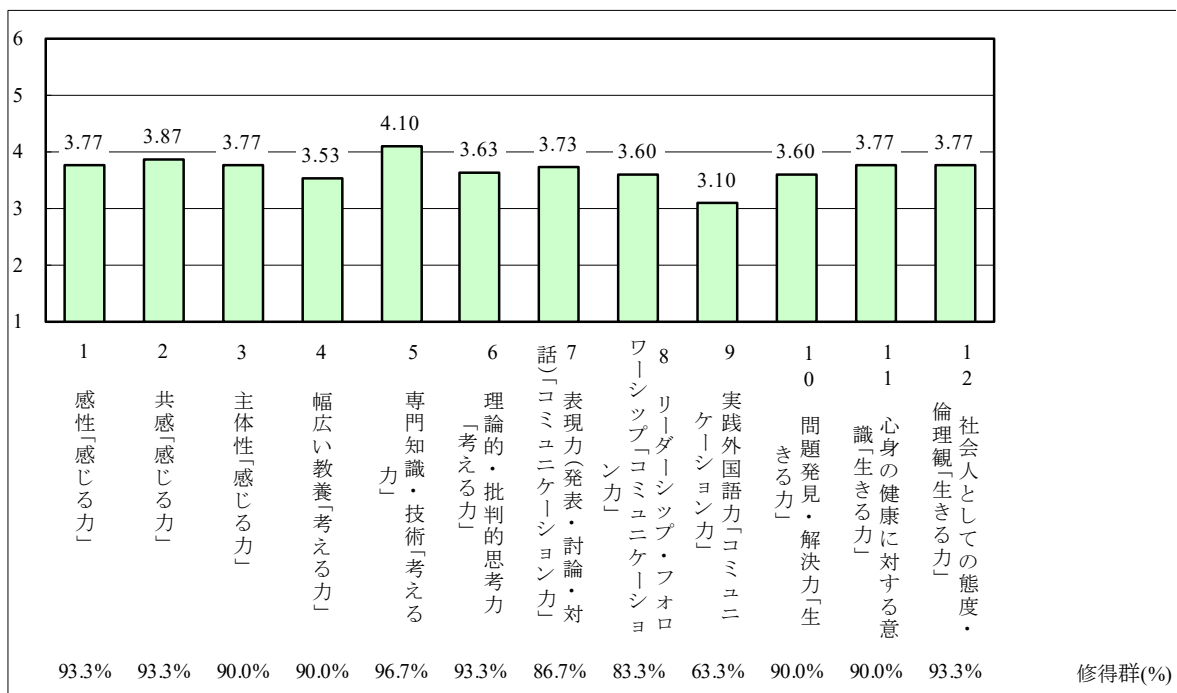


図 3-4 医学部卒業生（30 名）の三重大学の教育を通して身についた 4 つの力の平均値及び修得群

3.1.5 三重大大学の教育で成長したこと（工学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、工学部卒業生（27名）の12項目に対する回答について、平均値、修得群、標準偏差を算出した。その結果、平均値では、12項目すべてにおいて「少し成長した」に該当する3.00以上の値となり、また、12項目中9項目で3.5以上の値となった。この結果から、工学部の卒業生は、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。最も平均値が高かったのは「5 専門知識・技術『考える力』」で4.04であった。次いで、「4 幅広い教養『考える力』」と「3 主体性『感じる力』」がともに3.96、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」が3.93、という順に高かった。また、これらの項目の標準偏差は1.02から1.17で、力が身についたと感じる卒業生と身につかなかったと感じる卒業生との間のばらつきが大きいことを示している。

次に、修得群は、12項目のうち9項目で80%以上となった。修得群の割合が最も高かったのは、「4 幅広い教養『考える力』」で92.5%であった。次に、「3 主体性『感じる力』」88.8%、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」、「2 共感『感じる力』」、「5 専門知識・技術『考える力』」の3項目がともに85.1%、という順に高かった。

一方、平均値が3.5以下と相対的に低い値だったのは、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」3.22、「11 心身の健康に対する意識『生きる力』」3.26、「8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」3.48の3項目で、これらの項目の修得群は、各々62.9%、70.3%、81.4%であった。また、これらの項目の標準偏差は、項目によって1.19から1.45であった。つまり、これらの項目では、修得率が相対的に低いうえ、修得した卒業生と修得しなかった卒業生との間のばらつきが比較的大きいことが示されている。

表 3-5 工学部卒業生（27名）の三重大大学の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.59	1.19	81.4%
2 共感「感じる力」	3.67	1.21	85.1%
3 主体性「感じる力」	3.96	1.06	88.8%
4 幅広い教養「考える力」	3.96	1.02	92.5%
5 専門知識・技術「考える力」	4.04	1.16	85.1%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.93	1.17	85.1%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	3.59	1.34	81.4%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.48	1.19	81.4%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	3.22	1.45	62.9%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.70	1.23	81.4%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.26	1.38	70.3%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.52	1.34	77.7%

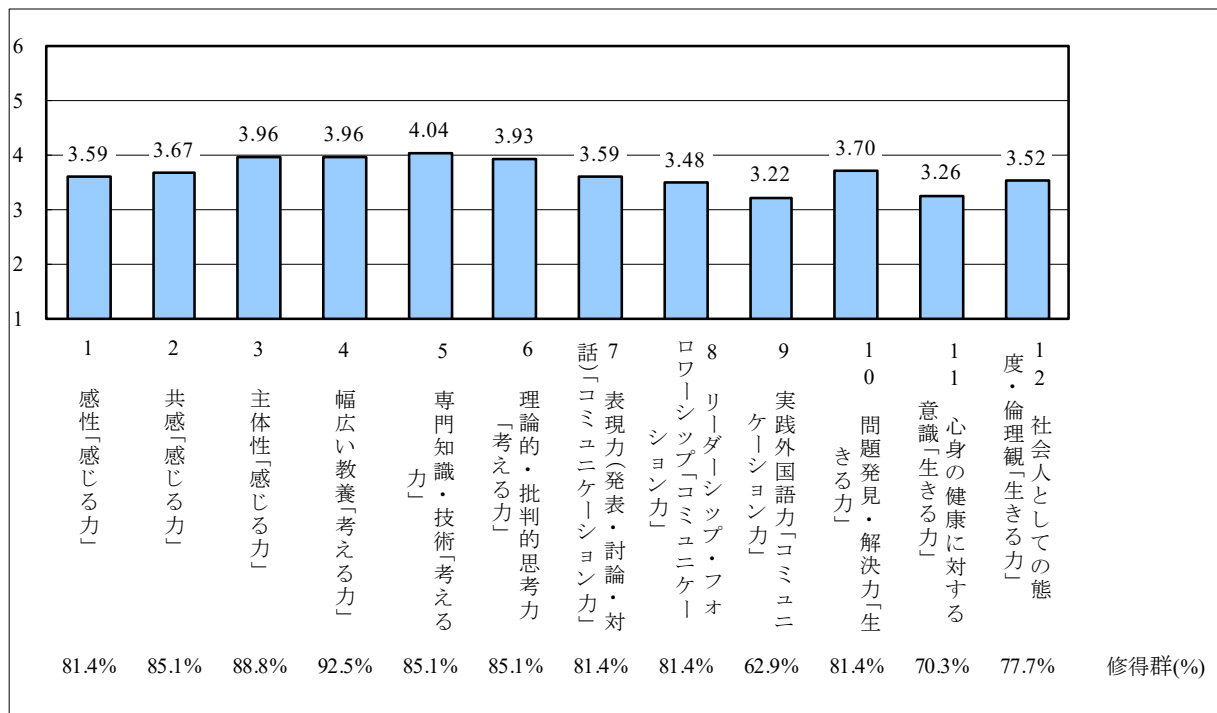


図 3-5 工学部卒業生 (27 名) の三重大学の教育を通して身についた 4 つの力の平均値及び修得群

3.1.6 三重大大学の教育で成長したこと（生物資源学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、生物資源学部卒業生（28名）の12項目に対する回答について、平均値、修得群、標準偏差を算出した。その結果、平均値では、12項目すべてにおいて「少し成長した」に該当する3.00以上の値となり、また、12項目中「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除いた11項目で3.5以上の値となった。この結果から、生物資源学部の卒業生は、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。最も平均値が高かったのは「5 専門知識・技術『考える力』」で4.00であった。次に、「4 幅広い教養『考える力』」3.93、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」3.89、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」3.82の順に高かった。また、これらの項目の標準偏差は0.82から0.96であった。

修得群は、12項目すべてにおいて80%以上となった。修得群の割合が最も高かったのは、「5 専門知識・技術『考える力』」で92.9%であった。その次は、「4 幅広い教養『考える力』」、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」、「10 問題発見・解決力『生きる力』」、「11 心身の健康に対する意識『生きる力』」、「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」の6項目で、ともに89.3%であった。

一方、平均値が3.5以下と相対的に低い値だったのは、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」3.32と「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」3.5の2項目で、これらの項目の標準偏差は、各々0.86、0.92であった。また、これらの項目の修得群は、各々85.7%と89.3%であった。

表 3-6 生物資源学部卒業生（28名）の三重大大学の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.64	0.83	85.7%
2 共感「感じる力」	3.71	0.90	85.7%
3 主体性「感じる力」	3.71	1.12	82.1%
4 幅広い教養「考える力」	3.93	0.90	89.3%
5 専門知識・技術「考える力」	4.00	0.82	92.9%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.89	0.96	89.3%
7 表現力（発表・討論・対話）「コミュニケーション力」	3.82	0.90	85.7%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.50	0.92	89.3%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	3.32	0.86	85.7%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.75	0.93	89.3%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.68	0.94	89.3%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.75	0.84	89.3%

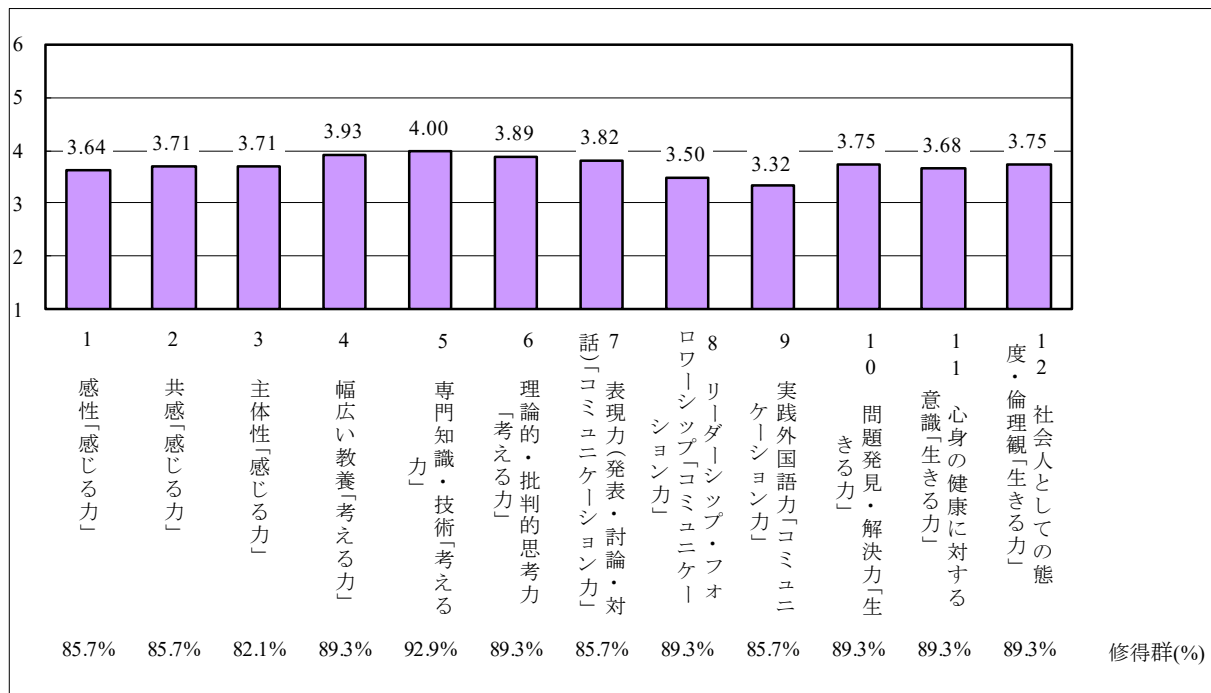


図 3-6 生物資源学部卒業生（28 名）の三重大大学の教育を通して身についた 4 つの力の平均値及び修得群

3.2 三重大学大学院の教育・研究で成長したこと（修了生）

三重大学大学院の教育によって力が身についた程度を、「かなり成長した」、「ある程度成長した」、「少し成長した」、「わずかながら成長した」、「成長しなかった」の5段階で回答を求めた（12項目）。以下に、全修了生（65名）からの全回答の平均値、修得群、標準偏差を示す。平均値と標準偏差は、身についたと感じる度合いを表す5段階評定において「かなり成長した」を5点、「ある程度成長した」を4点、「少し成長した」を3点、「わずかながら成長した」を2点、「成長しなかった」を1点として算出した。修得群は、5段階のうち「かなり成長した」、「ある程度成長した」、「少し成長した」のいずれかに回答した修了生の割合とした。

その結果、平均値では、全12項目のうち「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除く11項目において「少し成長した」に該当する3.00以上の値となり、全12項目中6項目で3.5以上の値となった。この結果から、三重大学大学院の修了生は、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。最も平均値が高かったのは「5 専門知識・技術『考える力』」で3.91であった。次に、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」3.80、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」3.78、「3 主体性『感じる力』」3.75、の順に高かった。また、これらの項目の標準偏差は、項目によって0.95から1.04であった。次に、修得群は、全12項目中9項目で80%以上となった。修得群の割合が最も高かったのは、「3 主体性『感じる力』」で93.8%であった。次いで、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」と「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」がともに92.3%、「5 専門知識・技術『考える力』」が89.2%であった。

一方、平均値が3.5以下と相対的に低い値だったのは、次の5項目であった。それらの項目とは、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」2.85、「11 心身の健康に対する意識『生きる力』」3.25、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」3.32、「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」3.28、「1 感性『感じる力』」3.43である。また、これらの項目の修得群は、各々60.1%、75.4%、76.9%、80.0%、84.6%であった。特に、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」、「11 心身の健康に対する意識『生きる力』」、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」については、修得率が低い上に、修得したと感じている卒業生と修得しなかったと感じている卒業生との間のばらつきが大きいことが示されている。

表 3-7 修了生（65名）の三重大学大学院の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.43	1.09	84.6%
2 共感「感じる力」	3.43	1.07	84.6%
3 主体性「感じる力」	3.75	0.95	93.8%
4 幅広い教養「考える力」	3.54	1.06	84.6%
5 専門知識・技術「考える力」	3.91	1.04	89.2%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.78	1.02	92.3%
7 表現力（発表・討論・対話）「コミュニケーション力」	3.80	1.00	92.3%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.28	1.13	80.0%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	2.85	1.21	60.1%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.58	1.04	86.2%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.25	1.29	75.4%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.32	1.19	76.9%

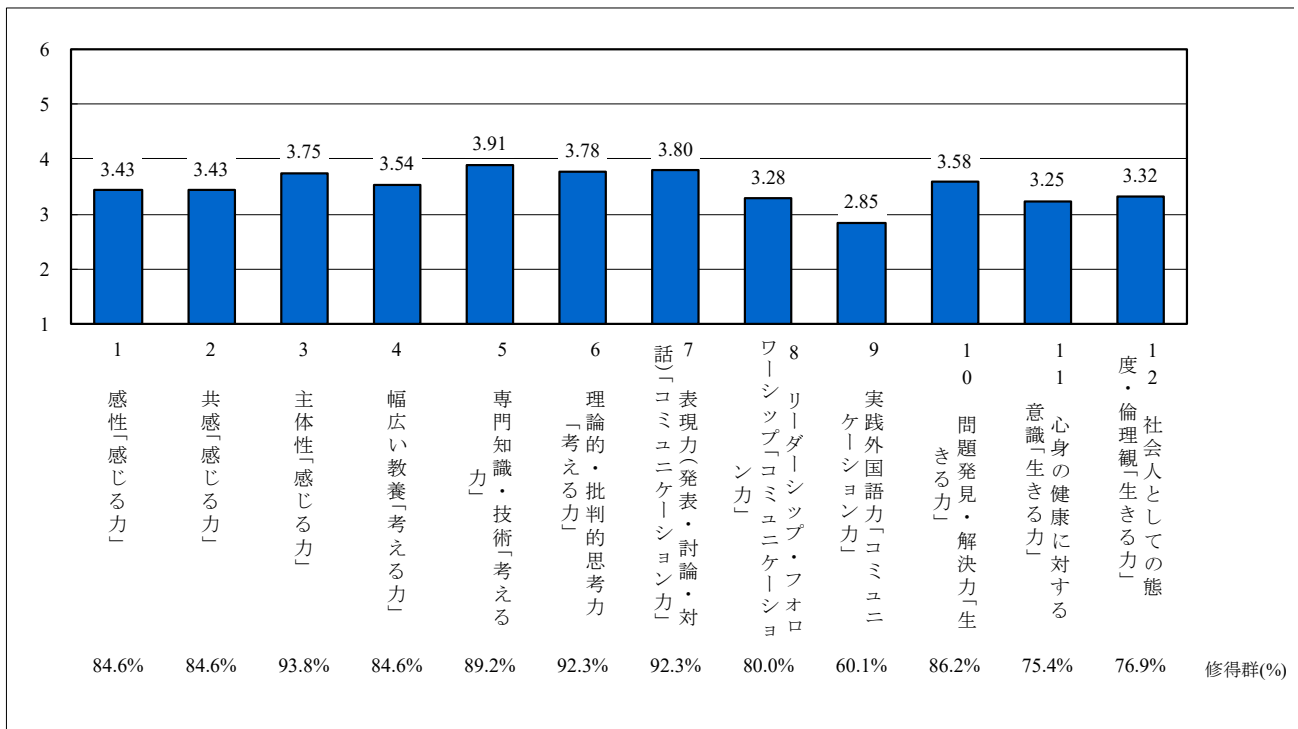


図 3-7 修了生（65 名）の三重大学大学院の教育を通して身についた 4 つの力の平均値及び修得群

4. 社会生活の場で重要だと思う力

4.1 社会生活の場で重要な力（卒業生）

大学卒業後の社会生活の場で特に重要だと思う力について卒業生にたずねた。回答は、12個の選択肢の中から、自由に選択するように求めた。全卒業生及び卒業学部別に各項目を選択した人数とその割合を算出した。また、各項目が三重大大学の教育を通してどれ程修得できたかを把握するために「第3章 三重大大学の教育で成長したこと」において算出された修得群を示した。

4.1.1 社会生活の場で重要な力（全卒業生）

卒業生からの全回答（138名）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、全12項目のうち8項目で選択率が50%を上回った。それらの項目とは、選択率が高い順に「3 主体性『感じる力』」、「10 問題発見・解決力『生きる力』」、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」、「5 専門知識・技術『考える力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」、「2 共感『感じる力』」、「4 幅広い教養『考える力』」であった。なお、これらの項目の「第3章 三重大大学の教育で成長したこと」における修得群は、93.4%から87.0%であった。

表 4-1 全卒業生（138名）が思う社会生活において重要だと思う力

	全卒業生 (138名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	60	43.5%	89.1%
2 共感「感じる力」	71	51.4%	88.4%
3 主体性「感じる力」	101	73.2%	88.4%
4 幅広い教養「考える力」	70	50.7%	92.1%
5 専門知識・技術「考える力」	74	53.6%	93.4%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	73	52.9%	89.1%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	83	60.1%	87.7%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	60	43.5%	81.2%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	30	21.7%	69.5%
10 問題発見・解決力「生きる力」	83	60.1%	87.0%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	55	39.9%	84.1%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	81	58.7%	89.1%

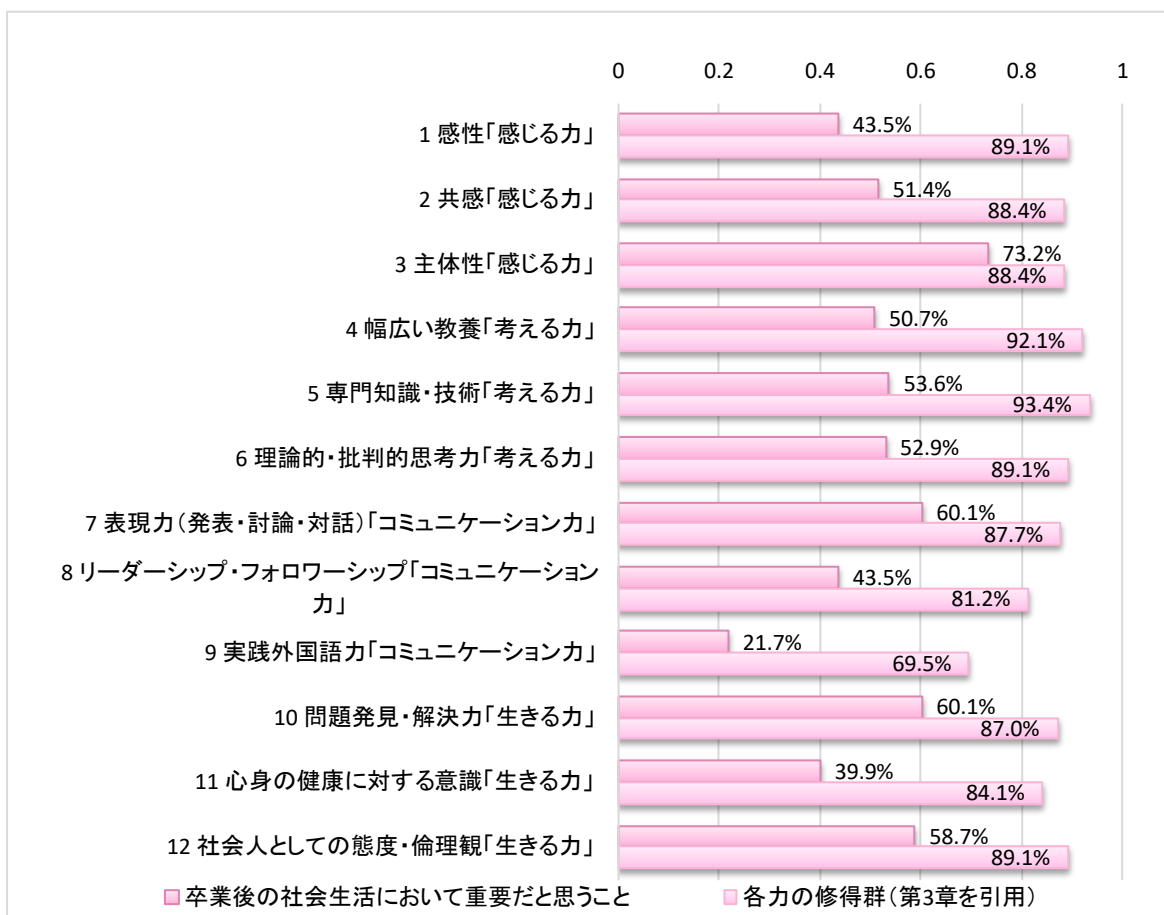


図 4-1 全卒業生（138 名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合
（各項目の 2 つ目のバーは修得率を示す。）

4.1.2 社会生活の場で重要な力（人文学部卒業生）

人文学部の卒業生（28名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、全12項目のうち6項目で選択率が50%を上回った。それらの項目とは、選択率が高い順に「3 主体性『感じる力』」、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」、「10 問題発見・解決力『生きる力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」、「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」であった。また、これらの項目の「第3章 三重大学の教育で成長したこと」における修得群は、「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」を除き、すべて90%台であった。

表 4-2 人文学部の卒業生（28名）が思う社会生活において重要だと思う力

	人文学部卒業生 (28名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	13	46.4%	92.9%
2 共感「感じる力」	13	46.4%	92.8%
3 主体性「感じる力」	21	75.0%	96.4%
4 幅広い教養「考える力」	13	46.4%	96.4%
5 専門知識・技術「考える力」	11	39.3%	96.4%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	16	57.1%	92.9%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	18	64.3%	96.4%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	14	50.0%	78.6%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	5	17.9%	75.0%
10 問題発見・解決力「生きる力」	17	60.7%	92.9%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	8	28.6%	85.7%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	18	64.3%	92.9%

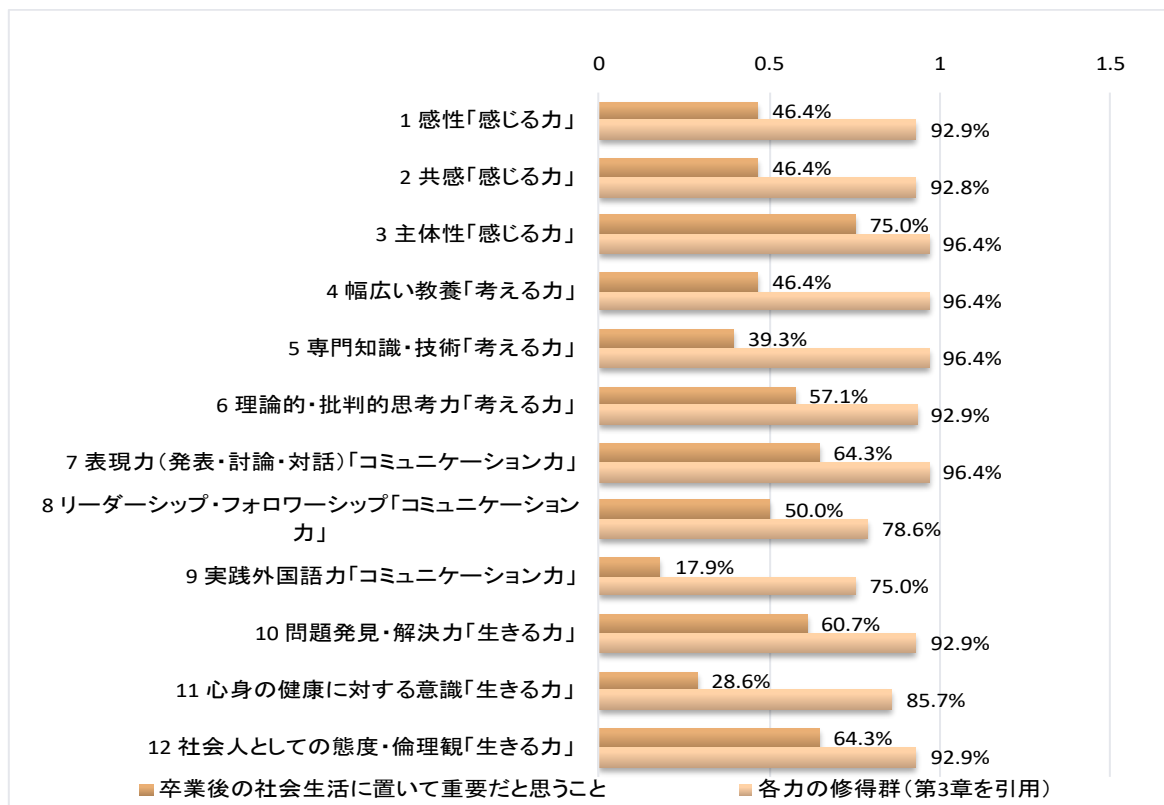


図 4-2 人文学部の卒業生（28名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合
（各項目の2つ目のバーは修得率を示す。）

4.1.3 社会生活の場で重要な力（教育学部卒業生）

教育学部の卒業生（25名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、全12項目のうち6項目で選択率が50%を上回った。それらの項目とは、選択率が高い順に「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」、「3 主体性『感じる力』」、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」、「10 問題発見・解決力『生きる力』」、「4 幅広い教養『考える力』」、「2 共感『感じる力』」であった。また、これらの項目の「第3章 三重大の教育で成長したこと」における修得群は、84.0%から92.0%であった。

表 4-3 教育学部の卒業生（25名）が思う社会生活において重要だと思う力

	教育学部卒業生 (25名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	12	48.0%	92.0%
2 共感「感じる力」	13	52.0%	84.0%
3 主体性「感じる力」	16	64.0%	84.0%
4 幅広い教養「考える力」	13	52.0%	92.0%
5 専門知識・技術「考える力」	11	44.0%	96.0%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	9	36.0%	84.0%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	15	60.0%	88.0%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	8	32.0%	72.0%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	3	12.0%	60.0%
10 問題発見・解決力「生きる力」	14	56.0%	80.0%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	11	44.0%	84.0%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	18	72.0%	92.0%

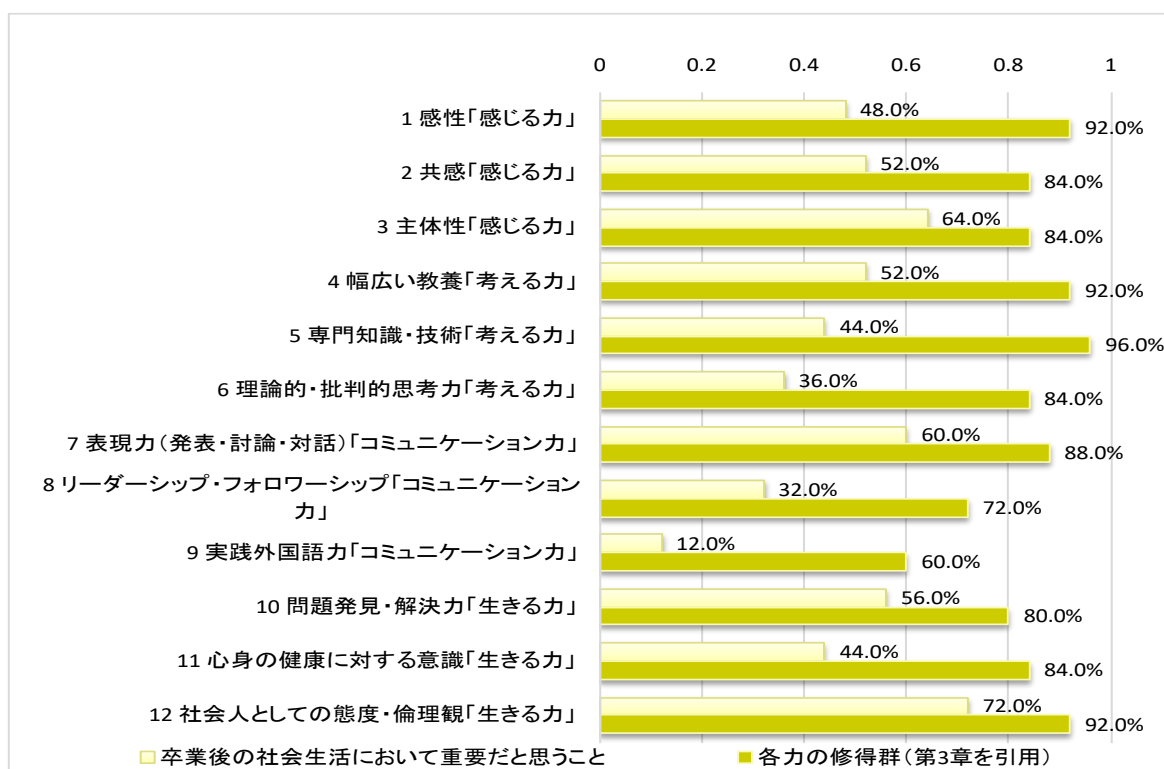


図 4-3 教育学部の卒業生（25 名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合（各項目の 2 つ目のバーは修得率を示す。）

4.1.4 社会生活の場で重要な力（医学部卒業生）

医学部の卒業生（30名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、全12項目のうち6項目で選択率が50%を上回った。それらの項目とは、選択率が高い順に「5 専門知識・技術『考える力』」、「3 主体性『感じる力』」、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」、「2 共感『感じる力』」、「10 問題発見・解決力『生きる力』」であった。また、これらの項目の「第3章 三重大学の教育で成長したこと」における修得群は、86.7%から96.7%であった。

表 4-4 医学部の卒業生（30名）が思う社会生活において重要だと思う力

	医学部卒業生 (30名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	14	46.7%	93.3%
2 共感「感じる力」	16	53.3%	93.3%
3 主体性「感じる力」	21	70.0%	90.0%
4 幅広い教養「考える力」	13	43.3%	90.0%
5 専門知識・技術「考える力」	21	70.0%	96.7%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	14	46.7%	93.3%
7 表現力（発表・討論・対話）「コミュニケーション力」	18	60.0%	86.7%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	9	30.0%	83.3%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	4	13.3%	63.3%
10 問題発見・解決力「生きる力」	16	53.3%	90.0%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	12	40.0%	90.0%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	17	56.7%	93.3%

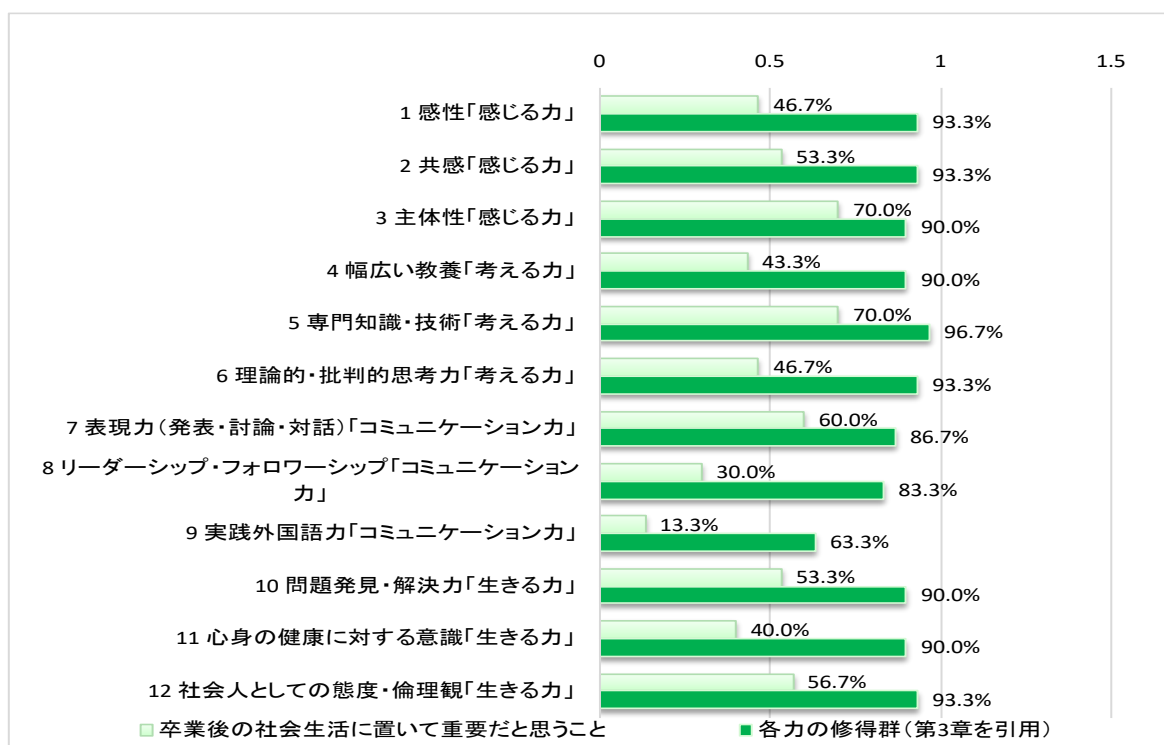


図 4-4 医学部の卒業生（30名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合（各項目の2つ目のバーは修得率を示す。）

4.1.5 社会生活の場で重要な力（工学部卒業生）

工学部の卒業生（27名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、全12項目のうち7項目で選択率が50%を上回った。それらの項目とは、選択率が高い順に「3 主体性『感じる力』」、「10 問題発見・解決力『生きる力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」、「5 専門知識・技術『考える力』」、「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」、「2 共感『感じる力』」、「4 幅広い教養『考える力』」であった。また、これらの項目の「第3章 三重大学の教育で成長したこと」における修得群は、81.4%から92.5%であった。

表 4-5 工学部の卒業生（27名）が思う社会生活において重要だと思う力

	工学部卒業生 (27名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	9	33.3%	81.4%
2 共感「感じる力」	15	55.6%	85.1%
3 主体性「感じる力」	22	81.5%	88.8%
4 幅広い教養「考える力」	14	51.9%	92.5%
5 専門知識・技術「考える力」	16	59.3%	85.1%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	17	63.0%	85.1%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	13	48.1%	81.4%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	15	55.6%	81.4%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	9	33.3%	62.9%
10 問題発見・解決力「生きる力」	17	63.0%	81.4%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	11	40.7%	70.3%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	13	48.1%	77.7%

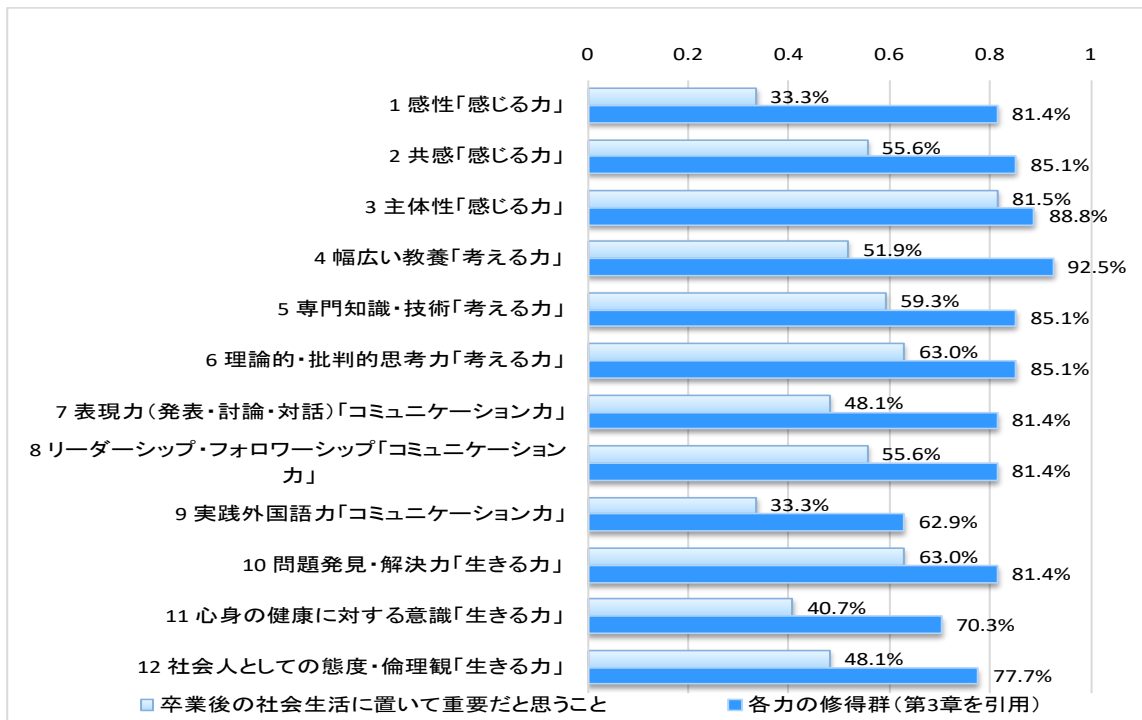


図 4-5 工学部の卒業生（27名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合（各項目の2つ目のバーは修得率を示す。）

4.1.6 社会生活の場で重要な力（生物資源学部卒業生）

生物資源学部の卒業生（28名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、全12項目のうち9項目で選択率が50%を上回った。それらの項目とは、選択率が高い順に「3 主体性『感じる力』」、「10 問題発見・解決力『生きる力』」、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」、「4 幅広い教養『考える力』」、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」、「5 専門知識・技術『考える力』」、「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」、「2 共感『感じる力』」であった。また、これらの項目の「第3章 三重大学の教育で成長したこと」における修得群は、82.1%から92.9%であった。

表 4-6 生物資源学部の卒業生（28名）が思う社会生活において重要だと思う力

	生物資源学部卒業生 (28名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	12	42.9%	85.7%
2 共感「感じる力」	14	50.0%	85.7%
3 主体性「感じる力」	21	75.0%	82.1%
4 幅広い教養「考える力」	17	60.7%	89.3%
5 専門知識・技術「考える力」	15	53.6%	92.9%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	17	60.7%	89.3%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	19	67.9%	85.7%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	14	50.0%	89.3%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	9	32.1%	85.7%
10 問題発見・解決力「生きる力」	19	67.9%	89.3%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	13	46.4%	89.3%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	15	53.6%	89.3%

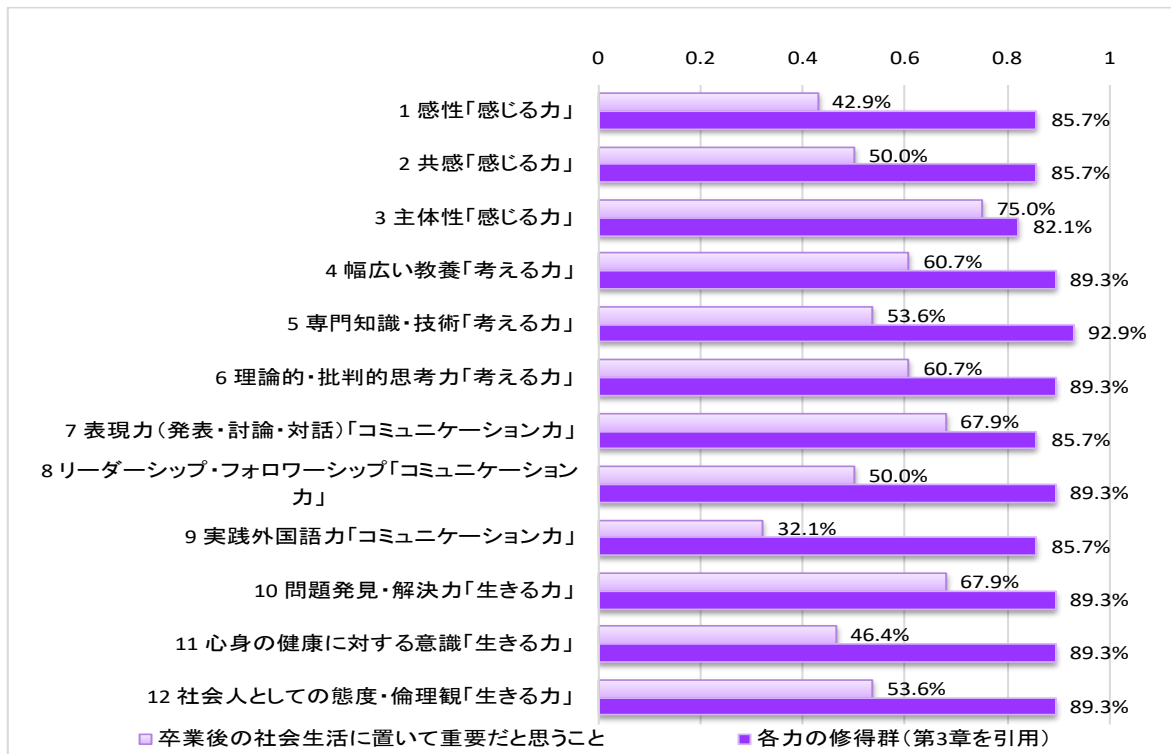


図 4-6 生物資源学部の卒業生（28 名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合（各項目の 2 つ目のバーは修得率を示す。）

4.2 社会生活の場で重要な力（修了生）

大学院修了後の社会生活の場で、特に重要だと思う力について修了生にたずねた。回答は、12個の選択肢の中から、自由に選択するように求めた（選択肢は卒業生と共通）。全修了生（65名）のうち、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、全12項目のうち5項目で選択率が50%を上回った。それらの項目とは、選択率が高い順に「3 主体性『感じる力』」、「5 専門知識・技術『考える力』」、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」、「4 幅広い教養『考える力』」であった。また、これらの項目の「第3章 三重大学の教育で成長したこと」における修得群は、52.3%から66.2%であった。

表 4-7 全修了生（65名）が思う社会生活において重要だと思う力

	全修了生 (65名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	24	36.9%	84.6%
2 共感「感じる力」	28	43.1%	84.6%
3 主体性「感じる力」	43	66.2%	93.8%
4 幅広い教養「考える力」	34	52.3%	84.6%
5 専門知識・技術「考える力」	41	63.1%	89.2%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	38	58.5%	92.3%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	40	61.5%	92.3%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	32	49.2%	80.0%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	19	29.2%	60.1%
10 問題発見・解決力「生きる力」	32	49.2%	86.2%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	24	36.9%	75.4%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	30	46.2%	76.9%

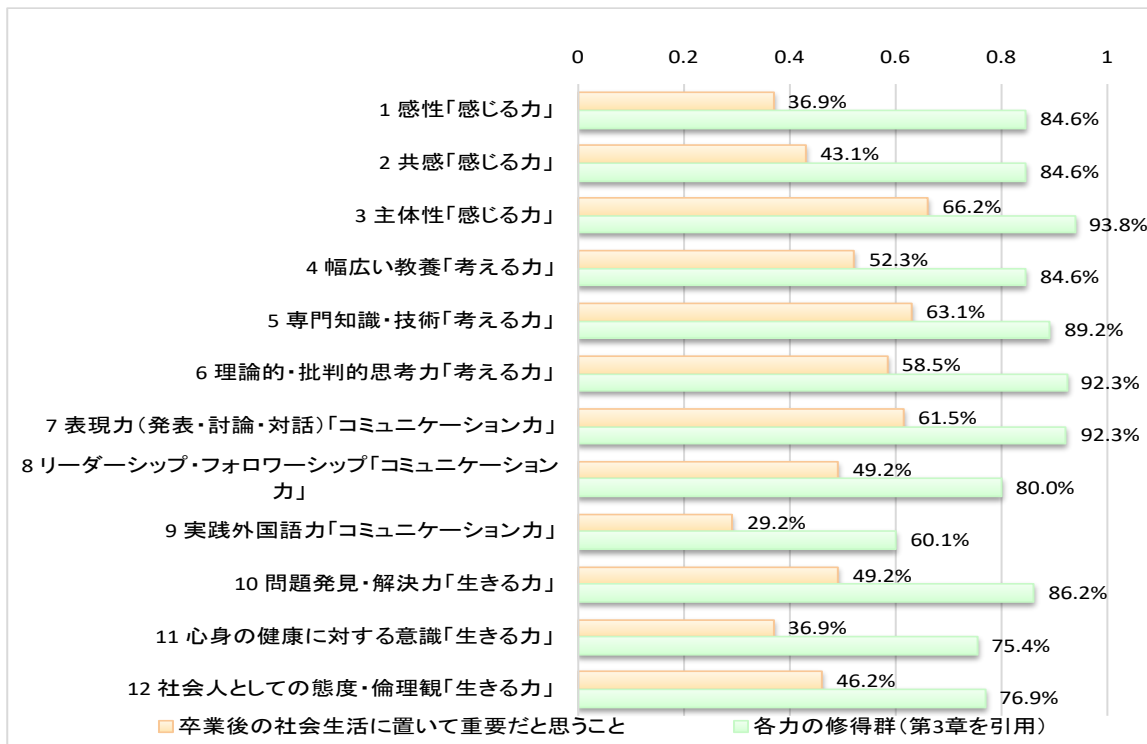


図 4-7 全修了生（65 名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合
（各項目の 2 つ目のバーは修得率を示す。）

5. 大学／大学院生活で重点を置いたこと

5.1 大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（卒業生）

大学生生活で特に重点を置いていたこと、後輩に重点を置いてほしいと思ったことについて卒業生にたずねた。回答は、各々19個の選択肢の中から、自由に選択するように求めた。全卒業生及び卒業学部別に各項目を選択した人数とその割合を算出した。また、「大学生生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果を示した。差し引いた結果、負の値が示された項目は、各卒業生が大学生生活で重点を置かなかったが、後輩には重点を置いてほしいこと、正の値が示された項目は、各卒業生が大学生生活で重点を置いたが、後輩には重点を置かなくてもいいと思った、ということを示唆する。

5.1.1 大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（全卒業生）

全卒業生（138名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生生活で重点を置いたこと」に関して最も割合が高かった項目は「2 学部専門の授業」68.8%であった。次いで「6 卒業研究」55.1%、「12 アルバイト」37.7%の順に高かった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」に関して、最も割合が高かったのは「2 学部専門の授業」62.3%であった。次いで、「6 卒業研究」50.7%、「11 クラブ・サークル」39.9%の順に高かった。

次に、「大学生生活で重点を置いたこと」の各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」の各項目の割合を引いた結果、10%以上のマイナスの値が示された項目が4項目あった。それらの項目とは、マイナスの値が大きかった順に、「15 就職活動」、「3 語学系の授業」、「10 留学」、「14 インターンシップ」であった。

表 5-1 全卒業生（138名）が大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしいと思った点	
	人	%	人	%
1 教養教育の授業	36	26.1%	37	26.8%
2 学部専門の授業	95	68.8%	86	62.3%
3 語学系の授業	15	10.9%	34	24.6%
4 情報の授業	9	6.5%	21	15.2%
5 PBLに関連する授業	8	5.8%	14	10.1%
6 卒業研究	76	55.1%	70	50.7%
7 ゼミ	48	34.8%	51	37.0%
8 実習	48	34.8%	42	30.4%
9 ボランティア	9	6.5%	14	10.1%
10 留学	6	4.3%	24	17.4%
11 クラブ・サークル	48	34.8%	55	39.9%
12 アルバイト	52	37.7%	47	34.1%
13 学生自治活動	1	0.7%	2	1.4%
14 インターンシップ	13	9.4%	30	21.7%
15 就職活動	18	13.0%	45	32.6%
16 採用資格準備	4	2.9%	14	10.1%
17 専門学校	0	0.0%	0	0.0%
18 レジャー	10	7.2%	17	12.3%
19 副専攻	3	2.2%	7	5.1%
20 その他	1	0.7%	1	0.7%

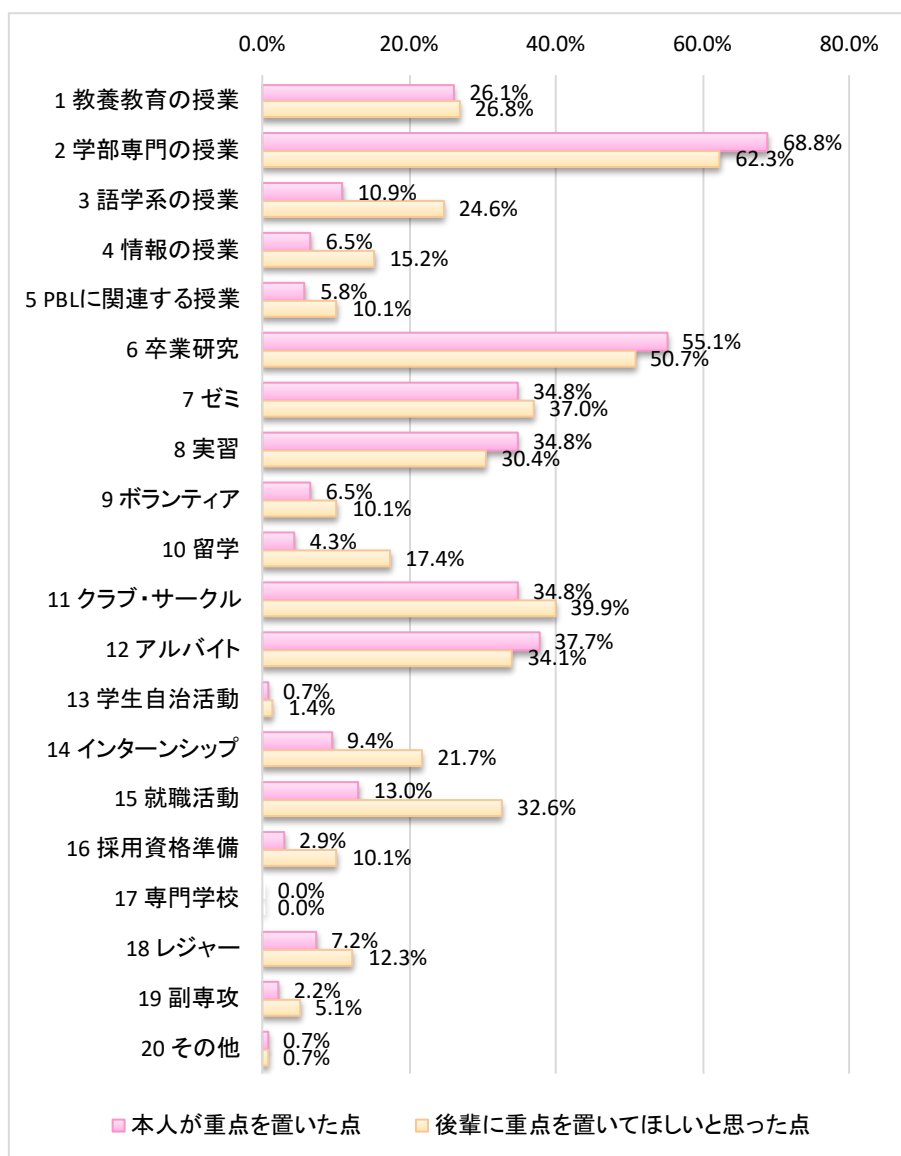


図 5-1 全卒業生（138 名）が大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.1.2 大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（人文学部卒業生）

人文学部の卒業生（28名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生生活で重点を置いたこと」に関して最も割合が高かった項目は「2 学部専門の授業」71.4%であった。次いで、「12 アルバイト」と「7 ゼミ」が同率で60.7%、「6 卒業研究」50.0%の順に高かった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」に関して、最も割合が高かったのは「2 学部専門の授業」で57.1%であった。次いで、「7 ゼミ」と「15 就職活動」が同率の53.6%、「6 卒業研究」46.4%の順に高かった。

次に、「大学生生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、5項目で10%以上のマイナス、2項目で10%以上のプラスの値が示された。まず、差がマイナスであった項目は、差の値が大きい順に「15 就職活動」、「10 留学」、「14 インターンシップ」、「3 語学系の授業」と「4 情報の授業」（同率）であった。差がプラスであった項目は、差の値が大きい順に「12 アルバイト」、「2 学部専門の授業」であった。

表 5-2 人文学部の卒業生（28名）が大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしいと思った点	
	人	%	人	%
1 教養教育の授業	7	25.0%	8	28.6%
2 学部専門の授業	20	71.4%	16	57.1%
3 語学系の授業	4	14.3%	7	25.0%
4 情報の授業	1	3.6%	4	14.3%
5 PBLに関連する授業	2	7.1%	2	7.1%
6 卒業研究	14	50.0%	13	46.4%
7 ゼミ	17	60.7%	15	53.6%
8 実習	2	7.1%	1	3.6%
9 ボランティア	3	10.7%	3	10.7%
10 留学	1	3.6%	7	25.0%
11 クラブ・サークル	8	28.6%	7	25.0%
12 アルバイト	17	60.7%	10	35.7%
13 学生自治活動	0	0.0%	0	0.0%
14 インターンシップ	4	14.3%	9	32.1%
15 就職活動	8	28.6%	15	53.6%
16 採用資格準備	0	0.0%	2	7.1%
17 専門学校	0	0.0%	0	0.0%
18 レジャー	0	0.0%	2	7.1%
19 副専攻	1	3.6%	3	10.7%
20 その他	1	3.6%	1	3.6%

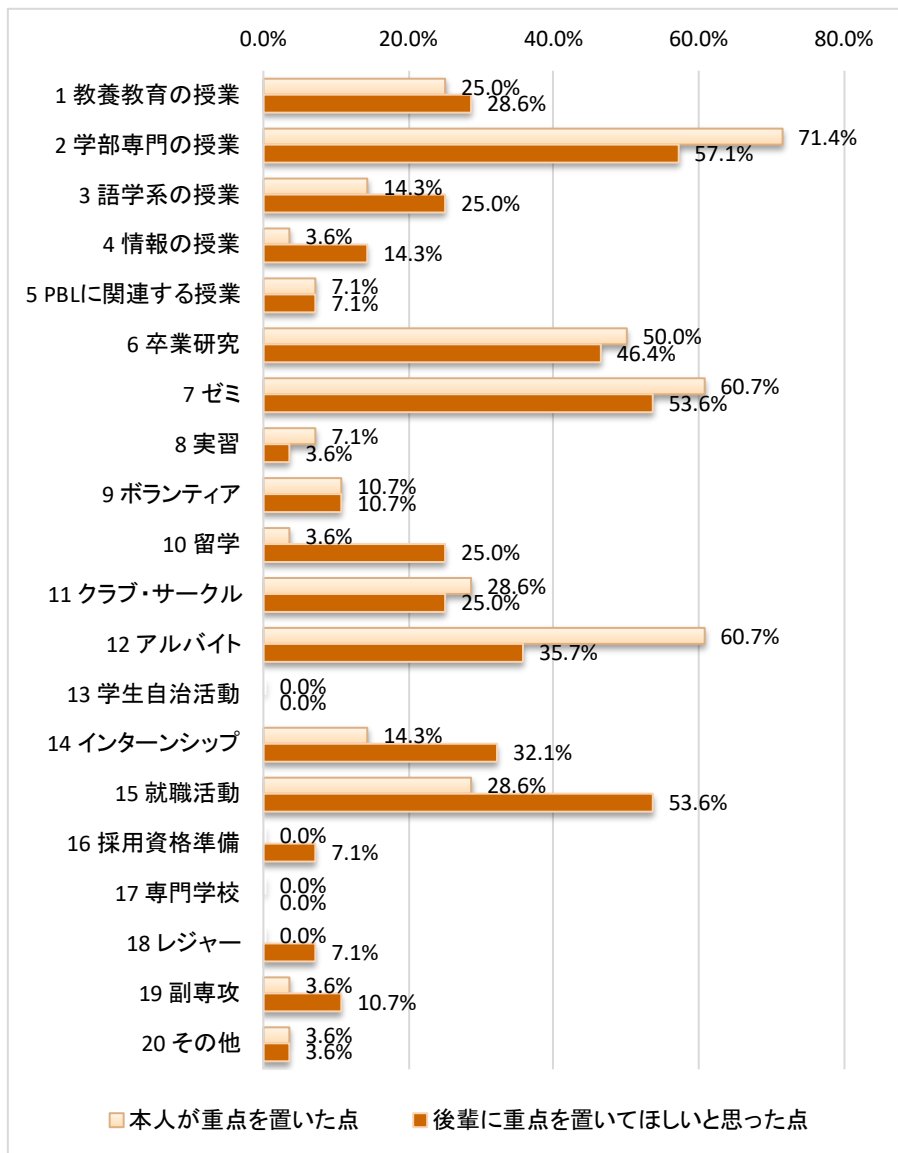


図 5-2 人文学部の卒業生（28名）が大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.1.3 大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（教育学部卒業生）

教育学部の卒業生（25名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生生活で重点を置いたこと」に関して最も割合が高かった項目は、「2 学部専門の授業」84.0%であった。次いで、「12 アルバイト」52.0%、「8 実習」と「6 卒業研究」が同率48.0%、という順に高かった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」に関して、最も割合が高かったのは「2 学部専門の授業」で72.0%であった。次いで、「8 実習」52.0%、「11 クラブ・サークル」48.0%の順に高かった。

次に、「大学生生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、3項目で10%以上のマイナス、3項目で10%以上のプラスの値が示された。まず、マイナスの値となったのは、「15 就職活動」、「10 留学」、「3 語学系の授業」の3項目であった。プラスの値となったのは、差の値が大きい順に「6 卒業研究」と「12 アルバイト」（同率）、「2 学部専門の授業」であった。

表 5-3 教育学部の卒業生（25名）が大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしいと思った点	
	人	%	人	%
1 教養教育の授業	8	32.0%	6	24.0%
2 学部専門の授業	21	84.0%	18	72.0%
3 語学系の授業	0	0.0%	3	12.0%
4 情報の授業	1	4.0%	2	8.0%
5 PBLに関連する授業	0	0.0%	1	4.0%
6 卒業研究	12	48.0%	8	32.0%
7 ゼミ	8	32.0%	7	28.0%
8 実習	12	48.0%	13	52.0%
9 ボランティア	4	16.0%	6	24.0%
10 留学	0	0.0%	3	12.0%
11 クラブ・サークル	11	44.0%	12	48.0%
12 アルバイト	13	52.0%	9	36.0%
13 学生自治活動	1	4.0%	0	0.0%
14 インターンシップ	0	0.0%	2	8.0%
15 就職活動	0	0.0%	3	12.0%
16 採用資格準備	1	4.0%	3	12.0%
17 専門学校	0	0.0%	0	0.0%
18 レジャー	5	20.0%	5	20.0%
19 副専攻	1	4.0%	1	4.0%
20 その他	0	0.0%	0	0.0%

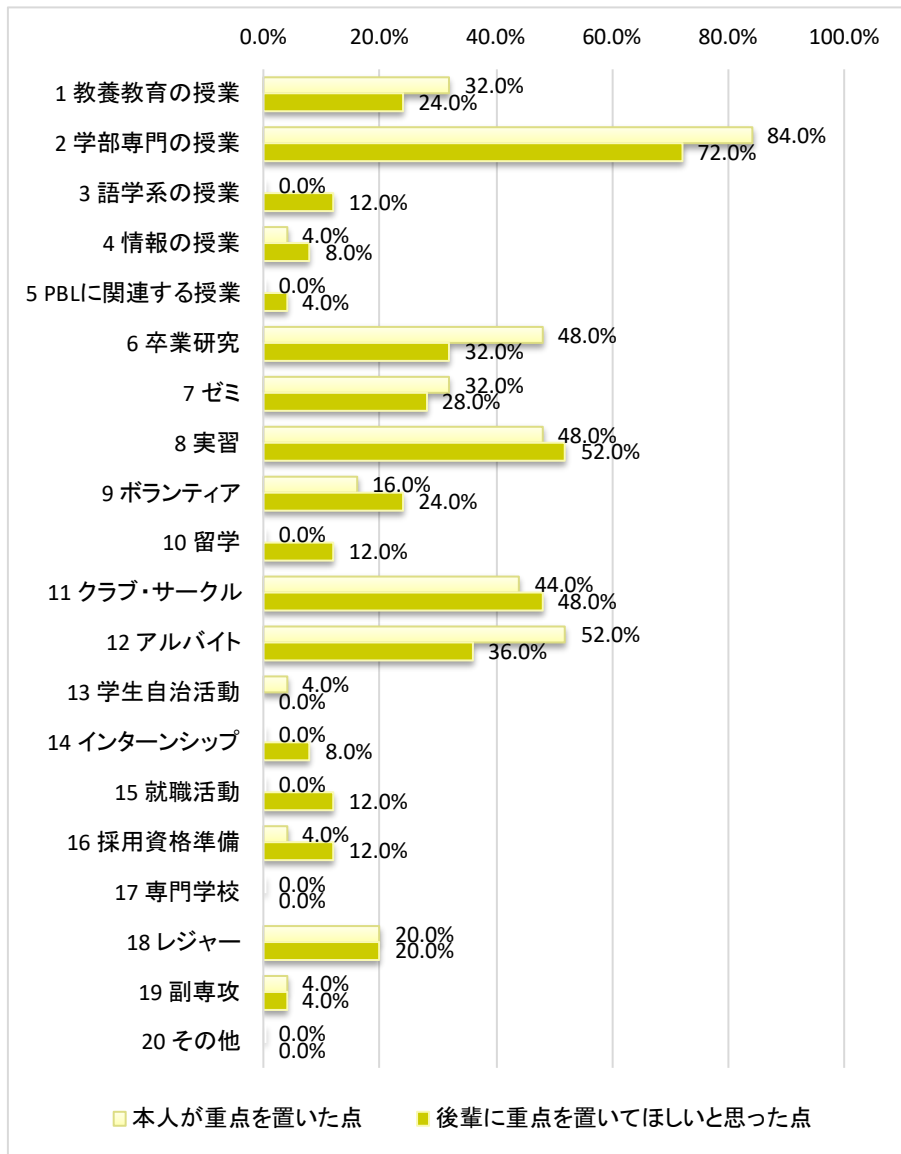


図5-3 教育学部の卒業生（25名）が大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.1.4 大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（医学部卒業生）

医学部の卒業生（30名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生生活で重点を置いたこと」に関して最も割合が高かった項目は、「8 実習」73.3%であった。次いで、「2 学部専門の授業」60.0%、「11 クラブ・サークル」40.0%の順に高かった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」に関して、最も割合が高かったのは「2 学部専門の授業」60.0%であった。次いで、「8 実習」56.7%、「11 クラブ・サークル」40.0%の順に高かった。

次に、「大学生生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、4項目で10%以上のマイナス、1項目で10%以上のプラスの値が示された。まず、マイナスの値が示されたのは、差の値が大きい順に「3 語学系の授業」、「7ゼミ」、「1 教養教育の授業」と「18 レジャー」（同率）であった。そして、プラスの値が示されたのは「8 実習」であった。

表 5-4 医学部の卒業生（30名）が大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしいと思った点	
	人	%	人	%
1 教養教育の授業	6	20.0%	9	30.0%
2 学部専門の授業	18	60.0%	18	60.0%
3 語学系の授業	4	13.3%	9	30.0%
4 情報の授業	0	0.0%	2	6.7%
5 PBLに関連する授業	2	6.7%	2	6.7%
6 卒業研究	8	26.7%	8	26.7%
7 ゼミ	1	3.3%	5	16.7%
8 実習	22	73.3%	17	56.7%
9 ボランティア	1	3.3%	0	0.0%
10 留学	2	6.7%	3	10.0%
11 クラブ・サークル	12	40.0%	12	40.0%
12 アルバイト	9	30.0%	9	30.0%
13 学生自治活動	0	0.0%	1	3.3%
14 インターンシップ	0	0.0%	2	6.7%
15 就職活動	3	10.0%	5	16.7%
16 採用資格準備	3	10.0%	3	10.0%
17 専門学校	0	0.0%	0	0.0%
18 レジャー	1	3.3%	4	13.3%
19 副専攻	0	0.0%	0	0.0%
20 その他	0	0.0%	0	0.0%

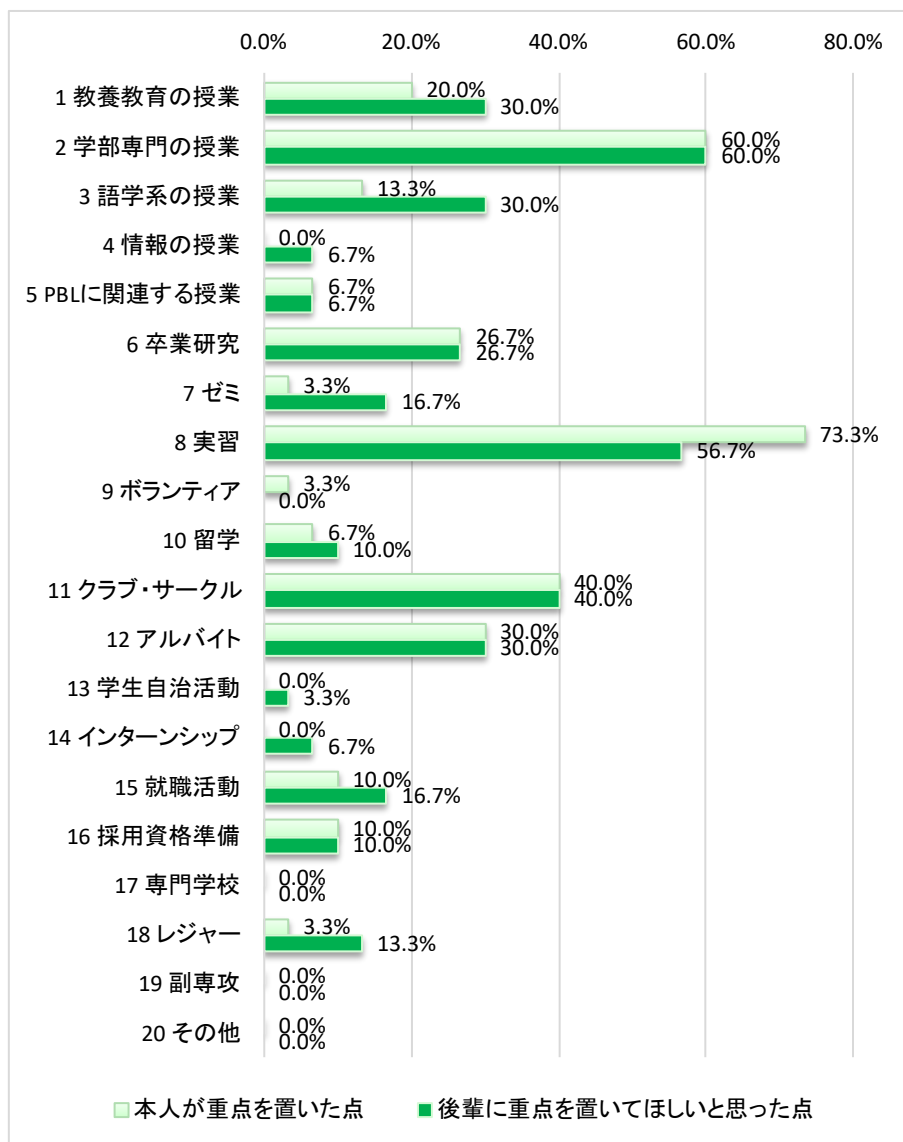


図 5-4 医学部の卒業生（30名）が大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.1.5 大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（工学部卒業生）

工学部の卒業生（28名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生活で重点を置いたこと」に関して最も割合が高かった項目は、「6 卒業研究」77.8%であった。次に高かった項目は、「2 学部専門の授業」74.1%であった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」に関して最も割合が高かったのは、「6 卒業研究」77.8%、「2 学部専門の授業」70.4%で、卒業生自身が重点をおいた項目と同じ結果であった。

次に、「大学生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、マイナス10%以上の値の差がある項目が5項目あった。それらの項目とは、差の値が大きい順に「15 就職活動」、「10 留学」、「11 クラブ・サークル」と「14 インターンシップ」（同率）、「12 アルバイト」であった。

表 5-5 工学部の卒業生（28名）が大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしいと思った点	
	人	%	人	%
1 教養教育の授業	6	22.2%	5	18.5%
2 学部専門の授業	20	74.1%	19	70.4%
3 語学系の授業	3	11.1%	5	18.5%
4 情報の授業	6	22.2%	6	22.2%
5 PBLに関連する授業	3	11.1%	4	14.8%
6 卒業研究	21	77.8%	21	77.8%
7 ゼミ	7	25.9%	9	33.3%
8 実習	3	11.1%	5	18.5%
9 ボランティア	0	0.0%	1	3.7%
10 留学	2	7.4%	7	25.9%
11 クラブ・サークル	9	33.3%	13	48.1%
12 アルバイト	8	29.6%	11	40.7%
13 学生自治活動	0	0.0%	1	3.7%
14 インターンシップ	5	18.5%	9	33.3%
15 就職活動	2	7.4%	11	40.7%
16 採用資格準備	0	0.0%	2	7.4%
17 専門学校	0	0.0%	0	0.0%
18 レジャー	1	3.7%	3	11.1%
19 副専攻	0	0.0%	2	7.4%
20 その他	0	0.0%	0	0.0%

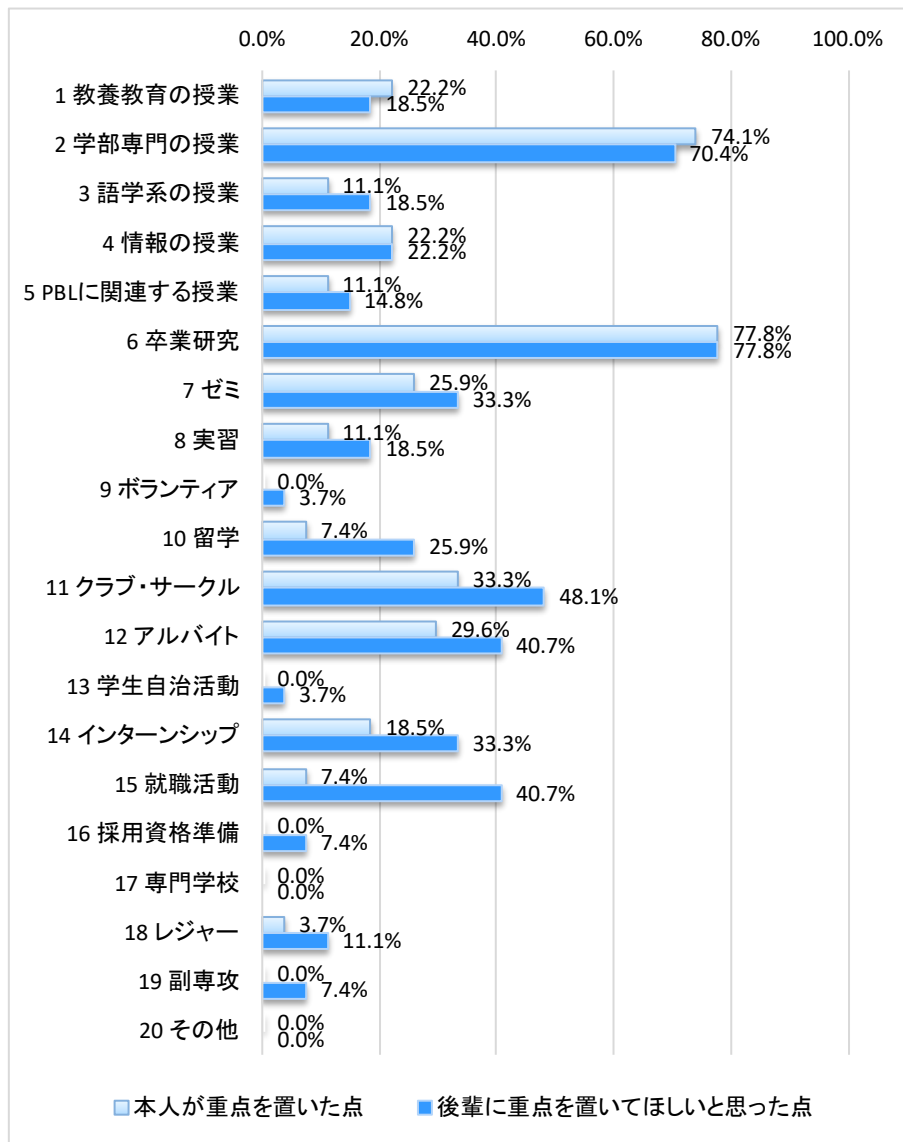


図 5-5 工学部の卒業生（28名）が大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.1.6 大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（生物資源学部卒業生）

生物資源学部の卒業生（27名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生生活で重点を置いたこと」に関して最も割合が高かった項目は、「6 卒業研究」75.0%であった。次いで、「2 学部専門の授業」57.1%、「7 ゼミ」53.6%の順に高かった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」で最も割合が高かったのは「6 卒業研究」71.4%で、次に高かったのは「2 学部専門の授業」と「7 ゼミ」で同率の53.6%であった。

次に、「大学生生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、マイナス10%以上の値の差がある項目が11項目あった。それらの項目のうち最も値の差が大きかったのは、「4 情報の授業」、「3 語学系の授業」、「15 就職活動」の3項目（-21.4%）であった。次いで、「16 採用資格準備」、「14 インターンシップ」、「5 PBLに関連する授業」の3項目（-14.3%）、「11 クラブ・サークル」、「9 ボランティア」、「10 留学」、「12 アルバイト」、「8 実習」の5項目（-10.7%）において差が大きかった。

表 5-6 生物資源学部の卒業生（27名）が大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしいと思った点	
	人	%	人	%
1 教養教育の授業	9	32.1%	9	32.1%
2 学部専門の授業	16	57.1%	15	53.6%
3 語学系の授業	4	14.3%	10	35.7%
4 情報の授業	1	3.6%	7	25.0%
5 PBLに関連する授業	1	3.6%	5	17.9%
6 卒業研究	21	75.0%	20	71.4%
7 ゼミ	15	53.6%	15	53.6%
8 実習	9	32.1%	6	21.4%
9 ボランティア	1	3.6%	4	14.3%
10 留学	1	3.6%	4	14.3%
11 クラブ・サークル	8	28.6%	11	39.3%
12 アルバイト	5	17.9%	8	28.6%
13 学生自治活動	0	0.0%	0	0.0%
14 インターンシップ	4	14.3%	8	28.6%
15 就職活動	5	17.9%	11	39.3%
16 採用資格準備	0	0.0%	4	14.3%
17 専門学校	0	0.0%	0	0.0%
18 レジャー	3	10.7%	3	10.7%
19 副専攻	1	3.6%	1	3.6%
20 その他	0	0.0%	0	0.0%

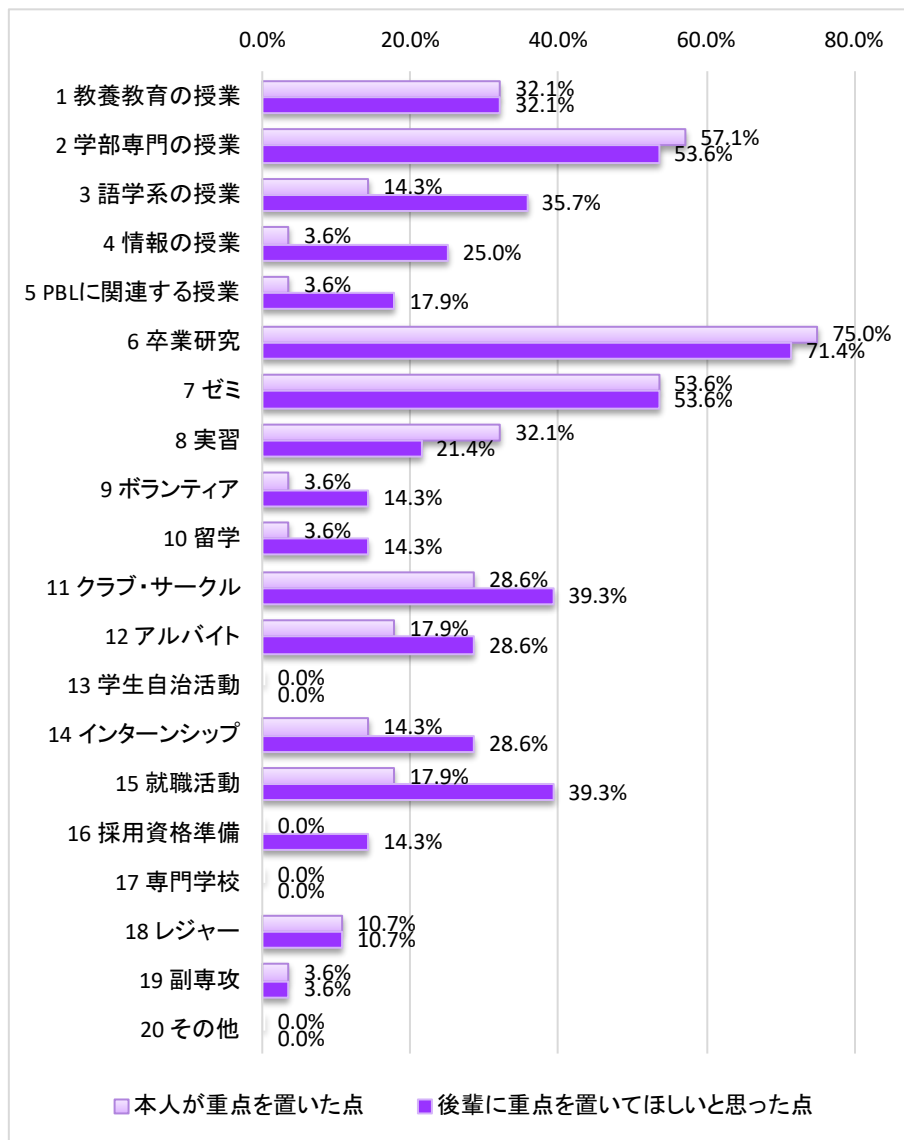


図 5-6 生物資源学部の卒業生（27 名）が大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.1.7 現在の職種による後輩に重点を置いてほしいと思ったこと（全卒業生）

全卒業生（138人）の現在の職種において最も多くを占める集団である「一般企業」（38人）、「医療関係」（30人）、「教職員」（17人）、「公務員」（16人）に注目し、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」について各項目を選択した人数とその割合を算出した。

その結果、まず、「一般企業」に勤務する卒業生の50%以上が後輩に重点をおいてほしいと思った項目は、「2 学部専門の授業」、「6 卒業研究」、「15 就職活動」の3項目であった。一方で、「一般企業」勤務の卒業生が後輩に重点をおいてほしいと思わなかった（0%であった）項目は、「20 その他」を除くと、「17 専門学校」のみであった。

次に、「医療関係」に従事する卒業生の50%以上が後輩に重点をおいてほしいと思った項目は、「2 学部専門の授業」および「8 実習」の2項目であった。一方で、「医療関係」に従事する卒業生が後輩に重点をおいてほしいと思わなかった（0%であった）項目は、「20 その他」を除くと、「9 ボランティア」、「17 専門学校」、「19 副専攻」の3項目であった。

そして、「教職員」である卒業生の50%以上が後輩に重点をおいてほしいと思った項目は、「2 学部専門の授業」および「8 実習」の2項目であった。一方で、「教職員」である卒業生が後輩に重点をおいてほしいと思わなかった（0%であった）項目は、「20 その他」を除くと、「5 PBLに関連する授業」、「13 学生自治活動」、「14 インターンシップ」、「15 就職活動」、「17 専門学校」の5項目であった。

最後に、「公務員」である卒業生の50%以上が後輩に重点をおいてほしいと思った項目は、「2 学部専門の授業」、「6 卒業研究」、「11 クラブ・サークル」、「12 アルバイト」の4項目であった。一方で、「公務員」である卒業生が後輩に重点をおいてほしいと思わなかった（0%であった）項目は、「20 その他」を除くと、「3 語学系の授業」、「13 学生自治活動」、「17 専門学校」、「19 副専攻」の4項目であった。

表 5-7 現在の職種による後輩に重点を置いてほしいと思ったこと（卒業生）

	1 教養教育の授業		2 学部専門の授業		3 語学系の授業		4 情報の授業		5 PBLに関連する授業		6 卒業研究		7 ゼミ	
	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%
公務員	4	25.0%	8	50.0%	0	0.0%	1	6.3%	1	6.3%	8	50.0%	7	43.8%
教職員	3	17.6%	14	82.4%	2	11.8%	1	5.9%	0	0.0%	5	29.4%	6	35.3%
一般企業	10	26.3%	22	57.9%	10	26.3%	9	23.7%	5	13.2%	21	55.3%	15	39.5%
医療関係	9	30.0%	18	60.0%	9	30.0%	2	6.7%	2	6.7%	8	26.7%	5	16.7%
	8 実習		9 ボランティア		10 留学		11 クラブ・サークル		12 アルバイト		13 学生自治活動		14 インターンシップ	
	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%
公務員	1	6.3%	3	18.8%	3	18.8%	8	50.0%	8	50.0%	0	0.0%	6	37.5%
教職員	12	70.6%	6	35.3%	3	17.6%	7	41.2%	7	41.2%	0	0.0%	0	0.0%
一般企業	7	18.4%	3	7.9%	7	18.4%	16	42.1%	12	31.6%	1	2.6%	13	34.2%
医療関係	16	53.3%	0	0.0%	3	10.0%	11	36.7%	8	26.7%	1	3.3%	2	6.7%
	15 就職活動		16 採用資格準備		17 専門学校		18 レジャー		19 副専攻		20 その他			
	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%		
公務員	7	43.8%	1	6.3%	0	0.0%	3	18.8%	0	0.0%	0	0.0%		
教職員	0	0.0%	2	11.8%	0	0.0%	3	17.6%	1	5.9%	0	0.0%		
一般企業	19	50.0%	4	10.5%	0	0.0%	7	18.4%	1	2.6%	1	2.6%		
医療関係	5	16.7%	3	10.0%	0	0.0%	3	10.0%	0	0.0%	0	0.0%		

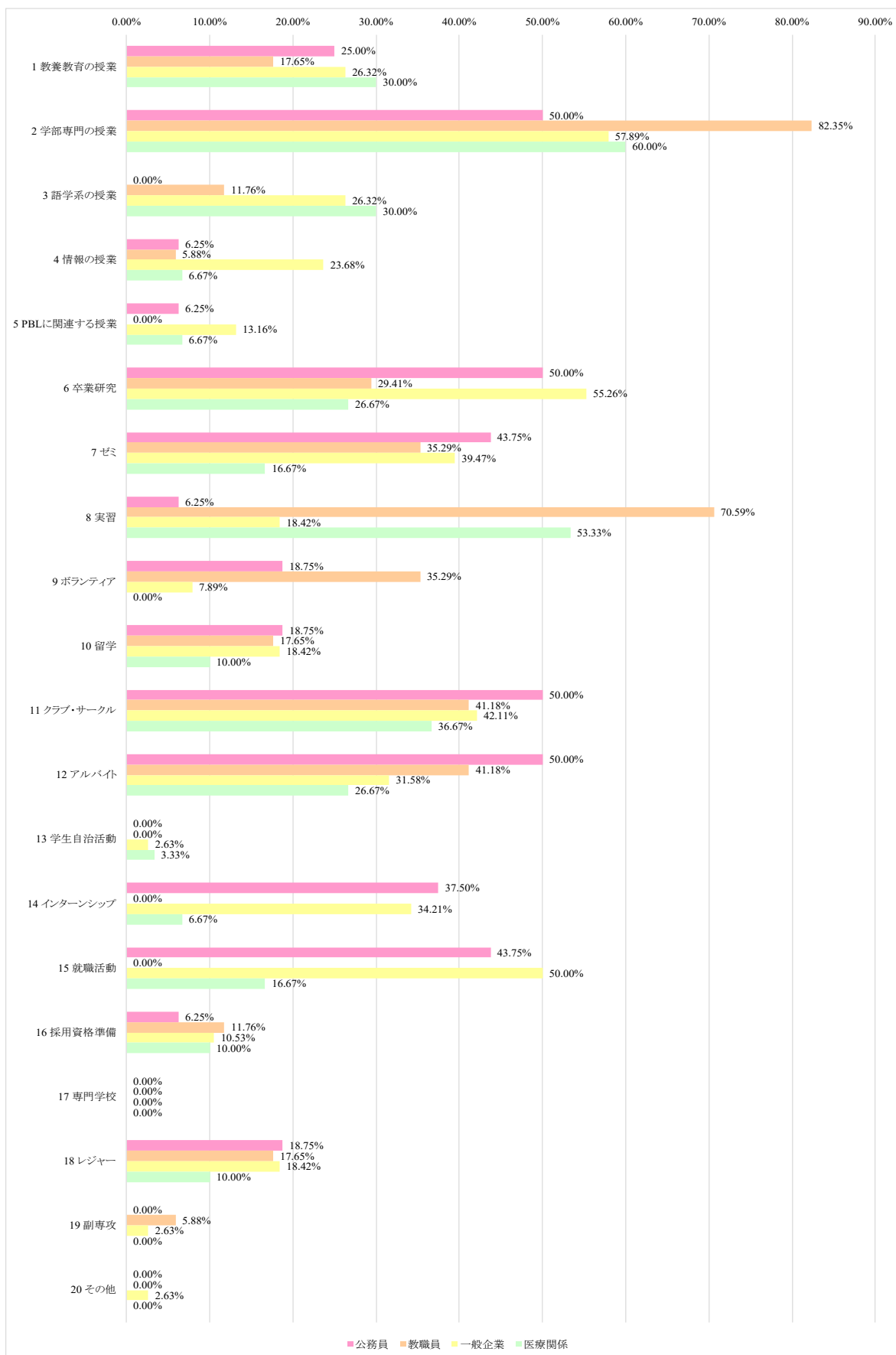


図 5-7 現在の職種による後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合（卒業生）

5.2 大学院生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（全修了生）

大学院生活で特に重点を置いていたものについて修了生にたずねた。回答は、17個の選択肢の中から自由に選択するように求めた。修了生からの全回答（65名）のうち、各項目を選択した人数とその割合を算出した。なお、修了生の回答数は少ないため、研究科別の結果および現在の職種による後輩に重点を置いてほしいと思ったことについては、掲載しないこととした。

修了生からの全回答（65名）のうち、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生活で重点を置いたこと」に関して選択した人の割合が50%以上であった項目は、「4 研究活動」78.5%と「3 学位論文」66.2%であった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」に関して選択した人の割合が50%以上であった項目も、同様に「4 研究活動」と「3 学位論文」の2項目で、選択率は各々73.8%と60.0%であった。「大学生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、マイナス10%以上の差があった項目は、「12 就職活動」であった。一方で、プラス10%以上を示した項目は、「1 大学院の授業」であった。

表 5-8 全修了生（65名）が大学院生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしいと思った点	
	人	%	人	%
1 大学院の授業	23	35.4%	16	24.6%
2 PBLに関連する授業	1	1.5%	3	4.6%
3 学位論文	43	66.2%	39	60.0%
4 研究活動	51	78.5%	48	73.8%
5 ゼミ	21	32.3%	16	24.6%
6 実習	9	13.8%	13	20.0%
7 ボランティア	1	1.5%	2	3.1%
8 留学	3	4.6%	7	10.8%
9 クラブ・サークル	6	9.2%	9	13.8%
10 アルバイト	7	10.8%	6	9.2%
11 学生自治活動	0	0.0%	2	3.1%
12 就職活動	11	16.9%	22	33.8%
13 採用資格準備	1	1.5%	5	7.7%
14 専門学校	0	0.0%	0	0.0%
15 レジャー	2	3.1%	5	7.7%
16 副専攻	1	1.5%	3	4.6%
17 その他	2	3.1%	2	3.1%

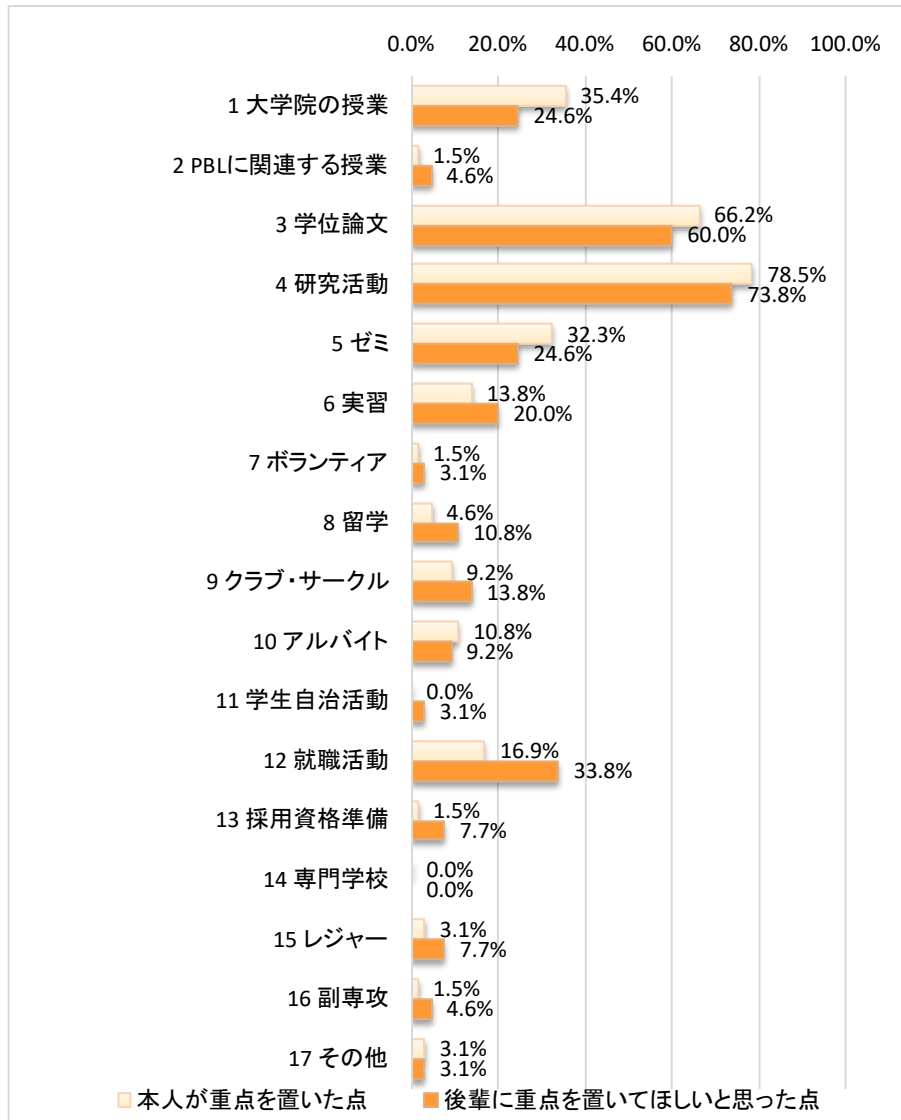


図 5-8 全修了生（65 名）が大学院生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

6. 三重大学との関わり方

6.1 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（卒業生）

大学卒業後の三重大学や三重大学の関係者との関わり方、大学の関係者や出身者の中で今後関わる事が予想される者について卒業生にたずねた。まず、大学卒業後の三重大学や三重大学の関係者との関わり方に関する質問項目では、回答は4つの選択肢の中から1つを選択するように求めた。また、大学の関係者や出身者の中で今後関わる事が予想される者に関する質問項目では、7つの選択肢の中から自由に選択するように求めた。全卒業生及び卒業学部別に各項目を選択した人数とその割合を算出した。

6.1.1 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（全卒業生）

卒業生からの全回答（138名）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。まず、「三重大学や三重大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大学の卒業生が大学の関係者と関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は9.4%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は41.3%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は48.6%という結果となった。これらの合計は99.3%であり、三重大学の卒業生が大学の関係者との関わることに對して概ね肯定的に捉えていることが分かる。（表6-1、図6-1を参照）

また、「大学の関係者や出身者の中で今後関わる事が予想される者に関する各項目に対しては、「1 卒業研究／論文の指導教員」は49.3%、「2 1以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は15.9%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は59.4%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は32.6%を示した。つまり、教員との関係では、卒業に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先される傾向があり、出身者同士の関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向があるということが分かる。また、教員との関わり（1と2）と出身者同士での関わり（3と4）とでは、出身者同士での関わりを優先する傾向が強かった。一方、「職員」との関わりは7.2%であり、関わる事があまり予想されていないことが分かった。（表6-2、図6-2を参照）

表 6-1 全卒業生（138 名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方

	全卒業生 (138名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	13	9.4%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	57	41.3%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	67	48.6%
4 できれば関わりたくない	1	0.7%

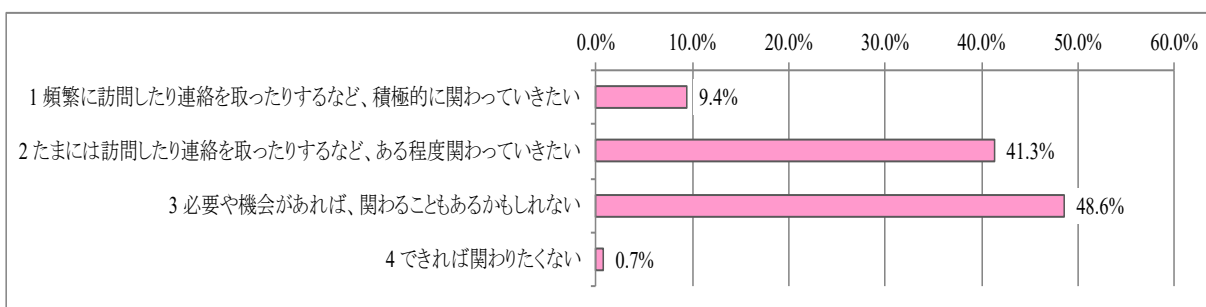


図 6-1 全卒業生（138 名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方の割合

表 6-2 全卒業生（138 名）の 大学の関係者や出身者の中で今後関わることを予想される者

	全卒業生 (138名中)	
	人	%
1 卒業研究／論文の指導教員	68	49.3%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	22	15.9%
3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生	82	59.4%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	45	32.6%
5 職員	10	7.2%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	11	8.0%
7 その他	1	0.7%

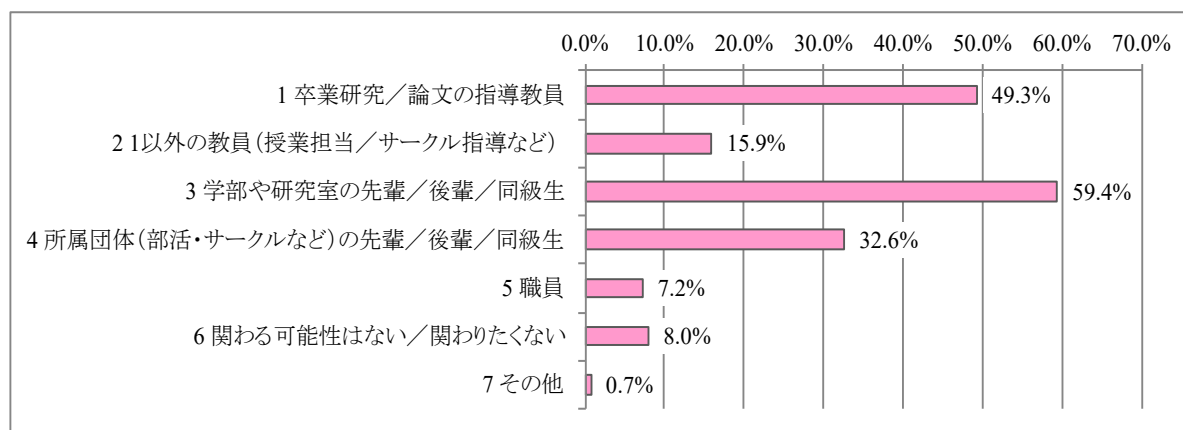


図 6-2 全卒業生（138 名）の 大学の関係者や出身者の中で今後関わることを予想される者の割合

6.1.2 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（人文学部卒業生）

人文学部の卒業生（28名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。

まず、「三重大学や三重大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大学の卒業生が大学の関係者との関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は3.6%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は57.1%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は39.3%を示した。これらの合計は100%であり、人文学部の卒業生が大学の関係者との関わることに肯定的に捉えていることが分かる。（表 6-3、図 6-3 を参照）

また、「大学の関係者や出身者の中で今後関わるのが予想される者に関する各項目に対しては、「1 卒業研究／論文の指導教員」は46.4%、「2 1以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は14.3%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は57.1%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は35.7%という結果であった。つまり、教員との関係では、卒業に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先され、出身者同士での関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向があった。また、教員との関わり（1と2）と出身者同士での関わり（3と4）とでは、出身者同士での関わりを優先する傾向が強かった。一方、「職員」との関わりに関しては3.6%であり、あまり関わるのが予想されていないことが分かった。（表 6-4、図 6-4 を参照）

表 6-3 人文学部の卒業生（28名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方

	人文学部卒業生 (28名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	1	3.6%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	16	57.1%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	11	39.3%
4 できれば関わりたくない	0	0.0%

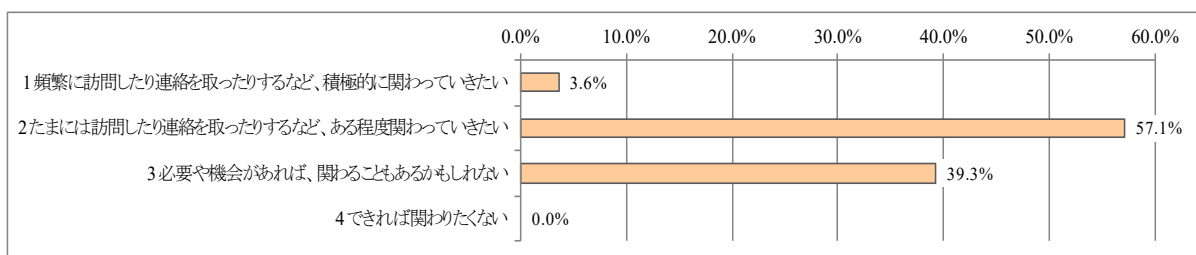


図 6-3 人文学部の卒業生（28名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方の割合

表 6-4 人文学部の卒業生（28名）の 大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者

	人文学部卒業生 (28名中)	
	人	%
1 卒業研究／論文の指導教員	13	46.4%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	4	14.3%
3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生	16	57.1%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	10	35.7%
5 職員	1	3.6%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	3	10.7%
7 その他	1	3.6%

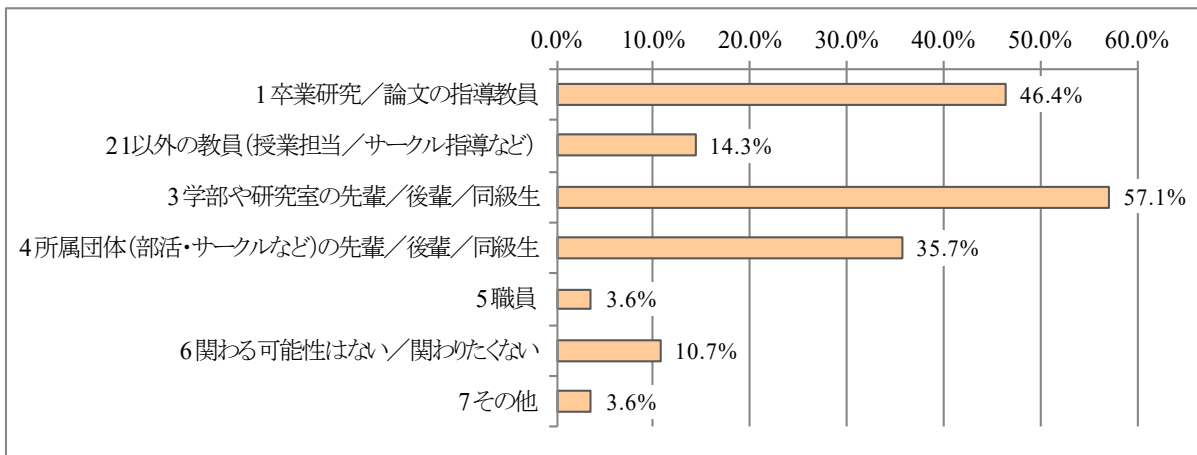


図 6-4 人文学部の卒業生（28名）の 大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者の割合

6.1.3 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（教育学部卒業生）

教育学部の卒業生（25名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。

まず、「三重大学や三重大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大学の卒業生が大学の関係者との関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は8.0%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は28.0%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は60.0%であった。これらの合計は96%であり、教育学部の卒業生が大学の関係者との関わることに肯定的に捉えていることが分かる。（表 6-5、図 6-5 を参照）

また、「大学の関係者や出身者の中で今後関わるものが予想される者に関する各項目に対しては、「1 卒業研究／論文の指導教員」は48.0%、「21 以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は16.0%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は68.0%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は40.0%であった。つまり、教員との関係では、卒業に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先され、出身者同士での関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向があることが分かった。また、教員との関わり（1と2）と出身者同士での関わり（3と4）とでは、出身者同士での関わりを優先する傾向が強かった。一方、「職員」との関わりに関しては0.0%であり、関わるものが予想されていないことが分かった。（表 6-5、図 6-5）

表 6-5 教育学部の卒業生（25名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方

	教育学部卒業生 (25名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	2	8.0%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	7	28.0%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	15	60.0%
4 できれば関わりたくない	1	4.0%

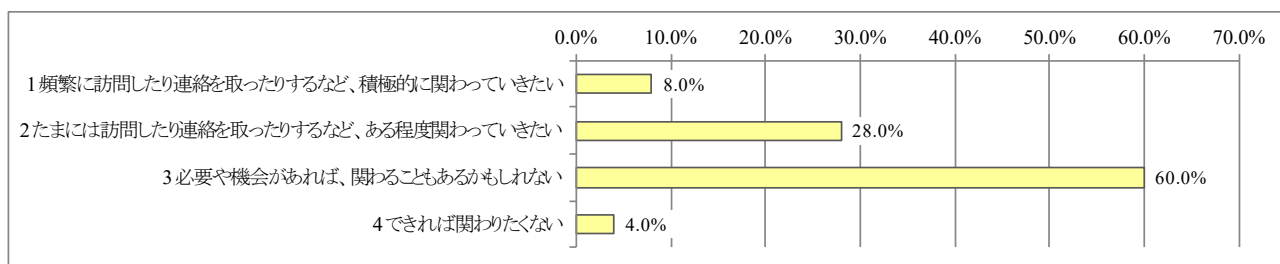


図 6-5 教育学部の卒業生（25名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方の割合

表 6-6 教育学部の卒業生（25名）の 大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者

	教育学部卒業生 (25名中)	
	人	%
1 卒業研究／論文の指導教員	12	48.0%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	4	16.0%
3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生	17	68.0%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	10	40.0%
5 職員	2	8.0%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	3	12.0%
7 その他	0	0.0%

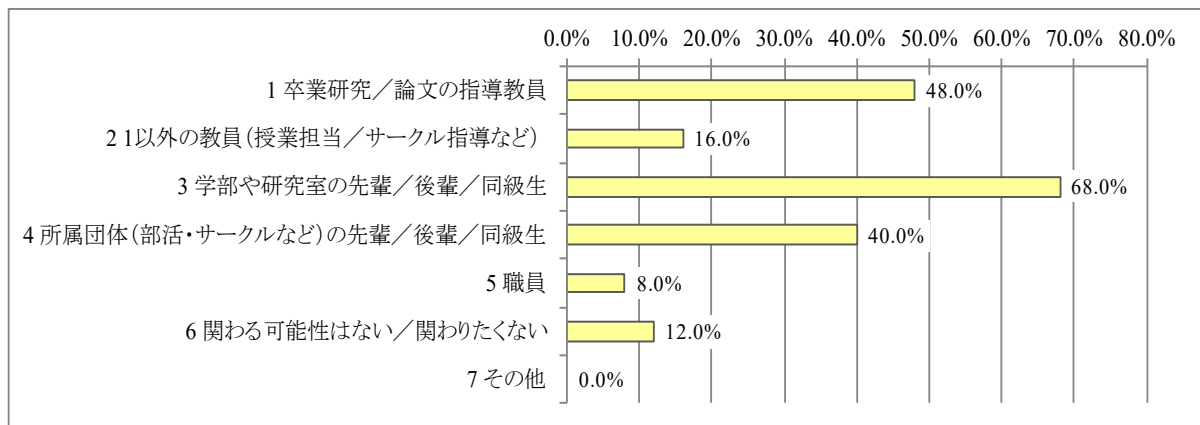


図 6-6 教育学部の卒業生（25名）の 大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者の割合

6.1.4 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（医学部卒業生）

医学部の卒業生（30名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。

まず、「三重大学や三重大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大学の卒業生が大学の関係者と関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていきたい」は10.0%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていきたい」は43.3%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は46.7%を示した。これらの合計は100%であり、医学部の卒業生が大学の関係者との関わることに肯定的に捉えていることが分かる。（表 6-7、図 6-7 を参照）

また、「大学の関係者や出身者の中で今後関わるものが予想される者に関する各項目に対しては、「1 卒業研究／論文の指導教員」は43.3%、「2 1以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は20.0%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は30.0%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は36.7%であった。つまり、教員との関係では、卒業に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先され、出身者同士での関わりでは、卒業生全体の傾向とは異なり医学部では、正課外活動（4）において形成された関係が、正課活動（3）において形成された関係より優先されるという特徴的な傾向がある。また、教員との関わり（1と2）と出身者同士での関わり（3と4）との比較でも、卒業生全体の傾向とは異なり教員との関わりの方がやや優先される傾向があるが、その差は大きくないという特徴がある。一方、「職員」との関わりに関しては0.0%であり、関わるものが予想されていない。（表 6-8、図 6-8 を参照）

表 6-7 医学部の卒業生（30名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方

	医学部卒業生 (30名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていきたい	3	10.0%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていきたい	13	43.3%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	14	46.7%
4 できれば関わりたくない	0	0.0%

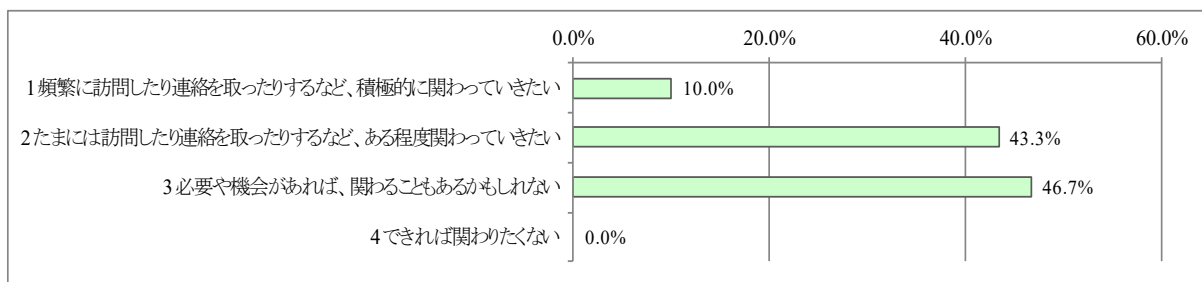


図 6-7 医学部の卒業生（30名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方の割合

表 6-8 医学部の卒業生（30名）の 大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者

	医学部卒業生 (30名中)	
	人	%
1 卒業研究／論文の指導教員	13	43.3%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	6	20.0%
3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生	9	30.0%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	11	36.7%
5 職員	3	10.0%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	2	6.7%
7 その他	0	0.0%

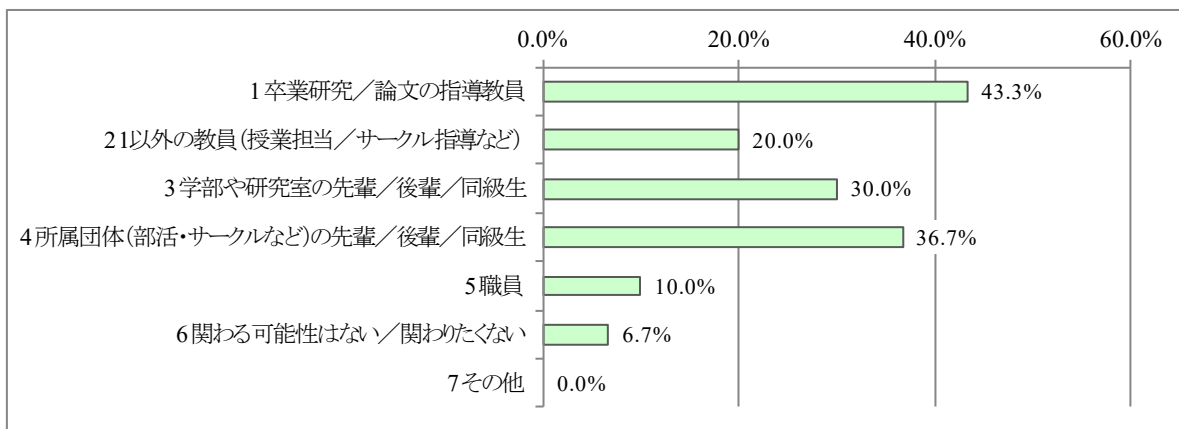


図 6-8 医学部の卒業生（30名）の 大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者の割合

6.1.5 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（工学部卒業生）

工学部の卒業生（27名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。まず、「三重大学や三重大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大学の卒業生が大学の関係者と関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は14.8%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は37.0%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は48.1%であった。これらの合計は99.9%であり、工学部の卒業生が大学の関係者との関わり方に対して肯定的に捉えていることが分かる。（表 6-9、図 6-9 を参照）

また、「大学の関係者や出身者の中で今後関わるものが予想される者に関する各項目に対しては、「1 卒業研究／論文の指導教員」は40.7%、「2 1以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は11.1%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は77.8%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は29.6%であった。つまり、教員との関係では、卒業に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先され、出身者同士での関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向がある。また、教員との関わり（1と2）と出身者同士での関わり（3と4）とでは、出身者同士での関わりを優先する傾向が強い。一方、「職員」との関わりに関しては0.0%であり、関わるものが予想されていない。（表 6-9、図 6-9 を参照）

表 6-9 工学部の卒業生（27名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方の割合

	工学部卒業生 (27名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	4	14.8%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	10	37.0%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	13	48.1%
4 できれば関わりたくない	0	0.0%

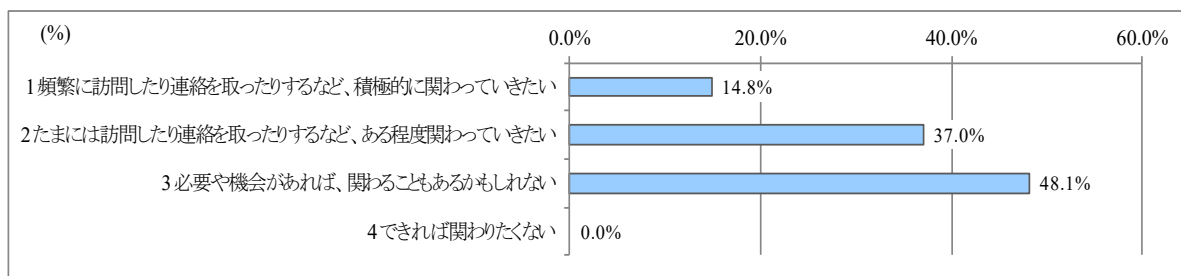


図 6-9 工学部の卒業生（27名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方の割合

表 6-10 工学部の卒業生（27名）の 大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者

	工学部卒業生 (27名中)	
	人	%
1 卒業研究／論文の指導教員	11	40.7%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	3	11.1%
3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生	21	77.8%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	8	29.6%
5 職員	0	0.0%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	2	7.4%
7 その他	0	0.0%

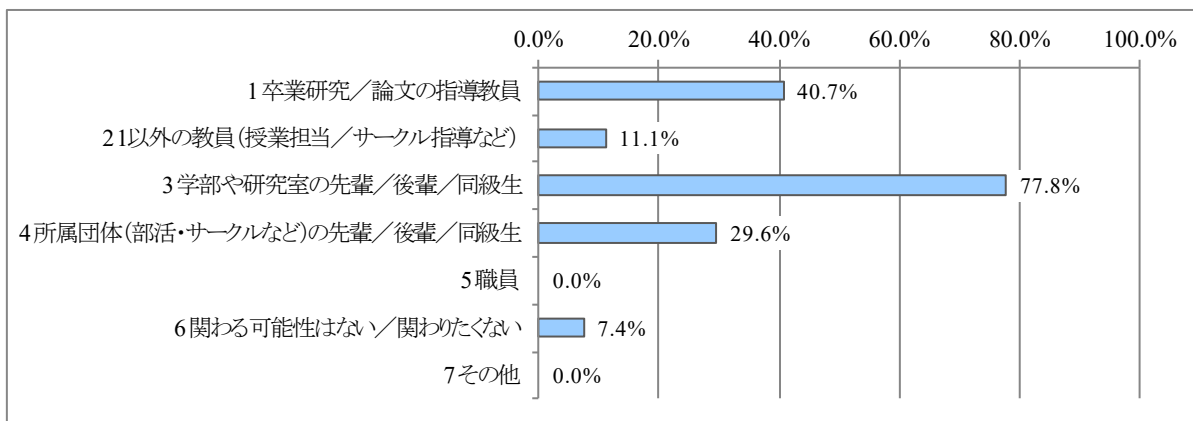


図 6-10 工学部の卒業生（27名）の 大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者の割合

6.1.6 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（生物資源学部卒業生）

生物資源学部の卒業生（28名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。まず、「三重大学や三重大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大学の卒業生が大学の関係者と関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は10.7%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は39.3%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は50.0%を示した。これらの合計は100%であり、生物資源学部の卒業生が大学の関係者と関わることに肯定的に捉えていることが分かる。（表 6-11、図 6-11 を参照）

また、「大学の関係者や出身者の中で今後関わるものが予想される者に関する各項目に対しては、「1 卒業研究／論文の指導教員」は67.9%、「2 1以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は17.9%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は67.9%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は21.4%であった。つまり、教員との関係では、卒業に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先され、出身者同士での関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向がある。また、教員との関わり（1と2）と出身者同士での関わり（3と4）とでは、出身者同士での関わりを優先する傾向があるが、全卒業生の傾向と比べると、生物資源科学部に関してはその差が大きいという特徴がある。一方、「職員」との関わりについては14.3%であり、あまり予想されていないものの、他学部よりは高いという特徴がある。（表 6-11、図 6-11）

表 6-11 生物資源学部の卒業生（28名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方

	生物資源学部卒業生 (28名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	3	10.7%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	11	39.3%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	14	50.0%
4 できれば関わりたくない	0	0.0%

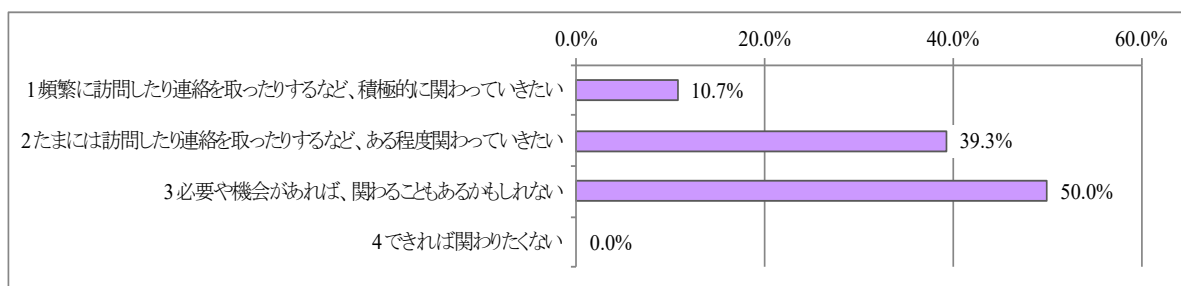


図 6-11 生物資源学部の卒業生（28名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方の割合

表 6-12 生物資源学部の卒業生（28名）の 大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者

	生物資源学部卒業生 (28名中)	
	人	%
1 卒業研究／論文の指導教員	19	67.9%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	5	17.9%
3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生	19	67.9%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	6	21.4%
5 職員	4	14.3%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	1	3.6%
7 その他	0	0.0%

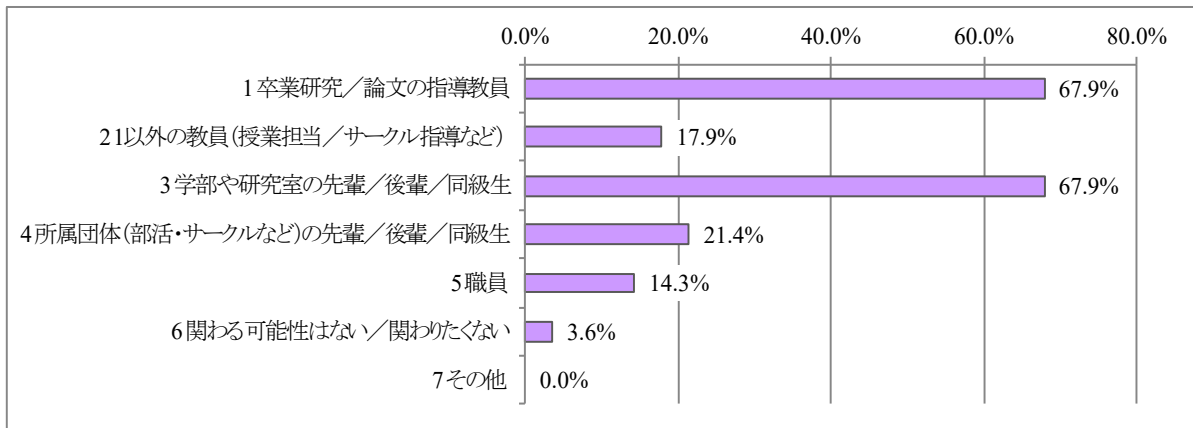


図 6-12 生物資源学部の卒業生（28名）の 大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者の割合

6.2 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（修了生）

大学院修了後の三重大学や三重大学の関係者との関わり方、大学院の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者について修了生にたずねた。まず、大学院修了後の三重大学や三重大学の関係者との関わり方に関する質問項目では、回答は4つの選択肢の中から1つを選択するように求めた。また、大学院の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者に関する質問項目では、7つの選択肢の中から自由に選択するように求めた。以下、各項目を選択した人数とその割合を算出した。

全修了生（65名）のうち、各項目を選択した人数とその割合を算出した。

まず、「三重大学や三重大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大学の卒業生が大学の関係者との関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は18.5%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は35.4%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は44.6%であった。これらの合計は98.5%であり、三重大学大学院の修了生が大学院の関係者との関わることにに対して肯定的に捉えていることが分かる。（表 6-13、図 6-13 を参照）

また、「大学院の関係者や出身者の中で今後関わることを予想される者に関する質問に対しては、「1 学位論文の指導教員」は70.8%、「2 1以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は20.0%、「3 研究科や研究室の先輩／後輩／同級生」は56.9%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は18.5%であった。つまり、教員との関係では、修了に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先され、出身者同士での関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向がある。また、教員との関わり（1と2）と出身者同士での関わり（3と4）とを比較すると、学部卒業生の場合とは反対に、教員との関わりの方を優先する傾向があった。一方、「職員」との関わりに関しては13.8%であり、学部卒業生の場合と比べると割合が若干高いものの、あまり予想されていないことが分かった。（表 6-13、図 6-13 を参照）

表 6-13 全修了生（65 名）の三重大学大学院や三重大学大学院の関係者との関わり方

	全修了生 (65名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	12	18.5%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	23	35.4%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	29	44.6%
4 できれば関わりたくない	1	1.5%

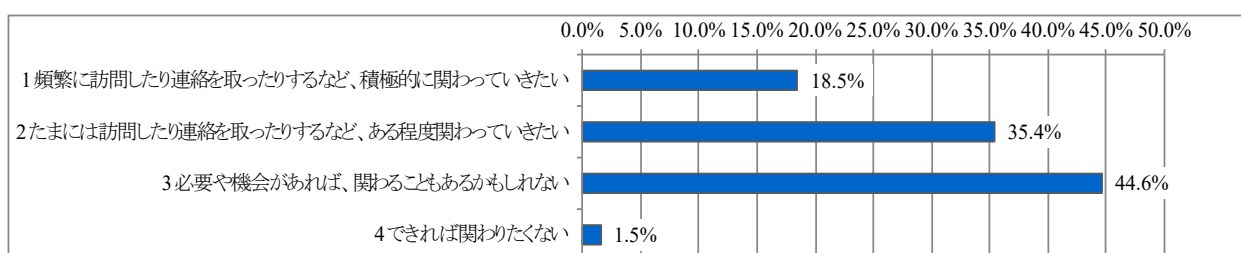


図 6-13 全修了生（65 名）の三重大学大学院や三重大学大学院の関係者との関わり方の割合

表 6-14 全修了生（65 名）の三重大学大学院の関係者や出身者の中で今後関わることを予想される者の割合

	全修了生 (65名中)	
	人	%
1 学位論文の指導教員	46	70.8%
2 1以外の教員(授業担当/サークル指導など)	13	20.0%
3 研究科や研究室の先輩/後輩/同級生	37	56.9%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩/後輩/同級生	12	18.5%
5 職員	9	13.8%
6 関わる可能性はない/関わりたくない	3	4.6%
7 その他	1	1.5%

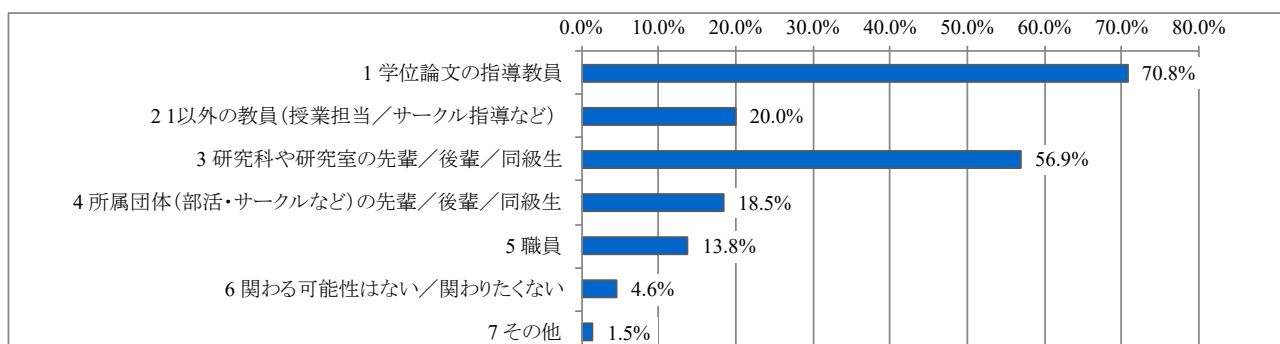


図 6-14 全修了生（65 名）の三重大学大学院の関係者や出身者の中で今後関わることを予想される者の割合

7. 三重大学で学びたいこと

7.1 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（卒業生）

三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいことについて卒業生にたずねた。回答は、8個の選択肢の中から自由に選択するように求めた。全卒業生及び卒業学部別に各項目を選択した人数とその割合を算出した。

7.1.1 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（全卒業生）

卒業生からの全回答（138名）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「8 これ以上学びたくない」は1.4%であり、ほとんどの卒業生は三重大学で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して最も高い割合となったのは、「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」で48.6%であった。また、次に高い割合となったのは、「3 仕事に役立つスキルの授業（パソコンスキル、資料作成スキルなど）」で29.7%であった。教育の提供方法に関する項目（5と6）に関しては、「5（継続した授業ではない）1回限りの講演会、体験会など」が20.3%であったのに対し、「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」は10.1%であった。

表 7-1 全卒業生（138名）の 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	全卒業生 (138名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	67	48.6%
2 幅広い教養を学ぶ授業	30	21.7%
3 仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	41	29.7%
4 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	18	13.0%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	28	20.3%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	14	10.1%
7 特に希望はない/思いつかない	23	16.7%
8 これ以上学びたくない	2	1.4%

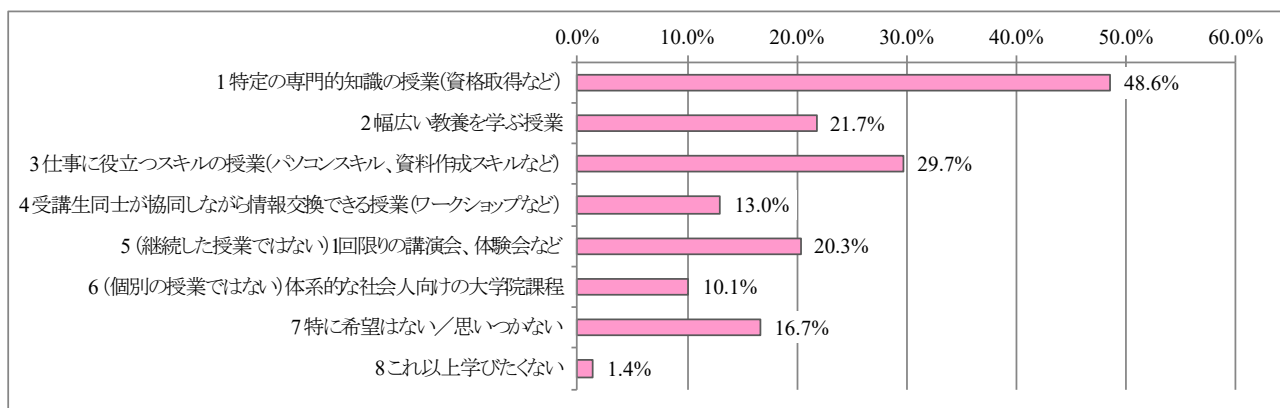


図 7-1 全卒業生（138 名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

7.1.2 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（人文学部卒業生）

人文学部の卒業生（28名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「8 これ以上学びたくない」という回答は0.0%で、人文学部の卒業生は三重大で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して最も回答割合が高かった項目は、「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」で53.6%、次に高かったのは、「2 幅広い教養を学ぶ授業」と「3 仕事に役立つスキルの授業（パソコンスキル、資料作成スキルなど）」でともに39.3%であった。教育の提供方法に関する項目（5と6）に関しては、「5（継続した授業ではない）1回限りの講演会、体験会など」と「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」がともに21.4%であった。

表 7-2 人文学部の卒業生（28名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	人文学部卒業生 (28名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	15	53.6%
2 幅広い教養を学ぶ授業	11	39.3%
3 仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	11	39.3%
4 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	4	14.3%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	6	21.4%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	6	21.4%
7 特に希望はない/思いつかない	2	7.1%
8 これ以上学びたくない	0	0.0%

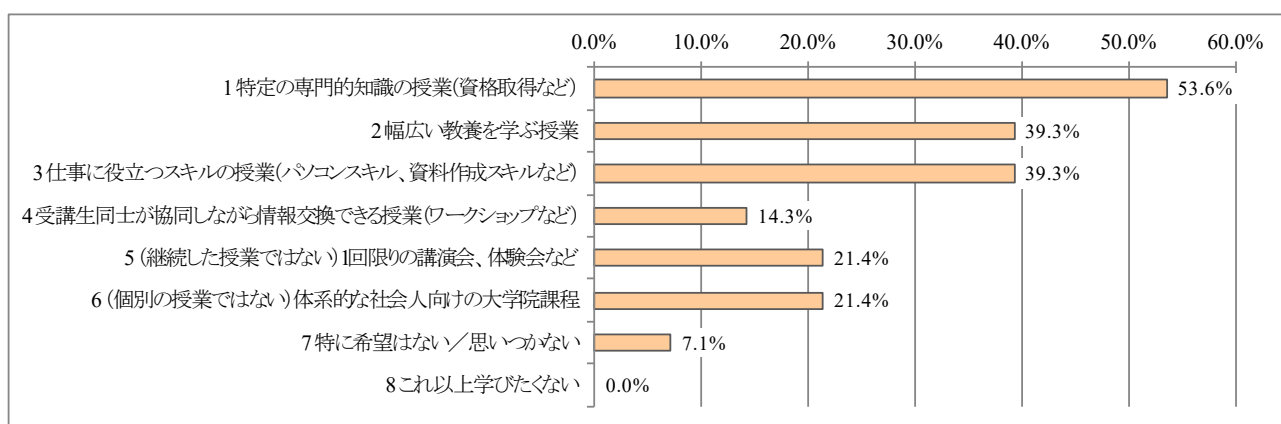


図 7-2 人文学部の卒業生（28名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

7.1.3 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（教育学部卒業生）

教育学部の卒業生（25名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「8 これ以上学びたくない」は4.0%で、ほとんどの教育学部の卒業生は三重大で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して最も回答割合が高かった項目は、「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」で56.0%であった。次に高かったのは、「3 仕事に役立つスキルの授業（パソコンスキル、資料作成スキルなど）」で28.0%であった。教育の提供方法に関する項目（5と6）に関しては、「5（継続した授業ではない）1回限りの講演会、体験会など」と「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」とがともに12.0%であった。

表 7-3 教育学部の卒業生（25名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	教育学部卒業生 (25名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	14	56.0%
2 幅広い教養を学ぶ授業	4	16.0%
3 仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	7	28.0%
4 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	3	12.0%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	3	12.0%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	3	12.0%
7 特に希望はない/思いつかない	1	4.0%
8 これ以上学びたくない	1	4.0%

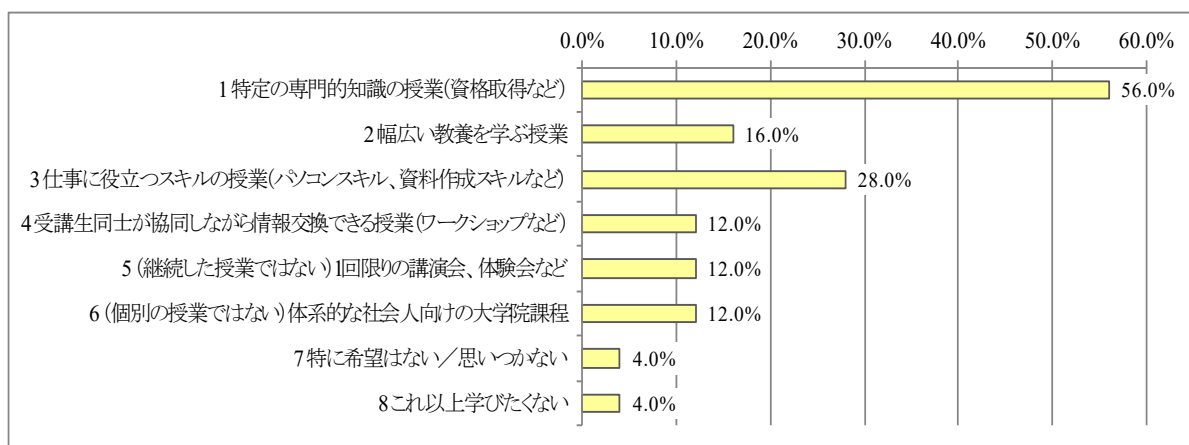


図 7-3 教育学部の卒業生（25名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

7.1.4 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（医学部卒業生）

医学部の卒業生（30名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「8 これ以上学びたくない」という回答は0.0%で、医学部の卒業生は三重大で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して最も回答割合が高かった項目は、「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」で全回答の46.7%を占め、次いで高かったのは「7 特に希望はない／思いつかない」という回答で33.3%であった。教育の提供方法に関する項目（5と6）に関しては、「5（継続した授業ではない）1回限りの講演会、体験会など」が16.7%であったのに対し、「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」は0.0%であった。

表 7-4 医学部の卒業生（30名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	医学部卒業生 (30名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	14	46.7%
2 幅広い教養を学ぶ授業	6	20.0%
3 仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	5	16.7%
4 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	3	10.0%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	5	16.7%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	0	0.0%
7 特に希望はない／思いつかない	10	33.3%
8 これ以上学びたくない	0	0.0%

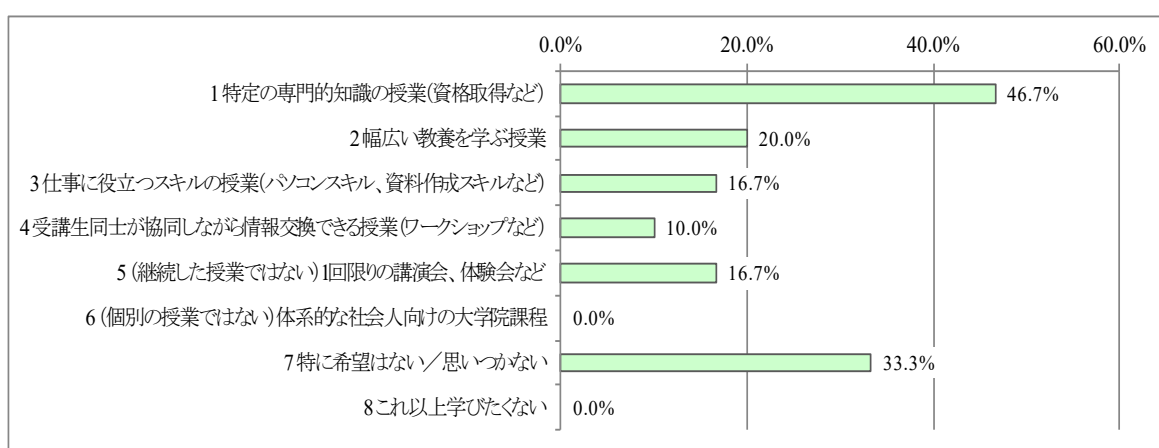


図 7-4 医学部の卒業生（30名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

7.1.5 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（工学部卒業生）

工学部の卒業生（27名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「8 これ以上学びたくない」という回答は3.7%で、ほとんどの工学部の卒業生は三重大学で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して最も回答割合が高かったのは、「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」で全回答の51.9%を占めた。次いで高かったのは、「3 仕事に役立つスキルの授業（パソコンスキル、資料作成スキルなど）」で37.0%であった。教育の提供方法に関する項目（5と6）に関しては、「5（継続した授業ではない）1回限りの講演会、体験会など」が22.2%であったのに対し、「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」は11.1%であった。

表 7-5 工学部の卒業生（27名）の 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	工学部卒業生 (27名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	14	51.9%
2 幅広い教養を学ぶ授業	4	14.8%
3 仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	10	37.0%
4 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	4	14.8%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	6	22.2%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	3	11.1%
7 特に希望はない/思いつかない	5	18.5%
8 これ以上学びたくない	1	3.7%

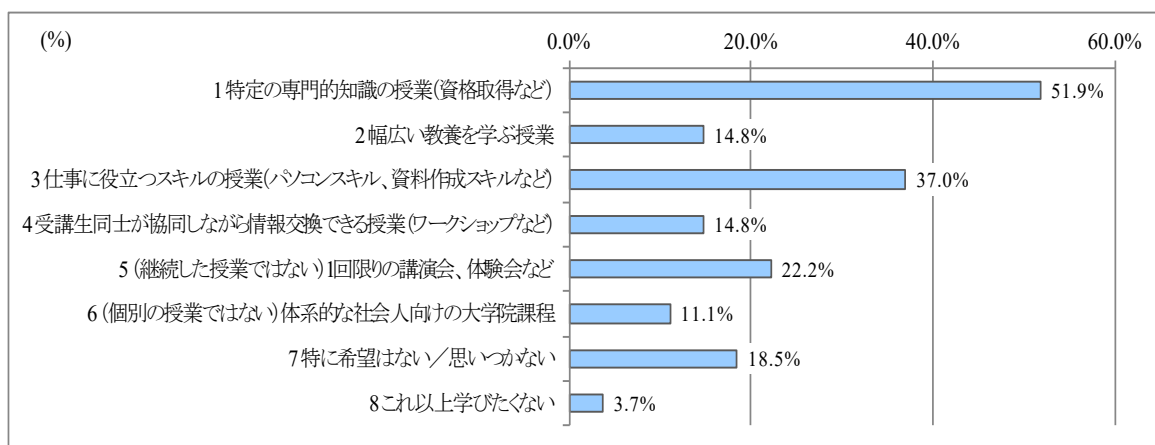


図 7-5 工学部の卒業生（27名）の 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

7.1.6 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（生物資源学部卒業生）

生物資源学部の卒業生（28名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「8 これ以上学びたくない」という回答は0.0%であり、生物資源学部の卒業生は三重大で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して最も回答割合が高かった項目は、「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」で35.7%であった。教育の提供方法に関する項目（5と6）に関しては、「5（継続した授業ではない）1回限りの講演会、体験会など」が28.6%であったのに対し、「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」は7.1%であった。

表 7-6 生物資源学部の卒業生（28名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	生物資源学部卒業生 (28名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	10	35.7%
2 幅広い教養を学ぶ授業	5	17.9%
3 仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	8	28.6%
4 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	4	14.3%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	8	28.6%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	2	7.1%
7 特に希望はない/思いつかない	5	17.9%
8 これ以上学びたくない	0	0.0%

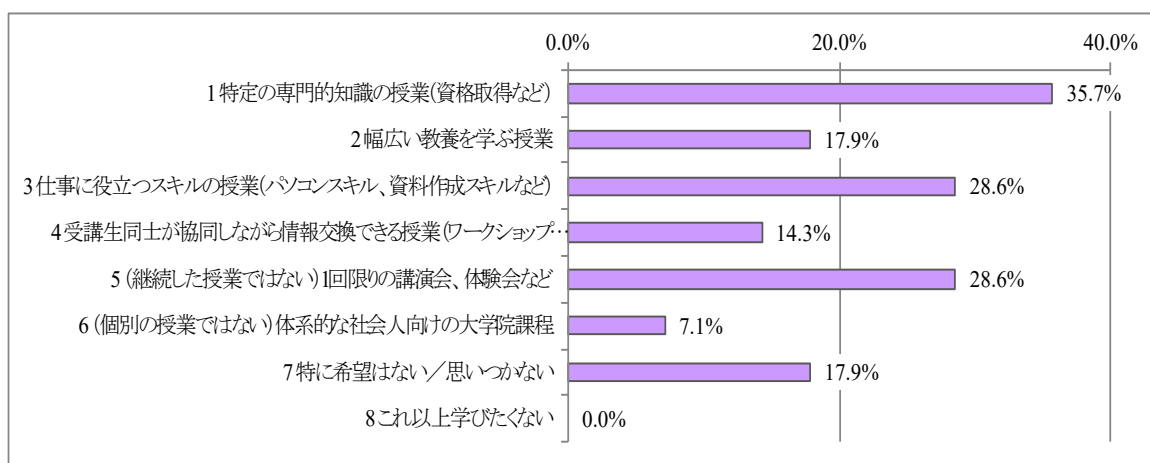


図 7-6 生物資源学部の卒業生（28名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

7.2 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（修了生）

三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいことについて大学院修了生にたずねた。回答は、8個の選択肢の中から自由に選択するように求めた。以下、全修了生（65名）のうち、各項目を選択した人数とその割合を算出した。

その結果、「8 これ以上学びたくない」という回答は0.0%であり、修了生は三重大、または、三重大大学院で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して最も回答割合が高かった項目は、「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」で全回答の52.3%を占めた。教育の提供方法に関する項目（5と6）に関しては、「5（継続した授業ではない）1回限りの講演会、体験会など」が26.2%であったのに対して、「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」は13.8%であった。

表 7-7 全修了生（65名）の 三重大、または、三重大大学院で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	全修了生 (65名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	34	52.3%
2 幅広い教養を学ぶ授業	19	29.2%
3 社会人として仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	16	24.6%
4 社会人として協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	8	12.3%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	17	26.2%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	9	13.8%
7 特に希望はない/思いつかない	13	20.0%
8 これ以上学びたくない	0	0.0%

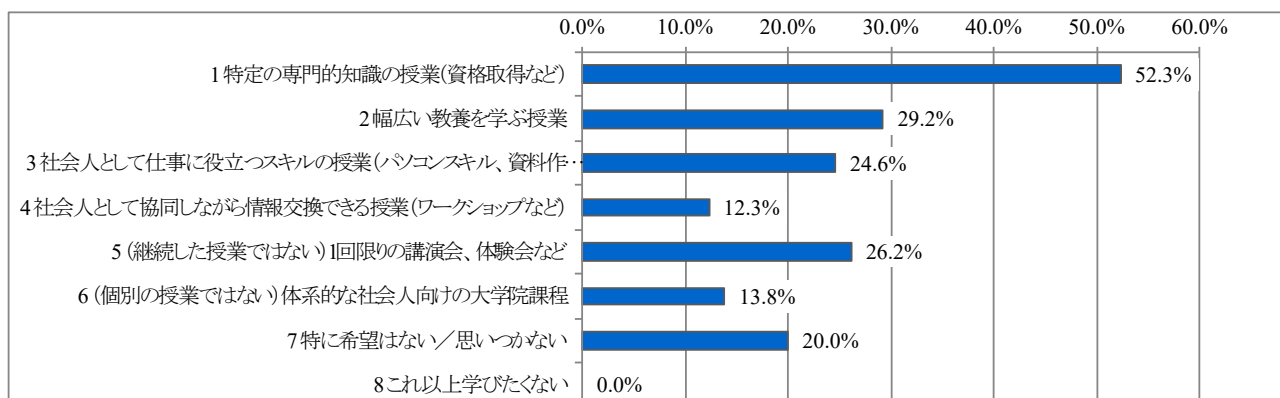


図 7-7 全修了生（65名）の 三重大、または、三重大大学院で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

－ 資料 －

アンケート用紙

卒業生対象

修了生対象

三重大学における大学教育についてのアンケート 卒業生用

※本調査票は御参考です。実際は google form にて実施します。

I. はじめに基本事項についてお聞きします。

以下について、記入又はあてはまるものに○をつけてください。

問1 在学中の所属 () 学部 () 学科・課程

問2 現在の職種 { 公務員 ・ 教職員 ・ 団体職員 ・ 一般企業
医療関係 ・ 自営業 ・ 大学院在学中
アルバイト ・ 無職 ・ その他 () }

問3 現在の居住地 [三重県 ・ 三重県外]

II. 三重大学の教育についてお聞きします。

問4 あなたが受けた三重大学の教育に関してどのくらい満足していますか。当てはまる数字に○をつけてください。

	非 常 に 不 満	不 満	や や 不 満	や や 満 足	満 足	非 常 に 満 足
1. 教育全般・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
2. 研究環境（文献、機器・研修水準など）・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
3. 進路支援（就職や進学、資格取得など）・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
4. 学習環境（図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など）	1	2	3	4	5	6
5. 学生生活に対するサポート・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
6. 教養教育の授業全般・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
7. 教養教育の語学系授業・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
8. 教養教育の情報系授業・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
9. 教養教育のキャリア系授業・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
10. 教養教育の保健体育関連授業・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
11. 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
12. 学部専門の授業・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
13. PBLなどの少人数課題探求型の授業・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
14. 現場体験実習やインターンシップなど・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
※ 以下は、経験した人のみお答えください。						
15. 理系基礎関係授業・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
16. 卒業研究指導・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6

問5 三重大学では、次に掲げる各要素からなる「4つの力」（「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」）を身に付けた学生に対して、学位を授与する方針を掲げています。あなたは三重大学の教育で「4つの力」の各要素が成長したと思われますか。当てはまる数字に○をつけてください。

	成長しなかった	わずかが成長した	少し成長した	ある程度成長した	かなり成長した
1. 感性「感じる力」	1	2	3	4	5
2. 共感「感じる力」	1	2	3	4	5
3. 主体性「感じる力」	1	2	3	4	5
4. 幅広い教養「考える力」	1	2	3	4	5
5. 専門知識・技術「考える力」	1	2	3	4	5
6. 論理的・批判的思考力「考える力」	1	2	3	4	5
7. 表現力（発表・討論・対話）「コミュニケーション力」	1	2	3	4	5
8. リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	1	2	3	4	5
9. 実践外国語力「コミュニケーション力」	1	2	3	4	5
10. 問題発見・解決力「生きる力」	1	2	3	4	5
11. 心身の健康に対する意識「生きる力」	1	2	3	4	5
12. 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	1	2	3	4	5

問6 三重大学の「4つの力」の各要素につき、大学卒業後の社会生活の場であなたが重要だと思うものすべてについて、チェックボックスへチェックを入れてください。

チェックを入れる項目はいくつでも構いません。 チェックを入れる例)

- | | | |
|--|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 感性 | <input type="checkbox"/> 2. 共感 | <input type="checkbox"/> 3. 主体性 |
| <input type="checkbox"/> 4. 幅広い教養 | <input type="checkbox"/> 5. 専門知識・技術 | <input type="checkbox"/> 6. 論理的・批判的思考力 |
| <input type="checkbox"/> 7. 表現力（発表・討論・対話） | | |
| <input type="checkbox"/> 8. リーダーシップ・フォロワーシップ | | |
| <input type="checkbox"/> 9. 実践外国語力 | <input type="checkbox"/> 10. 問題発見・解決力 | <input type="checkbox"/> 11. 心身の健康に対する意識 |
| <input type="checkbox"/> 12. 社会人としての態度・倫理観 | | |

問7 在学中に受講した授業のうち、大学を卒業してから自分に役立ったと思う授業※があればお書きください。覚えている授業名があれば記入してください。

※現在の仕事や学習、研究、生活などに役立ったと思う授業

問8 その授業のどのような点が役立ったと思いますか。

Ⅲ. 在学中の大学生活についてお聞きします。

問9 あなたが大学生活で重点を置いていたことを、以下の中から当てはまるものすべて、チェックボックスにチェックを入れてください。チェックを入れる項目はいくつでも構いません。
「その他」は他に記入したいことがあればチェックし記入してください。

- | | | |
|--|--|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 教養教育の授業 | <input type="checkbox"/> 2. 学部専門の授業 | <input type="checkbox"/> 3. 語学系の授業 |
| <input type="checkbox"/> 4. 情報の授業 | <input type="checkbox"/> 5. PBLに関連する授業 | <input type="checkbox"/> 6. 卒業研究 |
| <input type="checkbox"/> 7. ゼミ | <input type="checkbox"/> 8. 実習 | <input type="checkbox"/> 9. ボランティア |
| <input type="checkbox"/> 10. 留学 | <input type="checkbox"/> 11. クラブ・サークル | <input type="checkbox"/> 12. アルバイト |
| <input type="checkbox"/> 13. 学生自治活動 | <input type="checkbox"/> 13. インターンシップ | <input type="checkbox"/> 14. 就職活動 |
| <input type="checkbox"/> 15. 採用資格準備 | <input type="checkbox"/> 16. 専門学校 | <input type="checkbox"/> 17. レジャー |
| <input type="checkbox"/> 18. 副専攻（自分の専攻 <u>以外</u> の別の分野を履修すること） | <input type="checkbox"/> 19. その他（ ） | |

問10 あなたがこれから大学生活を始める後輩にアドバイスをすると仮定して、重点を置いたほうが
いいと伝えたいことについて、以下の中から当てはまるものすべて、チェックボックスに
チェックをいれてください。チェックを入れる項目はいくつでも構いません。
「その他」は他に記入したいことがあればチェックし記入してください。

- | | | |
|--|--|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 教養教育の授業 | <input type="checkbox"/> 2. 学部専門の授業 | <input type="checkbox"/> 3. 語学系の授業 |
| <input type="checkbox"/> 4. 情報の授業 | <input type="checkbox"/> 5. PBLに関連する授業 | <input type="checkbox"/> 6. 卒業研究 |
| <input type="checkbox"/> 7. ゼミ | <input type="checkbox"/> 8. 実習 | <input type="checkbox"/> 9. ボランティア |
| <input type="checkbox"/> 10. 留学 | <input type="checkbox"/> 11. クラブ・サークル | <input type="checkbox"/> 12. アルバイト |
| <input type="checkbox"/> 13. 学生自治活動 | <input type="checkbox"/> 13. インターンシップ | <input type="checkbox"/> 14. 就職活動 |
| <input type="checkbox"/> 15. 採用資格準備 | <input type="checkbox"/> 16. 専門学校 | <input type="checkbox"/> 17. レジャー |
| <input type="checkbox"/> 18. 副専攻（自分の専攻 <u>以外</u> の別の分野を履修すること） | <input type="checkbox"/> 19. その他（ ） | |

Ⅳ. 卒業後の三重大との関わりについてお聞きします。

問11 卒業後の三重大や三重大の関係者への関わりについて、あなたのお気持ちに一番近い項目に○をつけてください。

1. 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていきたい
2. たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていきたい
3. 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない
4. できれば関わりたくない

三重大学大学院における大学院教育についてのアンケート 修了生用

※本調査票は御参考です。実際は google form にて実施します。

I. はじめに基本事項についてお聞きします。

以下について、記入又は当てはまるものに○をつけてください。

問1 在学中の所属 () 研究科 () 専攻

問2 現在の職種 { 公務員 ・ 教職員 ・ 団体職員 ・ 一般企業
医療関係 ・ 自営業 ・ 大学院在学中
アルバイト ・ 無職 ・ その他 ()

問3 現在の居住地 [三重県 ・ 三重県外]

※学部から三重大学に在籍していた方は、学部での経験は含めずに大学院での経験についてお答えください。

II. 三重大学大学院の教育についてお聞きします。

		非 常 に 不 満	不 満	や や 不 満	や や 満 足	満 足	非 常 に 満 足
問4 あなたが受けた三重大学大学院の教育に関してどのくらい満足していますか。当てはまる数字に○をつけてください。							
1. 教育全般	1	2	3	4	5	6	
2. 研究環境（文献、機器・研修水準など）	1	2	3	4	5	6	
3. 大学院の授業科目構成	1	2	3	4	5	6	
4. 大学院の授業	1	2	3	4	5	6	
5. PBLなどの少人数課題探求型の授業	1	2	3	4	5	6	
6. 最先端の研究や高度専門知識の教授	1	2	3	4	5	6	
7. 現場体験実習やインターンシップなど	1	2	3	4	5	6	
8. 日常的な研究指導	1	2	3	4	5	6	
9. 学位論文指導	1	2	3	4	5	6	
10. 進路支援（就職や進学、資格取得など）	1	2	3	4	5	6	
11. 学習環境（図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など）	1	2	3	4	5	6	
12. 学生生活に対するサポート	1	2	3	4	5	6	

問5 三重大学大学院では、次に掲げる各要素からなる「4つの力」

(「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」)を身に付けた学生に対して、学位を授与する方針を掲げています。あなたは三重大学大学院の教育で「4つの力」の各要素が成長したと思われますか。当てはまる数字に○をつけてください。

	成長しなかった	わずかがだが成長した	少し成長した	ある程度成長した	かなり成長した
1. 感性「感じる力」	1	2	3	4	5
2. 共感「感じる力」	1	2	3	4	5
3. 主体性「感じる力」	1	2	3	4	5
4. 幅広い教養「考える力」	1	2	3	4	5
5. 専門知識・技術「考える力」	1	2	3	4	5
6. 論理的・批判的思考力「考える力」	1	2	3	4	5
7. 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	1	2	3	4	5
8. リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	1	2	3	4	5
9. 実践外国語力「コミュニケーション力」	1	2	3	4	5
10. 問題発見・解決力「生きる力」	1	2	3	4	5
11. 心身の健康に対する意識「生きる力」	1	2	3	4	5
12. 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	1	2	3	4	5

問6 三重大学大学院の「4つの力」の各要素につき、大学院卒業後の社会生活の場であなたが重要だと思うものすべてについて、チェックボックスへチェックを入れてください。

チェックを入れる項目はいくつでも構いません。(チェックを入れる例) ☑

1. 感性 2. 共感 3. 主体性
 4. 幅広い教養 5. 専門知識・技術 6. 論理的・批判的思考力
 7. 表現力(発表・討論・対話)
 8. リーダーシップ・フォロワーシップ
 9. 実践外国語力 10. 問題発見・解決力 11. 心身の健康に対する意識
 12. 社会人としての態度・倫理観

問7 在学中に受講した授業のうち、大学院を卒業してから自分に役立ったと思う授業※があればお書きください。覚えていない授業名があれば記入してください。

※現在の仕事や学習、研究、生活などに役立ったと思う授業

問8 その授業のどのような点が役立ったと思いますか。

Ⅲ. 在学中の大学院生活についてお聞きします。

問 9 あなたが大学院生活で重点を置いていたことを、以下の中から当てはまるものすべて、チェックボックスにチェックを入れてください。チェックを入れる項目はいくつでも構いません。「その他」は他に記入したいことがあればチェックし記入してください。

- | | | |
|--|--|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 大学院の授業 | <input type="checkbox"/> 2. PBLに関連する授業 | <input type="checkbox"/> 3. 学位論文 |
| <input type="checkbox"/> 4. 研究活動 | <input type="checkbox"/> 5. ゼミ | <input type="checkbox"/> 6. 実習 |
| <input type="checkbox"/> 7. ボランティア | <input type="checkbox"/> 8. 留学 | <input type="checkbox"/> 9. クラブ・サークル |
| <input type="checkbox"/> 10. アルバイト | <input type="checkbox"/> 11. 学生自治活動 | <input type="checkbox"/> 12. 就職活動 |
| <input type="checkbox"/> 13. 採用資格準備 | <input type="checkbox"/> 13. 専門学校 | <input type="checkbox"/> 14. レジャー |
| <input type="checkbox"/> 15. 副専攻（自分の専攻 <u>以外</u> の別の分野を履修すること） | <input type="checkbox"/> 16. その他（ ） | |

問 10 あなたがこれから大学院生活を始める後輩にアドバイスをすると仮定して、重点を置いたほうがいいと伝えたいことについて、以下の中から当てはまるものすべて、チェックボックスにチェックを入れてください。チェックを入れる項目はいくつでも構いません。「その他」は他に記入したいことがあればチェックし記入してください。

- | | | |
|--|--|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 大学院の授業 | <input type="checkbox"/> 2. PBLに関連する授業 | <input type="checkbox"/> 3. 学位論文 |
| <input type="checkbox"/> 4. 研究活動 | <input type="checkbox"/> 5. ゼミ | <input type="checkbox"/> 6. 実習 |
| <input type="checkbox"/> 7. ボランティア | <input type="checkbox"/> 8. 留学 | <input type="checkbox"/> 9. クラブ・サークル |
| <input type="checkbox"/> 10. アルバイト | <input type="checkbox"/> 11. 学生自治活動 | <input type="checkbox"/> 12. 就職活動 |
| <input type="checkbox"/> 13. 採用資格準備 | <input type="checkbox"/> 13. 専門学校 | <input type="checkbox"/> 14. レジャー |
| <input type="checkbox"/> 15. 副専攻（自分の専攻 <u>以外</u> の別の分野を履修すること） | <input type="checkbox"/> 16. その他（ ） | |

Ⅳ. 大学院修了後の三重大学大学院との関わりについてお聞きします。

問 11 修了後の三重大学大学院や大学院関係者への関わりについて、あなたのお気持ちに一番近い項目に○をつけてください。

1. 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていきたい
2. たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていきたい
3. 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない
4. できれば関わりたくない

